会報

No.61

２０２６年３月

川崎市立小学校長会

小学校教育研究会

小学校学校経営研究会

目　　次

『川崎市制101年目、大きな潮流のなか、足元と未来を見据える川崎の小学校教育をめざして』
会　長　小林　勝弘…… 4
『子供を主役にした学びの推進』
川崎市教育委員会　教育長　落合　　隆…… 5

川崎市立小学校長会
活動方針・重点課題…… 6
役員・組織分担表・小学校一覧表…… 8
小学校教育の充実発展に関する意見交換会の経過…… 10
小学校長会の歩み…… 12
支部だより…… 14
専門研究会議・教育課題研究会議・特別委員会活動報告…… 31
研究・研修参加報告…… 43
記念行事…… 46
退会会員のことば…… 55
新会員のことば…… 63
元会員のことば…… 66
小学校長会規約…… 68

川崎市小学校教育研究会
役員・組織分担表（神奈川県小学校教育研究会川崎市役員名簿）…… 74
川崎市小学校教育研究会活動方針…… 76

川崎市立小学校学校経営研究会
学校経営上の諸問題…… 81
学校経営研究報告…… 82
研究会規程…… 103

編集後記…… 104

表紙題字・デザイン
元小田小学校　宮川友二朗

『川崎市制101年目、大きな潮流のなか、足元と未来を見据える川崎の小学校教育をめざして』

川崎市立小学校長会　会長　**小林　勝弘**

川崎市制100周年をお祝いし、地域の素晴らしさや歴史の重さを改めて認識した令和6年度。そして、迎えた101年目。心機一転、新たな一歩を踏み出した令和7年度。幸区に新小倉小学校が開校となり、市立小学校は115校となりました。各校、教員不足という状況下ではありますが、教育課程を工夫したり、教員の働き方・仕事の進め方改革を積極的にすすめたりするなど、創意工夫を重ねて、学校経営を行ってまいりました。

さて、校長会は、今年度も研究主題を「夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営」とし、その実現に向けて4つの活動の重点と14の具体的な取組をあげ、各研究会議・特別委員会・支部校長会議等を通じて活動を進めています。現在、学校を取り巻く環境は厳しさを増しています。特に、教員の欠員・未充足については、危機的状況となっており、なかなか改善の兆しが見られない現状があります。その他にも、経験の浅い教員が増える中での人材育成、いじめ・不登校・別室対策等の児童指導や保護者対応、働き方・仕事の進め方改革の推進等々学校が取り組まなければならない課題が山積しています。この4月、全市校長会議の中で、主に次のことを大切にしていこうと話しました。

①情報提供・情報共有に努める
②パワハラ、セクハラ等ハラスメント厳禁
③新小倉小や新任校長を支える
④研究団体として、研究を深める
⑤自然教室の新展開を注視する
⑥小学校教育研究会との連携
⑦新教育プランの動向を意識する
⑧次世代を育てる
⑨管理職の仕事がいいと思えるように
⑩教頭を支える

そんな今年度、中央教育審議会教育課程企画特別部会から論点整理が出され、次期学習指導要領に向けた基本的な考え方が示されました。その中には、「主体的･対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「インターフェイス」「フィルターバブル」「エコーチェンバー」など、きちんと読みこなさないとわからない言葉で表現されているところもあり、今何が大切なのか考えながら読まないと流されてしまう印象を受けました。また、調整授業時数制度の創設など、新たな学校の姿も提案されています。

これらの考え方を一人一人がきちんと理解し、川崎市の教員が、教職にやりがいを感じられるような、そして、次世代が川崎市を選んで良かったと思ってもらえるような魅力に溢れた小学校教育を目指していきたいと考えます。そのために、まずは私たちがこれまで積み上げてきた成果を大切にし、そして抱えている課題にしっかりと向き合うことで足元を見つめ、将来の姿をみんなで語り合い、同じ方向を向いて歩んでいくことが大切かと思います。

これまでも一緒に歩んできた小学校教育研究会とさらに結束を固め、互いの特性を生かしながら、川崎の子どもたちのために質の高い教育活動を進め、更なる教育の充実発展に努めていきたいと考えています。

今年度教育長も代わり、来年度教育プランも一新されます。それに伴い、来年度の研究主題も一新する予定です。どんな時代が来ても、しっかりと足元と未来を見つめ、小学校115人の校長が心を1つにして、同じ方向を向いて進んでいきたい。今後も、川崎市立小学校長会が川崎の子どもたちのよりよい成長のために、協力して活動していけたらと思います。

『子供を主役にした学びの推進』

川崎市教育委員会　教育長　**落合　隆**

昨年、川崎市は市制100周年という歴史的な節目を迎えました。この記念すべき節目は川崎の歴史を振り返り、先人の努力や功績に深く感謝するとともに、川崎の発展の礎である、様々な人や文化を温かく受け入れ育んできた、多様性という価値を改めて感じることができ、次の100年へとつなげる素晴らしい機会となりました。

また、全国緑化かわさきフェアなどの多彩な事業が展開され、各学校では様々な記念事業に御協力いただき、子どもたちと喜びを分かち合うことができたことにも心から感謝申し上げます。

次の100年に向けて、子どもたちのより良い未来を育むために、引き続き校長先生方のお力添えをお願いいたします。

さて、現行の学習指導要領が小学校で全面実施されたのは令和２年度ですが、昨年、次期学習指導要領の策定に向け、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」が、中教審に諮問されました。これまで通りの流れで行くと、令和12年には新しい学習指導要領が小学校で全面実施になる見込みです。現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ばとあるので、「主体的・対話的で深い学び」は、これからも継続されていくのではないかと思われます。

現在、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まるとともに、社会の在り方そのものが急激に変化する可能性があり、変化の先行きを見通すことが一層難しくなってきています。

所信表明の中でも申しましたが、社会情勢が急速に変化し、学校や教員に求められることも変わってきていると感じますが、どのような時代が来ようと、予測困難な時代を生きる子どもたち、そして持続可能な社会の担い手となる子どもたちをしっかり育てていくことが大切だと思っています。

近年、「指示されたことはできるが、自分で考えて仕事が進められない」、「自分の考えが持てず、多数意見に流される」、「夢や希望が持てない」といった、若い人の課題を聞くことがあります。また、子どもたちを取り巻く環境も変化し、自分で課題を解決していく力が育まれにくい環境にもなっています。自己決定をせずに与えられることが当たり前になってしまえば、主体性は育ちません。さらに、子どもたちが教員に指示された活動をするだけでは、その主体性は育ちにくく、学校が楽しくなくなるのではないか感じます。だからこそ、子どもたちが「学びの主役」として、自分たちで学校を創り上げていくことが大切であると考え、「わくわく・ドキドキ感」という言葉を所信表明で使いました。

私が考える「わくわく・ドキドキ感」を大切にした教育活動とは、子どもたちが夢中になり「どうしてだろう」、「不思議だな」という気持ちを高められる学習や、よく考え、他者との違いを尊重し合いながら、自分の思考を深めていく教育活動を指すものです。

例えば「こんな運動会にしたい」、「学校のルールを考えてみる」といった子どもたちの思いや「なぜ」、「どうして」という子どもたちの疑問から始まる教育活動を、各学校の創意工夫のもとで実践していくことが「わくわく・ドキドキ感」につながっていくものと考えています。

子どもたちの思いや声を形にした体験活動を行い、好きなこと、夢中になれることに粘り強く取り組む経験は、子どもたちの自信となり、自己肯定感を高めていくと思います。

学校が、子どもたちや子どもたちを見守る大人たちの「わくわく・ドキドキ感」を高める場となるとともに、子どもたちが主役となって学校を創り上げていくことを、これからも期待しております。

子どもたちが夢中になり、「どうして」、「不思議だな」という気持ちを高められる学習や、よく考え、考えを出し合い、他者との違いを感じ、互いを尊重し合いながら、自分の思考を深めていく教育活動を進めるべきです。

令和７年度

小学校教育の充実発展を期する 活動方針・方向性並びに重点課題

Ⅰ．活動方針

１　研究主題と設定の理由

今日の学校の在り方として「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と学習指導要領の前文に示されている。そのために必要な教育の在り方を具体化するのが各学校における教育課程であり、責任者となって編成する役目を担うのは校長である。子どもたちの夢や希望を育む教育を実現させるためには、教育課程の編成とともに、それを支える人的・物的な環境を組織的・計画的に整えることが不可欠であると考え、研究活動を進めてきた。

大規模災害や感染症への対応、脱炭素社会の実現、社会のデジタル化、「持続可能な開発目標（SDGs）」の社会への浸透、Society5.0 の進展、ウェルビーイングの向上など、本市を取り巻く環境は、急激に変化している。学校教育においてもその変化を的確に捉えた取組が求められており、学校経営を担っている校長が未来へのビジョンをもちリーダーシップを発揮することが、一層必要となってくる。そのため、小学校長会は子どもたちの夢や希望を育む教育の実現を目指し研究を継続している。

そして、学習指導要領の理念を実現する教育の在り方として「令和の日本型学校教育」を念頭に、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適・協働的学びの一体的充実をめざし、研究を推進していく。併せて、子どもたちの多様化するニーズや命を守る取組に対応していくためにも、教職員が心身ともに健康を維持しやりがいや誇りをもちながら本来的な業務に一層専念できる環境を整え、課題の解決につながるよう各支部や各研究会議等において情報共有を図り、互いに支え合いながら研究活動を継続していく。

以上のことから、小学校長会では、変化の激しい社会を生き抜く子どもたちに必要な教育を目指し、次のような研究主題を設定した。

◆研究主題

夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営

この研究主題は、川崎市における人権尊重の精神を基盤とし、子どもたちがこれからの時代を生きていく力を育てていくための教育の具現化を図ることをめざしたものである。小学校長会では、これまでもかわさき教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進し、子どもたちの豊かな人生を願ってきた。

どのような状況の中でも「夢や希望」は、すべての人々が明日へ進んでいく原動力となるものである。子どもたちには、自分が描いた夢や希望に向かっていくことで、「今の自分」に価値や意味を見いださせたい。そして、たとえ思いどおりにならなかったり、回り道をしたりすることがあっても、そのことを新たな未来につなげていける子どもたちを育てていきたいと考えている。自分たちに未来という時間があることを信じ、互いを大切にしながら、自分の周りの世界に関心を広げ、自分の人生を創っていく力を育みたい。それらのことに携わるすべての人々も「夢や希望」をもってほしいと願っている。

「個の自立と、共に生きる力を育む」とは、様々な変化が予想される社会の中で、自立の心をもち、自ら考え、判断し、問題を解決しながら、新しい道を見いだす子どもたちを育んでいくことと考える。さらに多様な人々と協働しながら、考える力や感性、自分の思いを伝える力、意見や考えの違う人と共に学び合う力、未経験のことに好奇心をもって取り組む力を育てていくことでもある。また、心のよりどころとして、今年、市制 101 年目として新たな一歩を踏み出すふるさと川崎への愛着を深め、将来に向けての社会参画の力を育成するという視点も大切であると考えている。

以上のことを踏まえて、令和７年度の活動の重点を次のように定め、小学校長会の総力をあげて、学校経営の責任者として果たすべき役割と指導性を明らかにして取り組んでいきたい。

＜活動の重点＞

（１）社会の変化に対応できる学校づくり
（２）学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実
（３）協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり
（４）充実した学校運営のための体制の構築

２　活動の重点と具体的な取組

（１）社会の変化に対応できる学校づくり

①外国につながる児童、性的マイノリティ等を含む人権尊重を基盤とした学校の対応
②いじめ、不登校等、児童支援全般に係る課題への対応
③特別支援教育に係る課題への対応
④学校の現状にあったDX化への対応と安全で効率的な運用の実現

（２）学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実

①かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進
②かわさきGIGAスクール構想に基づいた児童の可能性を最大限に引き出すための授業改善の推進
③「川崎市教員育成指標」に基づいた教職員の育成とそのための研究・研修体制の構築

（３）協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり

①学校防災対策指針に基づいた各学校の学校安全計画（危機管理マニュアル）等の実効性の向上
②長期保全計画の早期着工、修理・営繕の迅速な対応
③学校運営におけるリスクマネジメント（服務・情報管理等）の向上

（４）充実した学校運営のための体制の構築

①時代のニーズに即した教育課程の検討
②教育課程の実施に必要な人的・物的な体制の確立と改善
③会員の資質・能力の向上に資する学校経営研究の充実
④会議・出張の在り方や連合行事の見直し等を含む校務効率化の推進

３　組織運営の重点

時代の変化に伴い、校長会の在り方も変革を求められている。様々な教育課題に対し、今後の動向を見据えた的確で迅速な対応ができる組織を構築していく。

○現在の研究会議、特別委員会、各種委員会を、常設の「専門研究会議」、概ね１年から２年程度の期間限定で設置する「教育課題研究会議」、活動時期が限定される「特別委員会」「各種委員会」に整理する。引き継ぎの状況や活動内容に応じて、区ごとの配分や構成人数を柔軟に設定する。配分等については企画会議で検討し、運営会議で確認する。
○各支部・研究会議等の取組や研究を活用し、教育条件や教育課題の改善・解決を図るため教育経営推進会議を推進し、学校経営の充実を図る。
○教育経営推進会議を中心に各研究会議等の研究・提案を踏まえて意見を集約し、川崎市教育委員会事務局と連携しながら、教育改革や働き方・仕事の進め方改革を推進する。
○効率的な小学校長会運営と実効性のある各組織の活動方針・年間計画を策定する。
○支部ごとの情報交換を一層推進し課題を共有し改善・解決を図るため、川崎市教育委員会事務局や地域みまもり支援センター、危機管理担当等区役所との連携を強化する。

令和７年度　川崎市立小学校長会役員並びに組織分担表

会長	小林　勝弘
副会長	森島　美子　　山川　佳美　　五十嵐　聡
書記	辰口　直美　　南谷　隆行
会計	中野　正明　　五十嵐　忍
顧問	小林　達也　　川村　雅昭　　西村勇一郎
会計監査	鈴木みどり　　紙屋　智子　　柴田　薫
支部長	結城　俊一（総括）　滝澤慎一郎　　清水　弘彦　　小林　智子 中川　正彦　　羽深　　東　　柴田　雅之
専門研究会議	陸田由喜子　　安藤　勉　　松沢　隆　　後藤美智子 関口　真弓　　小碇　早苗　　今　広道　　宮原千恵子
教育課題研究会議	棟居　謙
県校長会役員	齊野　保史（副会長） 小川　幸（会計部長）　小久保裕之（会計監査）
県常任委員会	今野　忠　　井上　清一　　西村勇一郎　　松浦　徹
役員候補者推薦委員	結城　俊一　　西村　和恵　　滝澤慎一郎　　小碇　早苗　　清水　弘彦 五十嵐礼子　　小林　智子　　押田　春美　　中川　正彦　　丸尾　明彦 羽深　東　　江良　真一　　柴田　雅之　　袴田　深雪

○専門研究会議

	研修	情報	行事	行財政	現職教育	特別支援教育	危機管理	人権・児童指導
座長	陸田	安藤	松沢	後藤美	関口	小碇	今	宮原
担当役員	中野	南谷	山川	辰口	五十嵐忍	五十嵐聡	五十嵐聡	森島
川崎区	楠田・西村	中原	坂東	後藤美	関口・山口	北・紙屋	佐藤・仙田	上野・若狭
幸区	田中康・筒井	安藤	勝俣	本田	渡部	小碇	宝谷	柴田薫
中原区	陸田・小久保	近藤	山田・小林達	伊藤和	梶・吉村	松原・滝澤純	二川	菊地・横山
高津区	飯塚・高木	平井	鶴見	近清	中尾	吉野	押田	米倉・松澤
宮前区	藤中・藤原	田中克	松沢	菅原	伊藤肇・後藤香	秋山・吾妻	丸尾	山本
多摩区	江良・田中亜	青木	猊倉	西田	首藤	富谷	今	宮原
麻生区	福岡・後藤智	樋口	大曽根	中西	朝比奈・芦刈	鈴木	齋野裕・支倉	小堤・末武
合計	14	8	8	7	11	10	9	11

	学校体制改善
座長	棟居
担当役員	山川
川崎区	川村
幸区	滝口
中原区	五十嵐礼
高津区	栃木彰
宮前区	小林美
多摩区	棟居
麻生区	長嶺・袴田
合計	8

役員担当区
山川・五十嵐聡
中野
辰口
南谷
森島・五十嵐忍
五十嵐忍
森島

こころの劇場	通知表	学習状況調査
森島	南谷	小川・神宮
山川・五十嵐忍		辰口・堀江
上野・若狭	関口	坂東
小碇・柴田薫	筒井	小川
清水・滝澤純	陸田	横山
鶴見・吉野	大泉	近清
松沢・吾妻	西村勇	伊藤肇
西田・棟居	栃木達	猊倉
袴田・大曽根	中西	長嶺
14	7	7

小　学　校　一　覧

区	No.	校　名	校　長
川崎区	1	殿　町	紙屋　智子
	2	四　谷	川村　雅昭
	3	東門前	今野　忠
	4	大　師	北　良介
	5	川中島	後藤美智子
	6	藤　崎	上野　和美
	7	さくら	治田　直美
	8	大　島	西村　和恵
	9	渡　田	仙田　清孝
	10	東小田	坂東　修
	11	小　田	関口　真弓
	12	浅　田	堀江　広志
	13	東大島	結城　俊一
	14	向	若狭　美加
	15	田　島	中原　義郎
	16	新　町	楠田　典子
	17	旭　町	山口　嘉徳
	18	宮　前	五十嵐　聡
	19	川　崎	山川　佳美
	20	京　町	佐藤　茂樹
幸区	21	幸　町	筒井　愛子
	22	南河原	宝谷　拓之
	23	御　幸	滝口　太志
	24	西御幸	柴田　薫
	25	戸　手	本田　明子
	26	古　川	石塚　全
	27	東小倉	安藤　勉
	28	下平間	勝俣久美子
	29	古市場	小碇　早苗
	30	日　吉	中野　正明
	31	小　倉	滝澤慎一郎
	32	南加瀬	渡部　陽子
	33	夢見ヶ崎	小川　幸
	34	新小倉	田中　康子
中原区	35	下河原	菊地美和子
	36	平　間	五十嵐礼子
	37	玉　川	井上　清一
	38	下沼部	清水　弘彦
	39	苅　宿	小久保裕之
中原区	40	木　月	二川　義明
	41	東住吉	伊藤　和江
	42	住　吉	近藤由起子
	43	井　田	松原　晴美
	44	今　井	梶　康子
	45	上丸子	横山　里恵
	46	西丸子	吉村あかね
	47	中　原	小林　達也
	48	宮　内	陸田由喜子
	49	大　戸	滝澤　純子
	50	下小田中	安斎　陽子
	51	新　城	辰口　直美
	52	大谷戸	緑川　葉子
	53	小　杉	山田　朗生
高津区	54	子母口	南谷　隆行
	55	橘	中尾由美子
	56	末　長	吉野　晶子
	57	新　作	高木　栄二
	58	東高津	米倉　竜司
	59	坂　戸	押田　春美
	60	久　本	松澤ゆかり
	61	下作延	大泉　文人
	62	高　津	飯塚　正行
	63	梶ヶ谷	近清えり子
	64	西梶ヶ谷	鶴見　悦子
	65	久　末	齊野　保史
	66	上作延	栃木　彰子
	67	南　原	平井　育子
	68	久　地	小林　智子
宮前区	69	野　川	伊藤　肇
	70	西野川	神宮　祥恵
	71	南野川	西村勇一郎
	72	宮　崎	田中　克義
	73	鷺　沼	小林　美代
	74	有　馬	吾妻　典子
	75	西有馬	丸尾　明彦
	76	富士見台	中川　正彦
	77	宮前平	後藤　香織
	78	宮崎台	森島　美子
宮前区	79	向　丘	秋山　直子
	80	平	松沢　隆
	81	白幡台	五十嵐　忍
	82	菅　生	藤中　大洋
	83	稗　原	菅原　隆宏
	84	犬　蔵	藤原由布子
	85	土　橋	山本　直
多摩区	86	稲　田	青木あゆ子
	87	長　尾	松浦　徹
	88	宿河原	田中亜希子
	89	登　戸	棟居　謙
	90	中野島	今　広道
	91	下布田	富谷　千春
	92	東　菅	栃木　達也
	93	南　菅	宮原千恵子
	94	西　菅	小林　勝弘
	95	菅	首藤　弘明
	96	東生田	猊倉　正樹
	97	三　田	西田　裕子
	98	生　田	江良　真一
	99	南生田	羽深　東
麻生区	100	長　沢	中西　憲子
	101	西生田	樋口　彰
	102	千代ヶ丘	柴田　雅之
	103	金　程	芦刈　竜哉
	104	百合丘	長嶺　祐介
	105	南百合丘	福岡　雄二
	106	麻　生	末武由布子
	107	東柿生	後藤　智春
	108	王禅寺中央	小堤　紀子
	109	真福寺	鈴木みどり
	110	虹ヶ丘	井上　恵子
	111	柿　生	支倉　圭太
	112	岡　上	齊野　裕子
	113	片　平	朝比奈　浩
	114	栗木台	袴田　深雪
	115	はるひ野	大曽根　実

小学校教育の充実発展に関する意見交換会の経過

1　はじめに

川崎市立小学校長会は、基本理念「夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営」を掲げ、本市における人権尊重の精神を基盤とし、子どもたちが、これからの時代を生き抜く力を育てていくための教育の実現を図ることを目指している。かわさき教育プランの基本理念や基本目標を絶えず意識し、教育課程の見直しや時代へのニーズに柔軟に対応しながら、市内の全ての子どもたちの豊かな未来を願って学校運営を行っている。本市の小学校教育が更なる発展を遂げていくためにも教育課程の編成や工夫、働き方・仕事の進め方改革の推進をし、一人ひとりの Well-being が向上するように取り組んでいきたいと考えている。そのためには、学校運営を担っている校長同士が情報共有・情報提供をしながら、リーダーシップを発揮することがより一層必要となる。学校が、多様な子どもたちが安心して学べる場となるように、教職員がやりがいをもって働ける場となるように、これまで以上に川崎市教育委員会事務局と連携していくことが大切であると考えている。

2　意見交換会の経過

第１回　　７月24日（木）意見交換会・情報交換会　南庁舎５階　教育委員会室
第２回　　11月27日（木）意見交換会　南庁舎５階　教育委員会室

3　第１回意見交換会での話し合いの概要（下線を中心に話し合った）

重点１　社会の変化に対応できる学校づくり

<u>①外国につながる児童、性的マイノリティー等を含む人権尊重を基盤とした学校の対応</u>
<u>②いじめ、不登校、コロナ禍を過ごした児童の心身への影響等、児童支援全般に係る課題への対応</u>
③特別支援教育に係る課題への対応
④学校の現状にあった DX 化への対応と安全で効率的な運用の実現

〈事務局より〉

外国籍の児童の増加による、国際教室が増えている。その対応として、初期支援を必要とする児童が増加している。川崎市は他都市と比較しても初期支援の回数は多いが、初期支援を行う人材の育成が必要であると考えている。また、児童だけでなく保護者支援も必要となっているのが現状である。

不登校の児童への対応や、通級指導教室のニーズが高まっている。人の問題と環境の問題があり難しいが、学校支援ができるように検討していきたい。

重点２　学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実

⑤かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進
⑥かわさき GIGA スクール構想に基づいた児童の可能性を最大限に引き出すための授業改善の推進
<u>⑦「川崎市教員育成指標」に基づいた教職員の育成と研究・研修体制の構築</u>

〈事務局より〉

小教研活動に係る教職員の服務上の扱いについては、土日開催行事の出張を一部認める。他の出張に関しても検討していきたい。ワークライフバランスを考えながら取り組んで欲しい。小教研の活動とセンターのライフステージに応じた研修は、教員のスキルアップの両輪だと考えている。非常に重要な役割を担ってもらっている。

重点３　協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり

<u>⑧学校防災対策指針に基づいた各学校の安全計画（危機管理マニュアル）等の実効性の向上</u>
<u>⑨長期保全計画の早期着工、修理・営繕の迅速な対応</u>
⑩学校運営におけるリスクマネジメント（服務・情報管理等）の向上

〈事務局より〉

防災の取組について、学校防災対策指針に基づいた各学校の危機管理マニュアルをより現実的なも

のにブラッシュアップしていかなければならない。液状化の問題やマンホールトイレの設置など、危機管理本部との情報共有が必要になる。

学校施設の工事の遅れが出てきている。給食室のエアコンがない学校の対策を進めている。また、教室のエアコンは令和10年度までに入れ替えを行う予定。

重点４　充実した学校運営のための体制の構築

⑪社会のニーズに即した教育課程の検討

⑫教育課程の実施に必要な人的・物的な体制の確立と改善

⑬会員の資質・能力の向上に資する学校経営研究の充実

⑭会議・出張の在り方や連合行事の見直し等を含む校務効率化の推進

〈事務局より〉

授業時数は各学校の校長裁量権となっている。各学校の実態を情報共有しながら、基本的な考え方を一緒にすり合わせできると良い。ある程度基本となるものを作っていきたい。水泳学習の民間活用については、民間プールを使用している学校の授業への参加率が上がっている。今後も進めていきたい。朝の居場所については、今後検討していく必要があると考えている。

4　第２回意見交換会での話し合いの概要

第１回意見交換会･情報交換会を受けて、「次世代が魅力を感じる川崎の小学校教育」を大きな柱とし、校長会現職教育研究会議が実施した若手教員へのアンケートの結果もとにして教員不足の解消に向けた意見交換をした。

◯若手教員の育成

・先が見通せない不安が負担感に　時間の使い方に苦慮　業務改善と授業改善は若手育成の両輪

・中学校と比べて、小学校は着任後すぐに担任になることが負担感を助長している

・将来的には低学年への専科配置も検討　現在は未充足解消が最優先

・チーム担任制については積極的にトライしていく姿勢

◯その他、次期教育プラン等

・不当要求行為等対応マニュアル（カスハラ対策）

・朝の見守り　学校の管理下に置かないが基本方針　学校と市教委と一緒に考えていきたい

・外国につながる児童と保護者

人材不足　個別指導から集団へのスムーズな移行　地域差

子どもも保護者も日本語がわからないケース等

・不登校対策

市教委が支援する学校を増やしてほしい⇒ゆくゆくは全校配置

人の配置と場所の配置の両面で考えていく必要あり

・休憩時間の確保

各学校で休憩時間を意識する取り組みを（職員室内に掲示、保護者に周知する等）

休憩時間が示されていても、休憩時間になっていない現状

5　おわりに

小学校長会は、小学校教育研究会と連携しながら小学校教育のさらなる発展を目指している。

意見交換会の中で、教育委員会事務局から「これまでの常識から離れて、思い切った発想で取り組むことが必要」、「働き方・仕事の進め方改革と教員不足の解消は喫緊の課題であり、事務局と学校とでこれまで以上に連携を密に図り、不退転の覚悟で推進していく。」との言葉を受けた。

変化の激しい社会を生き抜く子どもたちに必要な教育、夢や希望を育む教育を推進するためには、これからも教育委員会事務局と意見交換や情報交換を密にして、より一層連携を図っていくことが大切である。

令和７年度　小学校長会の歩み

小学校長会は、平成20年度より「豊かな子ども時代を創り出す学校経営」を研究主題とし活動を進めてきた。川崎市における人権尊重の精神を基盤としながら「子どもは小さな大人ではない、また、未熟な人でもない。子どもは子どもとして社会生活を送っている。だからこそ、子どもが子どもである時代は、誰にとってもかけがえのないもの」という考えのもと設定された。

平成26年度からは、この子ども時代を大切にする理念を踏襲しつつ、今後の10年先を見通した子どもたちを考え、新しい時代にあった研究主題として、「夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営」と設定し、活動を進めてきた。

この研究主題も、川崎市における人権尊重の精神を基盤とし、子どもたちが変化の激しい社会を生き抜く力を育てていくための教育の具現化を図ることを目指したものである。また、小学校長会では、「かわさき教育プラン」の基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進し、子どもたちの豊かな人生を願い、調査・研究も続けてきている。

活動の重点として、

1　社会の変化に対応できる学校づくり
2　学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実
3　協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり
4　充実した学校運営のための体制の構築を掲げ、それぞれに具体的な方法を考え、調査・研究を進めてきた。

組織は昨年度に引き続き、８つの専門研究会議とし、教育課題研究会議には、学校体制改善研究会議を設置し、今日的教育課題に対応していく運営組織として構成している。

令和５年度の５月より新型コロナウィルス感染症の扱いが２類から５類になったことで、学校生活での多くの制限がなくなり、教育活動の幅が広がり、コロナ禍前の状況に戻りつつある。しかしながら、働き方改革や業務改善の視点も加味し、すべてのことをコロナ禍前と同じように行っていくことは控えていこうという流れになってきている。

小学校長会主催で昭和36年に始まった日光修学旅行は、令和２年度で60周年を迎えたが、新型コロナウィルスの影響で中止せざるを得ない状況となり、代替行事として「卒業よみうりランド思い出ツアー」を実施した。令和３年度から５年度の修学旅行は、感染症予防対策を万全に施しての実施となった。

また、GIGAスクール構想が令和元年に国から打ち出され、新型コロナウィルス感染症の拡大で一人一台の端末及び高速大容量ネットワークの整備が一気に実現された。それに伴い、学習環境が大きく変わってきたが、一人一台の端末は、予測困難な時代を生きていく子どもたちが必要とされる力を付けていくために、多くの可能性を有し、個の支援、学びの保障につながるともいわれている。今年度から、端末の利活用のステップ３の段階を継続しながら、子どもたちのために、より良い授業や活動を考えていきたい。

川崎市は、令和６年７月に市制100周年を迎え、今年度から「新しいはじまりを、さあ、いっしょに。」のキャッチコピーのもと未来へ向けた次の一歩を踏み出した。そして４月に市内115校目の小学校として新小倉小学校が「新しい自分をつくる 未来をつくる」の学校教育目標を掲げて開校し、12月には開校記念式典が開催された。

これから先も予測できないことが起こりうるということを肝に銘じ、小学校長会は７支部においてコロナ禍を乗り越えてきた経験を生かしながら、市教育委員会事務局とより連携を密にし、的確な対応ができる組織として活動していけるようにする。

令和の日本型学校教育の実現に向け、子どもの学びを最大限に保障することを前提にしながら、115校の校長が一丸となって、校長会としての活動を推進していきたい。

令和７年度小学校長会活動内容概要

◇４月
○拡大企画会議（２日）
○企画会議（８日）
・令和７年度の運営について
・全市校長会議・総会に向けて
・合同研究会議について
◎全市校長会議・総会（９日）
・令和６年度事業報告及び決算報告
・令和７年度活動方針
・教育経営推進会議の構成
○合同研究会議（10 日）
○企画会議・運営会議（17 日）
・５月全市校長会議・総会に向けて
○教育経営推進会議（30 日）

◇５月
◎全市校長会議・総会（２日）
・令和７年度事業計画
・令和７年度予算
○企画会議・運営会議（12 日）
○専門研究会議・教育課題研究会議

◇６月
○企画会議・運営会議（９日）
○専門研究会議・教育課題研究会議
○企画会議（30 日）
○教育経営推進会議（30 日）

◇７月
◎全市校長会議（３日）
・令和７年度教育経営意見書承認
○教育経営意見書配付（中旬）
○第１回教育経営意見交換会（24 日）
・情報交換会
○専門研究会議・教育課題研究会議

◇８月
○企画会議・運営会議（18 日）

◇９月
◎全市校長会議（１日）
・第１回教育経営意見交換会報告
○企画会議・運営会議（５日）
○専門研究会議・教育課題研究会議

◇10 月
○企画会議・運営会議（３日）
○専門研究会議・教育課題研究会議
○企画会議・運営会議（31 日）

◇11 月
○活動方針起草委員会（10 日）
以降適宜開催
○専門研究会議・教育課題研究会議
○企画会議・運営会議（21 日）
○第２回教育経営意見交換会（27 日）

◇12 月
◎全市校長会議（5 日）
・第２回教育経営意見交換会報告
○企画会議・運営会議（12 日）
○役員候補者推薦委員会　以降適宜開催
○専門研究会議・教育課題研究会議

◇１月
○企画会議・運営会議（7 日）
○企画会議・運営会議（20 日）
○専門研究会議・教育課題研究会議

◇２月
○企画会議・運営会議（2 日）
◎全市校長会議（6 日）
・令和７年度教育経営推進会議まとめ
・令和７年度校長会活動まとめ
・令和７年度活動方針起草委員会報告
・令和７年度各支部学校経営研究報告
・令和８年度役員・会計監査選出承認
○専門研究会議・教育課題研究会議

◇３月
○専門研究会議・教育課題研究会議
○企画会議（26 日）
・新旧役員引継ぎと令和８年度準備
○会報 61 号発行

（書記・南谷）

支部だより

川 崎 支 部

東大島小・結城

今年度、浅田小・野澤聡校長、新町小・加賀田校長、旭町小・添野校長の３名の方が勇退された。そして、渡田小・楠田校長が新町小へ、川中島小・堀江校長が浅田小へそれぞれ転任された。また、川中島小・後藤校長が戸手小より着任された。

新任校長として、渡田小･仙田校長、旭町小･山口校長が、ご昇任された。学校経営研究のテーマは、「充実した学校運営のための体制の構築～校内研究を通した人材育成を考える～」である。川崎区はどの学校も経験年数が、10 年未満の教職員が多く、どのように人材を育成していくのかということは大きな課題である。一人一人の教職員が自信をもって自分自身の役割を担っていけるようにするためどのような対応や意識改変が必要なのか、校内研究の在り方を通して考えていく。

◆殿町小　本校は全学年２学級、なかよし級４学級編成で、児童数は 294 名である。今年度は算数の研究推進校となり、「じっくり考えて豊かに伝え合おう」を研究主題に､数学的な見方･考え方を意識した授業づくりに取り組む。分かる授業、気持ちのよいあいさつや言葉遣いを今年度の重点目標とし、地域とのかかわりを大切にしながら、「明日も學校に来たくなる、ずっとこの町に住みたいと思う」児童を目指していきたい。

◆四谷小　本校は、今年度、創立 72 周年を迎えた、児童数 357 名の学校である。地域や保護者の方々の温かい支援を受けながら、子どもたちは、日々、元気に学校生活を送っている。今年度の校内研究のテーマとして、「思いや考えを豊かに表現する子」を掲げ、国語科を通して、テーマの具現化に向けて、教職員一丸となって研究に取り組んでいる。これからも様々な実践を通して、心豊かな子に育ってほしいと願っている。

◆東門前小　子どもが主役の学校づくりを目指し、教職員と保護者、地域と連携しながら取り組んでいる。子どもたち一人ひとりがなりたい自分を目指し、自分の得意なことや好きなことに熱中し、夢をもってもらいたいと考えている。教職員も専門性や特技を生かし、子どもたちに夢を育む教育活動を展開している。校内研究では３年間、算数を研究している。子ども同士が伝え合うことを通して「なるほど」「それもいいね」とお互いの考えを認めあえる非認知能力も育てている。

◆大師小　「歴史に残そう！大師の笑顔」をスローガンにして、児童が主役となる学校づくりを目指している。学校教育目標「豊かな心をもち、たくましく生きる児童の育成」のもと、地域に根差した学校を目指し、日々児童の育成に努めている。児童一人一人を大切にした支援教育に重点を置き、情報共有を密にし、複数の目で、子どもたちの状況を把握し、チームとして支援を考え実施していきたい。

◆川中島小　「子どもが主役」という言葉を大切にして、一人一人の児童が輝く学校運営を進めている。本校は、平成 18 年度からコミュニティ・スクールとして「川っ子は　かしこく　やさしく　自分らしく」を合言葉に、学校、家庭、地域が共に手を携え合いながら「地域の中の学校づくり」を推進している。地域の教育力を活かしながら、子どもたちが自信と誇りをもって生活ができるよう、チーム川中島として取り組んでいきたい。

◆藤崎小　今年度「つないでいこう光り輝く藤っこプライド」というスローガンのもと、70 周年を迎える。「藤崎小学びの羅針盤 2025」を作成し、全職員が共通の認識のもと、631 名の子どもたちの資質能力の育成に向け教育活動を行っている。また、LGBTQ など多様性や自らもっている権利などを全学年が系統的に学んでいく「F プラン」など、人権教育に力を入れている。子どもたちが生きる力をつけていけるように力を尽くしていきたい。

◆さくら小　「さくらっ子の笑顔は NO1 ～ちがいを生かし、共に育つ子の育成～」の学校教育目標のもと、田島支援学校さくら分教室とともに日々の教育活動に取り組んでいる。人権尊重教育実践推進校として、障害のあるなし、多文化、異年齢など児童一人一人のもつちがいや良

さを生かし合いながら、共に学び育つ喜びを感じ合える子を育むことを目指している。今年度から「思いや考えを、自分の言葉で豊かに表現できる子」をテーマに、学級活動を通した言語活動の充実を目指して研究を進めていく。

◆大島小　昨年度に創立100周年を迎えた。学校目標「あしたも行きたくなる学校」の創造に向けて教職員と児童、地域で新たな一歩を踏み出し取り組んでいる。「自分にYes！（自己肯定感の育成）」「わからないからはじめよう（学習意欲の育成）」「あなたがいたからわたしもできた（共生・協働の精神の育成）」は、児童に育みたい力である。13年間継続し積み重ねてきた生活・総合の校内研究を生かし、チーム大島で丁寧に育みたい。

◆渡田小　創立97周年を迎えた今年度の児童数は690名で、ここしばらくは減少傾向が見込まれている。昨年度に続き1年生が3クラス編成となり、支援級も含めた28学級となった。本校は地域・PTAとの強い絆や、渡っ子のコミュニケーション能力の高さという強みを生かした学校教育を展開している。校内研究では、令和5年度から算数の研究を行っている。今年度は「『なるほど!!!』で『つながり』学ぶ子～やったれ　渡っ子算数～」を研究テーマに既習内容や他教科、生活経験との「つながり」を意識しながら「なるほど」と思える場面のある学習を進めることで、多様な考えに気づきながら学びを深めていく子供を目指して取り組んでいる。

◆東小田小　本年、創立70周年そしてコミュニティ・スクールとして20年目という大きな節目を迎える。「子どもが元気　地域が元気　笑顔輝く　東小田」というコミュニティスローガンのもと、全校児童数293名という小さな学校ではあるが、様々な行事を通して地域と学校とのつながりを大切にしている。学校教育目標『あなたが主役の学校』を実現するため、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「地域に根ざした特色のある学校づくり」に教職員一同、精一杯取り組んでいきたい。

◆小田小　学校教育目標の「考える力、感じる心、たくましい心と体」の実現に向け、「笑顔いっぱい、元気いっぱい、ほっと！な小田小」のスローガンのもとに、子どもたちが楽しく笑顔いっぱいで安心して生活できる学校を目指して学校運営を行っている。今年度、創立152周年を迎える。全校児童数は544名。昨年度からスタートする国語の研究を通して授業力を磨き、子どもたちが学ぶことが楽しいと感じられるようにしていきたい。

◆浅田小　今年度の児童数、316名。各学年2学級と支援級4学級、全16学級のアットホームな学校である。創立73年を迎え、新たな10年に向け歩み出している浅田小の自慢は、毎朝子どもたちが元気に「おはようございます」と大きな声で挨拶をしてくれること。町内会の方々も登下校の見守りをしてくださり、地域、保護者とともに協力して子どもたちの安全・安心のため取り組みながら子どもに寄り添い、子どもの側に立った支援を目指している。

◆東大島小　児童数234人、13学級（通常級10, 支援級3）で、令和7年度がスタートした。本校は、きょうだい班活動（縦割り班活動）を主軸としている。学校教育目標「明るくたくましい生き方のできる人間の育成」を掲げ、めざす子ども像を「進んで学ぶ子　心やさしい子　たくましい子」とし、日々の教育活動を進めている。今年度は創立70周年を迎え、「未来へ走れ！笑顔でつなぐ70周年」というスローガンを子どもたちと決めた。全校でお祝いをするといとともに、学校を愛し、地域を愛する心を大切にできるよう、記念事業を盛り上げていきたい。

◆向小　学校教育目標「すすんで学ぶ子・思いやりの心をもつ子・健やかに育つ子」にむかって、子どもたちが個々の力を伸ばし、支え合い、心を育て、健やかに成長していくことを目指している。一昨年度より「学び合いを通して、主体的に学ぶ子を目指して」という研究テーマとし、授業改善を図っている。今年は「主体的に活動する学校」ということをもう一歩掘り下げて考えていく。学校運営の重点に、基礎基本の定着を図っていくための支援の仕方や、不登校児童への学習保証、体と心の土台作りを具体的な取り組みとして加えた。

◆田島小　本校は明治10年に開校。2027年実施予定の150周年記念式典にむけた諸準備も、少しずつ進んでいる。地域住民・保護者の中には、本校の卒業生という方も多く、様々な教育

活動に、温かなご支援をいただいている。延期されていた大規模修繕工事も、今年度で終了する予定である。新しく生まれ変わる校舎とともに、子ども達のため地域住民・保護者の方と連携しながら田島小学校を前進させていく。

◆新町小　本校は児童数320名の小規模校だが、広い校庭があり、子どもたちはのびのびと遊ぶことができる。校舎に沿って伸びる緑道公園からは鳥の鳴き声と爽やかな風が運ばれ、時折聞こえる南武支線の電車や貨物列車の走る音も耳に心地よい。校章のデザインのモチーフでもある「まがたま」を学校教育目標に掲げ、校歌にあるように「足音も高らかに」子どもたちが毎日学ぶことを楽しみに通ってくる学校を目指し、日々の教育活動を行っている。昨年度整備した総合的な学習の単元を、今年度は授業実践を通して検証し、新町の子の思いやりの心や伝え合う力をさらに育てていきたい。

◆旭町小　「話し合おう　発信しよう　よりよくしよう～みんなといっしょに話し合って課題解決できる子～」をテーマに研究に取り組んでいる。また、「かわさきGIGAスクール構想推進協力校」として、GIGAスクール構想の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にむけた授業の推進にGIGA端末の効果的に活用した授業実践に努めていく。令和７年度は創立100周年を迎えるため、学校・保護者・地域で気持ちを合わせて盛り上げていきたいと考えている。

◆宮前小　創立105年目の今年度は児童数696名28学級でスタートした。外国籍児童は約200名を超え、国際教室在籍は70名が目前です。今年度から音楽教育研究推進校として「音でつながるみんながつながる　自分の思いを奏でよう」をテーマのもと研究を進めていく。全校集会、たてわり活動等を中心とした異学年交流を積極的に進め、多様性を力とした豊かな学校生活の創造を図っていきたい。

◆川崎小　学校教育目標「よく考える子・思いやりのある子・健康でたくましい子・やりぬく子」を実現するために、経営方針を「いい表情の子を育む」としている。また、「受容」と共感」を基盤にしてよりよい集団づくりに取り組んでいる。日々の授業そして活動の中で、「誰もが安心して過ごせるような集団」「みんながよりよくなることに喜びを感じられる集団」をつくりあげていきたい。にと「受容」と「共感」を大切にしていきたい。そして、子どもたちがよき未来の創り手となる「資質・能力」を培っていきたい。

◆京町小　令和７年度は、全校児童342名でスタートした。校歌の一節「喜びいっぱい、胸いっぱい、夢いっぱい」の通り、学校は子どもたちの明るい笑顔と元気な声で溢れている。
子どもたちは、自分たちが立てた新たな目標に向かって、自分なりの方法で、自分なりのペースで歩み始めている。教職員は、子どもたちの自己有用感や達成感、ともに支え合い・高め合う喜びを味わえるように、保護者や地域の方々と連携して教育活動に取り組んでいる。

幸　支　部

小倉小・滝澤

これまで幸支部を支えてくださった幸町小学校の黒田 徹校長、古川小学校の田中 仁浩校長がご勇退された。また、戸手小学校の後藤 美智子校長が川崎区の川中島小学校に異動となった。新たに、幸町小学校に中原区の西丸子小学校より筒井 愛子校長、戸手小学校に宮前区の有馬小学校より本田 明子校長、古川小学校に教育政策室より石塚 全校長、新たに開校した新小倉小学校に学校教育部より田中 康子校長が着任した。今年度より幸支部は14校体制となった。小規模ながら、それぞれの経験やアイデアを基に日頃から様々な情報を共有することで温かなチームワークを醸成し幸区の充実を図っていきたい。

支部研究テーマ～「業務改善」と「働き方改革」を効果的に進めるには～として、今日の学校現場には多種多様な業務が存在している。全てではないが、時には、教員が対応すべき内容なのか判断に戸惑う事案に出会うことがある。しかし、発信元が行政機関や教育関係機関になると、疑うこともせず、強い使命感の下、それぞれの担当者が懸命に対応するのである。その姿が常態課しており、このままでは多種多様な業務は増える一方で、教員の業務負担はかさむばかりである。そこで、仕事内容を精査していくことで現在、大量にある同様な調査や報告書等の書類作成も減るのではないかと考えた。さ

らには、教員不足が叫ばれる中「子供のため」「子供が好きだから」「やり甲斐があるから」といった志望理由は大変尊いものではあるが、それだけでは長期的に且つ安心して従事できる環境ではないように感じる。働く環境整備は避けては通れないものである。多様な働き方を許容し、互いに協力してつくり上げる労働環境について、校長としてどのようなことができるのかを検証していきたい。

◆幸町小　川崎駅西口の一帯を学区とする本校は、２年後の令和９年度に創立100周年を迎える。昔ながらの懐かしい川崎の雰囲気と、開発が進む現代的な雰囲気の両方を併せもつ、「便利なのにとても落ち着く地域」である。12町会の皆様の温かいご支援とご協力に支えられ、本年度は児童数605名で穏やかにスタートした。「やさしく　かしこく　たくましく」の教育目標は、「や・か・た」の合言葉で子供たちにも親しまれ、教職員は元気いっぱいに、最高のチームワークで子供に向き合い、教育活動を進めている。

◆南河原小　創立87年目を迎える本校は「明るく 強く 正しく」の学校目標の具現化に向けて、地域に開かれた学校を目指し、教職員が一丸となって教育活動を推進している。今年度で３年目となる「リーディングＤＸスクール事業」の指定校として教育実践を展開するとともに、文部科学省から研究開発をする学校の指定を受け、新設教科「学び方」の時間を通して、どの学習にも通ずる基礎基本の充実を図る。南河原中学校、更に今年度からは新小倉小学校とも連携し、事業を展開していく。教育実践の成果を市内並びに全国に発信していく。

◆御幸小　創立152年。「やさしく　かしこく　たくましい子」の育成を学校教育目標とし、保護者や地域の皆様の協力を得ながら、どの学年も、学年の児童を全体で指導する（学年の和）どの子も、職員全体で同じ指導ができる。（学校の和）を大切に教育活動を推進している。校内研究では、昨年度より、社会科教育の推進校として「自ら学び　思いを深める御幸の子」をテーマに日々実践に励んでいる。12月には全市に向けて報告会を行う。

◆西御幸小　創立69年目。53年前から「陶芸窯のある学校」として歴史を積み上げ、誇りをもち、陶芸活動を楽しんでいる。小規模校でアットホームな校風の中、明るく、優しい子どもたちや教職員の笑顔に包まれている。来年度創立70周年を迎える。周年テーマ「みんなで手をとり輝こう未来につなげる西ファミリー」のもと、皆が期待する年に向けて、各自が動き出し、盛り上がりを見せている。子どもたちも教職員も『自分たちが創る自分たちの学校』をめざし、主体力や協働力を育みながら、一緒に成長している。

◆戸手小　学校教育目標は「豊かな心をもち主体的に生きる子どもを育てる」。令和７年度は児童数463名でスタートした。戸手っ子は、素直で明るく優しい児童が多い。外遊びも大好きで、元気に学校生活を送っている。令和７・８年度は研究推進校として特別活動の研究に取り組む。研究デーマを「心をはぐくみ　仲間と共につくる戸手小」とし、児童の主体的・協働的な活動を通して学校生活がより楽しく豊かなものになることを目指す。

◆古川小　地域の方が学校に協力的である。学校運営協議会は２年目を迎え、協議会委員を増員し、地域の方の力をお借りしながら、地域とともにある学校づくりをさらに推進している。授業では、わかる授業・楽しい授業づくりを目指し、年度前半でGIGAの研修を行い、職員全体でスキルアップ、ブラッシュアップを図り、後半の公開授業では研修・研究の成果を確かめていきたい。学校全体としては、笑顔あふれる楽しい学校を基本に、子どもたちに少しでも多くのことを任せる、子どもが主体の学校づくりを目指している。

◆東小倉小　新小倉小学校の開校に伴い児童数が減少し、688名でのスタートとなった。創立41年目の一歩に向けて、児童会の子供たちが考えたスローガンは、「自分からチャレンジ！　みんなで協力！　笑顔いっぱい東小倉っ子！」。地域の方に支えられている学びも多いが、子供たちができることを地域に返す活動、地域貢献活動も増えてきた。これからも地域とともに成長していくことを大事にしていく。

◆下平間小　創立67年。教育目標「学び合い高め合いみんなでよくなる下平間」のもと、素直で学校が大好きな516名の子どもたちが、明

るく健やかに育っている。

20年以上続けているたてわり活動は、地域や保護者から高く評価され、子どもたちの自慢の一つとなっている。今年度よりスポーツフェスティバルを秋に開催することとし、学年行事等の見直しを図っている。職員のチームワークもよく、教職員全員で子どもの成長を育みながら、笑顔で登校できる学校を目指している。

◆古市場小　今年度、創立78年目を迎える本校は「やさしく かしこく たくましく」を学校教育目標として418名でスタートした。「国語科」を校内研究に位置付けて3年目となる。「自ら進んで伝え、相手の思いを受け止めて主体的に関わり合おう」を研究テーマに、主体的・協働的な学びの中で伝え合う力を育てていきたい。教職員は「子供の笑顔は職員室から」を合言葉に、職員室のあちらこちらから笑い声が聞こえてくる明るい雰囲気である。今年度は初任者2名を迎え、昨年度に引き続き校内での研修を充実させながら、若手の育成を推進していく。また、今年度も、保護者・地域の力を借りながら、学校と一体となり子供を育てる「地域とともにある学校」を目指していく。

◆日吉小　「豊かな人間性を持ちたくましく生きる子　元気・やる気・思いやり」を学校教育目標として、今年度1066名でスタートした。

校内研究では、「自ら進んで学び合う子」をテーマに子どもたちにつけたい力を「気づく力」「広げる力」とし、算数科の研究（2年目）に取り組んでいる。刻々と変わる世の中の変化やグローバル化に対応することができるように、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育みながら、今年度も地域とともに歩む学校づくりを目指していく。

◆小倉小　『自分をつくる』『ともに学ぶ』『成長を感じる』を学校教育目標に掲げ、全校児童722名でスタートした。昨年度、創立70周年となり「小倉プライド」を合言葉に、子ども達の主体的・協働的な学びにつなげてきた。日頃から地域の皆さんから多大なご協力を賜り、無事に記念行事等を催すことができた。71年目の今年度はこれまでに培ってきた伝統や文化を大切に継承し、来る80年、90年、100年へと繋げていきたい。そして、すべての子どもが「元気に学校へ来て　元気に家へ帰る」姿が常態化する学校づくりに努めていきたい。

◆南加瀬小　学校教育目標をもとに、今年度も「思いやり、進んで学び、くじけない　地域と育つ南加瀬」というキャッチフレーズを掲げ、全校児童480名でスタートした。学校教育目標を具現化すべく、今年度は算数科の校内研究に取り組む。「安心・安全な学校」の土台となる児童理解・学級経営に力を入れながら、授業改善や読書活動の推進に取り組んでいく。また、一人ひとりの児童に多くの教職員が関わることを大切にし、教科担任制や交換授業を継続し、「チーム南加瀬」の協働体制をさらに高めていきたい。

◆夢見ヶ崎小　学校教育目標「心身ともに健やかで思いやりのある児童の育成」を目指して、児童が主体となる授業改善、児童会活動等に意欲的に取り組んでいる。人とのかかわり合いを大切にし、子どもたちの学びを深めていきたい。長年取り組んでいるたてわり班での交流活動により、高学年のリーダーシップや、他学年を思い合う気持ちが育まれている。あたたかい地域の方々にいつも見守られていて、地域と学校が一体となってゆめみっ子たちの健やかな育成に取り組んでいる。

◆新小倉小　令和7年4月開校。「新しい自分をつくる　未来をつくる」を学校教育目標とし、1年生から6年生までの535名でスタートした。新しい時代を主体的に乗り越え豊かな人生を切り拓く力、自分のよさや可能性を認め、多様性を尊重し、協働しながら高め合う力を身につけていけるような教育活動を目指している。かわさきGIGAスクール構想推進協力校、文部科学省が推進するリーディングDX指定校として、GIGA端末やクラウド環境を生かした効果的な教育実践を創出し、普及・展開できるよう取組を進めていく。通学区域が学校周辺の集合住宅のみであるため、学校施設有効活用事業や地域防災等で地域に開かれた学校づくりに意識的に取り組んでいきたい。

中 原 支 部

下沼部小・清水

緑豊かな自然の広がる風景と、タワーマンションを始めとする都市的な風景のどちらも見られる中原区の特徴は、そのまま川崎市の特徴でもある。中原区は今年区制52年目を迎えた。区内19校ある小学校では、それぞれの地域の特徴を生かし、各校長が学校経営を推進している。

今年度は木月小の金田玉恵校長と東住吉小の片山純子校長、下小田中小の八幡博子校長がご勇退された。

また玉川小の辰口直美校長が中原区新城小に、上丸子小の西田寛校長が教育委員会教職員人事課担当部長に、西丸子小の筒井愛子校長が幸区幸町小に、小杉小の吾妻典子校長が有馬小に転任された。

また東柿生小の井上清一校長が玉川小に、宮前平小二川義明校長が木月小に、着任された。また上丸子小の横山里恵校長、小杉小の山田朗生校長が自校昇任された。

また東住吉小の伊藤和江校長が高津小から、西丸子小の吉村あかね校長が登戸小から、下小田中小の安斎陽子校長が教育委員会教育政策室からそれぞれ昇任された。

学校経営研究のテーマは「チームで行う人材育成」をテーマによりよい職場の在り方を目指し、①心理的安全性（ウェルビーング･安心感）②人材育成（授業改善を含む）③時間の確保（効率的な時間の確保）④人材の層（チーム・ベテラン・リーダー）などの観点で中原区内の小学校の実践を共有し、よりよい人材育成の方法を研究していく。

◆下河原小　「リーダーの育つ学校」として、小規模校の強みを生かした児童主体のレインボー班（縦割り）活動を中核に、学校教育目標を具現化すべく、一人一人の子どもを６年間かけて全職員で慈しみ育んでいる。毎週木曜日の30分休み時間は、全校児童で「キラキラチャレンジ」に取組み、体力・免疫力・人間力を養っている。生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムをブラッシュアップして、特色ある文化と風土を、温かで学校愛あふれる地域と共に創造している。子どもにとっての最善を考え学び続ける職員集団を目指して、今年度から「個別最適型」の校内研究を進めていく。

◆平間小　「平間小の子がどこにいても楽しく生き生きとすごすため、自立と共生をめざし平間プライドを育み、未来を創る」の学校教育目標のもと、具現化に向けて、特に３つの点に力を入れて取り組んでいく。

① ESD/SDGsの視点に立った教育課程の編成
②他者理解と人権意識、支援教育の充実
③開かれた学校づくり・地域との相互理解

学びの中心を探究のプロセスを活用した主体的・協働的な活動と位置づけ、ユネスコスクールの理念の基、学校全体でESDの取り組みをより充実させていく。

◆玉川小　昨年度、創立120周年を迎えた。本校の学校目標は「根：粘り強く取り組む」「智：正しいことに即して行動する」「和：協調して物事に取り組む」の下、全教職員で教育活動を進めている。国語科「自らの学びを深める子の育成」のテーマのもと、自分の考えをもって学びに向かう子について研究を進めている。粘り強く課題に取り組み、他者の考えに触れ、自己調整する力をつけることが、子どもたちにとって大事なことだと捉え、よりよい授業を目指して授業改善に努めている。

◆下沼部小　昨年度創立70周年を迎えた本校は、71年目を迎える今年度、「よく考え進んで学習する子ども」「心豊かで思いやりのある子ども」「明るく健康な子ども」の学校教育目標はそのままに、今年度はどのような学校にしていくか、子どもも大人もみんなで考えてきた。70周年のスローガンである「未来へつなぐ笑顔のバトン　かがやけはばたけ　ぬまべっこ」を軸にしながら「子どもも大人もみんなで「楽しい下沼部小学校」をつくり上げる」ことを目指して本校に関わる子ども・保護者・地域・教職員が力を合わせていく。また、今年度から始まった「学校運営協議会」では今まで以上に家庭や地域と連携し、人材活用などを通して、より開かれた学校づくりに向けて話し合いを重ねている。

◆苅宿小　令和７年度学校経営方針を『【整えて】【対話し】＜体験し＞＜表現し＞＜理解する＞苅宿小学校を目指して』とした。心身健やかに、清々しく過ごせる学校を目指して全教職

員で「言語環境」「心理的環境」「物理的環境」を整えていく。そして相手の話をまずは受け止める。それを感じ取り自分が理解したことを伝える。自分の思いを伝えたら相手の反応を見る。そのようにして対話する学校を目指して丁寧な教育活動の運営に努めていく。東急東横線元住吉駅から徒歩12分JR南武線平間駅から徒歩14分の落ち着いた住宅街の中に位置する学校であるコミュニティ・スクールとして地域からご支援をいただけ、児童が地域に出ていったり大人の教育力を活用したりと、地域が一体となって諸行事に取り組める学校である。

◆木月小　「自ら学び、考え、行動する子」「力を合わせ、助け合う子」「心も体もすこやかな子」を学校教育目標として設定し、いのち・こころを大切にした「心が通い合うぬくもりのある学校」を始めとする重点目標の具現化に努めている。令和５・６年度には、研究推進校（家庭科）を受け、校内研究では「友達・家族・地域への思いを高め、よりよい生活を築こうとする子をめざして」というテーマを設定し研究を深めていく。これまでの取り組みを生かして、課題解決的な学習と協働的な学びの授業づくりを進めている。

◆東住吉小　正門前にそびえ立つシンボルツリーのけやきの木のように、学校教育目標である「すこやか（すなお・こころやさしい・やる気・かんがえる）な子ども」の育成を目指している。創立75年目、教職員が同じ方向を見て、保護者・地域と連携を深め、日々の教育活動を進めていきたい。昨年度の続き「なるほど！もっと知りたい！やってみたい！」をテーマに、個別最適な学び・協働的な学びについて研究を進める。サブテーマは「東住３C　Chance　Challenge　change」子ども主体の学び、ＵＤ１授業に挑戦していく。

◆住吉小　「ふみ出そう一歩　広げよう感動」をスローガンに、児童の主体的な活動が日々繰り広げられ、異学年交流を目的とした委員会オリジナル活動も盛んに行われている。各家庭で学校の話題を出しやすいように、学校だよりなども工夫していく。国語科研究推進校として本発表の年を迎える。「あたたかな聞き方」「やさしい話し方」を教育活動全体で進めるだけでなく、学習プランを取り入れ、授業改善を図るとともに、教員の授業力向上を目指していく。

◆井田小　1016名の児童でスタートした井田小学校。支援学級を含め39学級、毎日子どもたちの元気な声が響いている。「学びがいっぱい」「やさしさいっぱい」「元気いっぱい」を目標に学校生活を送っている。その目標に少しでも近づけるように、校内研究を中心に、日々教育活動を進めている。また、来年70周年を迎えるに当たり、子どもたちの意識・学校を大切に思う心を高めていきたい。５年生の「井田米作り」は、今年も27回目の収穫を目指し学習が始まった。

◆今井小　本校の学校教育目標は、「自ら学び、心豊かにたくましく生きていく児童の育成をめざして～やさしく たのしく たくましく」である。どの子どもにとっても「明日も行きたくなる学校」を目指し、教職員が大いに語り合い、子どもたちの豊かな心と思いやりを育てている。校章には、月桂樹の８枚の葉がデザインされ、６つの学年の子どもたちとそれを支えるＰとＴを表している。子どもたち、教職員、保護者、地域が力を合わせて、魅力ある学校にしていきたい。

◆上丸子小　学校教育目標「三つの心を育もう学びの心、たくましい心、やさしい心」（合言葉：にこ・もり・こつ）を掲げ「受容と共感で笑顔あふれる学校づくり」を重点課題として取り組んでいる。全校で取り組む「多摩川学習」はじめ「アクティブ上丸子」では、地域や保護者と連携し、多様な視点から多摩川や地域のひと・もの・ことと子どもたちが出会い、驚きや喜びを体験しながら創造する学びの楽しさを大切にしたい。

◆西丸子小　学校教育目標「自ら考え　正しく判断し　進んで実践する子」のもと、「聴きたい！伝えたい！学びたい！～西丸子の聴く子、伝える子の育成～」というテーマで、本年度も国語の研究を進める。国語科で培った伝え合う力がすべての学校活動に生かせるよう、ねらいを明確にし、系統性を意識した単元づくり、授業づくりをめざす。今年度は創立70周年。地域への愛着の心を育んできた子どもたちが主体的にかかわれる周年行事にしたい。

◆中原小　楽しく学び、共に育つ学校であることを念頭に、「たのしく　なかよく　たくまし

く」の合言葉のもと、「すすんで取り組む子」「共に学びあう子」「自分のよさを見つけ伸ばす子」を目指す子ども像にかかげ、教職員一同がPTAや地域と連携・協力しながら日々の教育活動を進めている。創立124年の歴史を大切にしながら、808名の子どもたちが夢と希望をもって人生を送るための礎を築くことができるように日々支援・指導をしている。

◆宮内小　「おおらかに たくましく なごやかに」を学校目標とし、保護者や地域の皆様の温かい協力を得ながら、全教職員で個に応じた指導・支援に努め、いじめを許さない学校風土づくりに取り組んでいる。「学び合い、高め合い、笑顔あふれる宮内っ子」をテーマに、今年度も生活科・総合的な学習の時間の校内研究を進める。豊かな自然や歴史に恵まれた素晴らしい地域の材を生かし、地域の方々との「つながり」を大切にしながら、自ら課題を見つけ探究していく力を育んでいきたい。

◆大戸小　本校は併設の中央支援学校大戸分教室と同じ校舎の中で共に学校生活を過ごしている。子ども達は学校行事での交流をはじめ、日頃から廊下で名前を呼んだり声を掛け合ったりして、交流を深めている。「元気いっぱい　やる気いっぱい　心に花いっぱいの大戸の子」の学校教育目標と、児童会スローガン「七つの花で心を一つに大戸小」を目指し、豊かにつながる学校を目指している。引き続き、校内研究で生活科・総合的な学習の時間に取り組み、全校で「大戸のたからさがし」の真っ最中である。ひと・もの・ことに出会うことを通して、地域に愛着をもち、発見や喜びを発信する力を育てていきたい。

◆下小田中小　「共に学び、明日が楽しみになる学校」を学校教育目標に、根（自主・自立）智（質の高い学び）和（共生・協働）を合言葉として教育課程全般を通じて地域の特色を生かした実践をしている。季節とともに花が咲く下小田中の町にある本校の児童一人一人の個性を生かし、持続可能な社会について自分ごととして何ができるか考え、協働して実践に取り組むことを目指している。町の花パンジーを地域の方々に学び、育てている。校内研究は国語６年目。授業改善に一層取り組んでいく。

◆新城小　新１年生106名が入学し、全児童数は701名となった。広い校庭で朝から子どもたちが元気よく遊んでいる。「心も強く　体も強い子」を学校教育目標として掲げ、子どもと教職員、保護者、地域で創る学校を目指している。今年度も生活科・総合的な学習の時間で校内研究を進め、「身近な課題について考えを深め合い、行動につなげる子の育成」をテーマとして展開していく。地域の教育力を生かした体験活動を意識し、子どもたちが、人々やまちの様々なものやことに出会い、考えや思いをさらに深めていけるように、取り組んでいきたい。

◆大谷戸小　「ともに生きる」を児童目標に掲げ、一人一人の子どもたちを大切にする学校経営を目指し日々の活動に取り組んでいる。学校運営協議会３年目として、部会を作るなど協力して教育活動に取り組んでいく。校内研究では、昨年度に引き続き算数に取り組んでいる。一つ一つの課題に目を向けて、子どもたちの表現力の向上のため、少しでも算数好きの子を増やせるよう授業力向上をめざしていきたい。

◆小杉小　開校７年目を迎え、現在、約911名の子ども達が在籍しており、創立時の教育理念「豊かに生きる」を中心とした教育活動を進めている。今年度も「人と人とがつながる温かな環境」の中で、学校教育目標〈自ら学び　自分を振り返る子〉〈違いを認め　力を合わせる子〉〈役割を担い　学校をつくる子〉に近づくための資質・能力を育んでいる。校内研究では、GIGA端末のある環境の中で、学習過程の定着をはかり、見方・考え方を活用する力を育成することをねらいとし、「一人一人が主語となる学び」の研究を継続して３年目となる。生涯学習につながる、自律した学習者の育成につなげていきたい。

高 津 支 部

久地小・小林

高津区は、多摩川・二ヶ領用水に形作られた平坦地と、多摩丘陵の一角を形成する丘陵地、さらにそれをつなぐ多摩川崖線の斜面緑地により構成された区域で、起伏ある地形が特徴である。江戸時代から二子の渡しや大山街道を中心として発達し、大山街道沿いの宿場町として栄え、現在は鉄道交通の結節点の溝の口駅周辺を中心に商業・文化などの都市機能が集積している。また、橘地区・久末地区では農地や生産緑地として野菜を主とした生産が行われ、市内の代表的な産地の一つとなっている。

そうした緑が広がる自然いっぱいな地域、また川崎のものづくりを支える製造業の多い高津区で育つ子どもたちの通う小学校は、支援学校を含め16校ある。地域と共に教育活動を創造し、子どもたちが伸び伸びと通える学校を目指して頑張っている。

◆子母口小　市内でも珍しい東橘中学校との合築校舎での共同生活も10年目を迎えた。今年度は創立60周年でもあり、学校教育目標『未来社会を切り開く心豊かなたくましい子を育てる』の具現化を目指し、新たな歩みを開始したところである。地域の方々や保護者など、様々な大人に見守られた中での教育活動を大切にしており、教育環境の整備とともに将来的に地域を担う人材の育成を目指している。

◆橘小　創立112年目を迎える橘小の歴史は慶応元年、松本家の私塾である達観堂（寺小屋）まで遡る。その後大正３年、千年に尋常高等橘小学校として誕生した。学区には国史跡・橘樹官衙遺跡群やホタルが飛び交う「ふれあいの森」があり、自然に恵まれた歴史ある地域である。校庭には創立当時から残るトウカエデの木が季節によって11月頃には緑から赤へと彩りを変えている。今年度は防災教育推進校としても校内研究で取り組んでいる習得・獲得した知識・技能を活用し、「自分の考え」がもてる子どもの育成を全校で推進している。

◆末長小　創立66周年を迎えた児童数1062名の大規模校である。学校教育目標「誰もが明日も登校したくなる学校の創造」の実現に向け学校全体で取り組んでいる。また、魅力ある地域の強みを生かした教育活動を展開することで、わが町に誇りと愛着がもてるようにしていきたいと考えている。今年度も富士通ゼネラルをはじめとした地域企業・団体と連携した取組を充実させている。令和７・８年度は国語科研究推進校として「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を基盤とした「聴いて(受信)考えて(思考)つなげる(発信)」授業の実践を行っていく。

◆新作小　創立より「地域に根ざした開かれた学校づくり」を理念に学校運営されてきた。その象徴として地域の作物である麦を校章にデザインしている。昨年度創立40周年を迎えたが、卒業生である保護者をはじめ地域の方々の絶大なる協力により大きな成果を上げた。教育目標「大地に根ざし、なかよくのびるすくすく麦っ子」のもとに、めざす子ども像を「自ら進んで創造する子」「思いやりのある明るい子」「健康でたくましい子」と掲げ、子どもたちの自己実現に向け、教職員が教育活動に力を注いでいる。教職員の授業力向上をめざして、教職員の学年会を「教職員の縦割り活動」と捉え、一緒に教材研究や児童理解をして授業計画や準備にあたるようにしている。さらにこうした教職員の豊かな相互関係により、児童同士のかかわりを豊かにする礎を求め、育てていきたい。

◆東高津小　今年度、75年目を迎え、児童数985名でスタートした。学校教育目標「考えよう　やってみよう　みんなの本気が明日への一歩」のもと、教育活動を進めている。令和５・６年度国語科研究推進校として「自分ごとで考え　つなげて　深めて　学び合う」サブテーマに、子どもたちの「話す力」「聞く力」を培ってきた。今年度もその力を国語科だけでなく、日々の活動や各教科等で生かしていけるようにしていく。また、５月より体育館の改修工事が予定されている。

◆坂戸小　増築校舎ができ、新年度から全校児童が同じ校舎での学びをスタートしたが、増築棟とＢ棟校舎接続工事があり、校庭の使用できない状況は継続する。近隣の小・中学校と連携しながら体育の時間を確保する他、増築校舎屋上のスペースも活用し、安全に配慮した上で運動できるように努めている。今年度も、地域学習や理科・生活科を中心にした授業研究に取り組み、子どもたちの学びを深めていきたい。

◆**久本小**　今年度は70周年を迎える久本小学校。「未来へはばたけ久本っ子～感謝・あいさつ・思いやり」をスローガンとして、この１年間を思い出いっぱいの素敵な年にしていこうと、子どもと教職員が一丸となって取り組んでいる。また、今年度も学校教育目標達成のため、４つの重点目標を教職員で共有し、教育活動を行っている。特に、重点目標の一つ「あたたかな聴き方、やさしい話し方」はステップ３に入り、国語の校内研究を行いながら進めている所である。「明日もきたくなる学校に」を合言葉に、笑顔いっぱいの学校になるよう目指している。

◆**下作延小**　津田山駅から見える学校。改札から職員室まで１分ほどで到着します。今年度も「SIMOSAKUNOBE PRIDE」をテーマに自分や他者を大切にし、学校、地域、川崎を愛する子どもを育てるために頑張っています。また、地域や保護者の理解もあって、本校の教育活動に大いに協力していただいています。今年度もコミュニティ・スクール４部門の充実を図り「SIMOSAKUNOBE PRIDE」実現のための教育活動を進める一方、市内企業・関係団体からの協力を得て、魅力ある学習づくりを目指しています。

◆**高津小**　【わたしたちの「ふるさと　たかつ」を愛し　『みんなが来たくなる　楽しい学校』の実現を、新たな学校教育目標として、1224名子どもたちと令和７年度をスタートした。「ふるさと」には「生まれ育った場所」という意味があるが、育った環境、出会った人、経験した出来事などが、子どもたちの「心のふるさと」となるだろう。このまちにあふれている魅力を見つけ、知ることで、「たかつ」のまちの未来を考え、自分がどんな力をつけていけばよいのかを追求していける学校をめざしている。

◆**梶ヶ谷小**　「みんなが笑顔　学校って楽しいな！梶ヶ谷の町大好き」を合言葉に、令和７年度は、全児童751名でスタートした。「主体的に学ぶ子」「共に支え合う子」「自ら行動する子」を目標とし、教育活動を進めている。学校の隣にある梶ヶ谷神明社から伝統を受け継いだ獅子舞の獅子が校長室に４頭並んでいて、児童がいろいろな場で披露をしている。地域の方々との交流が多く、保護者の方、地域の方に支えられながら学校づくりをしている。また、令和５年度から音楽の研究を推進し「音楽っておもしろい！聴いて　考えて　伝え合おう」をテーマに感性豊かな子どもの育成を目指している。

◆**西梶ヶ谷小**　川崎市の宮前区と高津区の境にあたり、丘の上の多くの自然に囲まれた今年で42周年を迎える学校である。すぐ隣には大きな公園があり、近隣の子どもや地域の方々との触れ合いができる。今年度、全校579名の児童でスタートした。本校は「自ら学び、自らとらえ、心豊かにたくましく生きていく子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、「自己肯定感を持ち　心豊かにたくましく生きていく子」をテーマに国語の校内研究に取り組んでいる。どの教科においても自分の意見を持ち表現することを意識しながら、人と豊かに関われるような子どもの育成を目指している。

◆**久末小**　「共に笑顔で輝き合う学校をめざして」を学校教育目標とし、72名の新入生を加え全校児童602名で令和７年度がスタートした。昭和44年４月１日に誕生し、７月２日の校舎竣工に伴い17学級・656名で入校式を執り行い、この日を開校記念日と定めた。各町内会、歴代PTA役員を中心とした伊勢原会の皆様、地域保護者の皆様に支えられ、「地域の中の学校」として半世紀以上に渡る歴史を紡いでいる。

◆**上作延小**　「自分からはじめよう。みんなでやりとげよう」これは令和７年度のスローガンである。昨年夏頃より、上作延の子どもたちの強みと弱みについてアンケートを取ったり、話し合ったりしながら、大人と子どもで一緒に考えた。

このスローガンは、すべての子どものやりたいという個性を尊重したものである。それぞれ異なる良さや考えをもった一人からはじまり、みなで協力しあって実現する姿。これは、未曽有の未来を切り拓く在り方であり、大きな力になるものだと考えている。

◆**南原小**　「人間性豊かな南原の子の育成」を学校教育目標に掲げ、「みんなで創る　みんなの笑顔　南原小学校」を合言葉に「知・徳・体のバランスのとれた活力ある教育活動」を展開できるよう進めている。今年度は、創立40周年を迎えた。創立40周年記念スローガンは「新時代に向かって、みんなでつなごう　笑顔のバトン」。「小規模校ならでは」「南原ならでは」

の良さを追究しながら、「一人一人の子どもを主役となる教育活動の展開を工夫している。どの子も「南原小学校で学んで良かった」という自信と誇りをもてるよう、教職員が一人一人の子どもに寄り添うことを心がけるとともに、令和７年度は「キャリア在り方生き方教育の研究推進校」として、さらに魅力ある学校となるよう努めている。

◆久地小　江戸時代より梅の里として有名だった久地。二ヶ領用水や多摩川が近くを流れ、豊かな自然に囲まれた地域である。「子どもたち一人一人の笑顔が輝く学校」を目指して、「気持ちの良い挨拶をしよう」「あたたかな聴きかたをしよう」「自分の言葉で伝えよう」を目標に学校づくりをしている。「興味をもち友達とかかわりながら考えを深める子」をテーマに国語科の校内研究に取り組み、言葉を豊かに使い、人と豊かなかかわりを築く子どもの育成を目指している。令和８年度に60周年を迎える。地域や人々の良さを再発見し、感謝の気持と未来へつなぐ思いを育てる機会としたいと考えている。

宮 前 支 部

富士見台小・中川

吉野晶子校長が末長小、本田明子校長が戸手小、二川義明校長が木月小、大曽根実校長がはるひ野小へそれぞれ転任となった。他支部から吾妻典子校長、秋山直子校長を、新任校長として山本直校長、後藤香織校長を迎えた。17校の校長は「チームみやまえ」を合言葉に、日々情報交換を行い、それぞれの強みをいかした学校経営を行っている。

今年度の学校経営研究のテーマは、「学校経営における校長のマネジメント～誰一人取り残されない学びの保障に向けた環境マネジメント～」である。①不登校児童が学びたいときに学べる環境の整備、②不登校の未然防止を柱として、研究に取り組んでいく。

◆野川小　「かしこく　やさしく　たくましく」の学校教育目標のもと、創立152周年を迎える。地域の方々が古くから学校をコミュニティの場として訪れる機会も多く、子どもたちを温かく見守ってくださってきたことがよくわかる。聴きあう関係を基盤とした学年・学級経営を行い、長年続けている学び合いをキーワードとした「聴く・つなぐ・もどす」支援を通した学習指導と支援教育コーディネーターを中心とした組織的な児童理解や野川スタンダードの啓発による安心できる学校環境との両輪で、学校運営を進めている。

◆西野川小　児童数360名、19学級でスタートした。学校教育目標「元気・思いやり・やる気・根気」の具現化に向け、今年度は重点目標を「子どもも大人も学び続ける、子どもも大人も成長し続ける学校」とした。校内研究は、「わかった！」「できた！」「それなら！」をテーマに、主体的に学ぶ子どもを育む授業づくりに取り組んでいる。今年度は、教科を絞らず様々な教科で目指す子ども像に迫っていきたいと教職員もやる気に満ちている。

◆南野川小　昨今の世情を鑑み「多様性を大切にする南野川小」をスローガンとし、創立53年目を歩み始め、子どもたちの人権意識向上を目指し、取り組んでいる。「知りたい・読みたい・伝えたい～内容を正確に理解し適切に表現する力の育成を目指して～」を研究テーマとして3年目の国語科の研究を進めている。地域との連携を深めながら「みんなちがってみんないい十人十色」を合言葉とし、目標達成に向けチーム南野川で歩みを進めていく。

◆宮崎小　児童数1228名で今年度がスタートした。152年の歴史をもち、地域の方々に温かく見守られ続けている学校である。再生整備工事が昨年度終了し、明るくきれいな校舎で子どもたちが学校生活を送っている。今年度は体育館改修工事が始まる。重点目標スローガン「自分　友だち　宮崎　大好き　たからもの」を合言葉に自己も他者も認め受け容れあい、一人一人が安心して過ごせる学校、これからも地域に愛される学校づくりを目指していきたい。

◆鷺沼小　「自分たちの力でよりよい生活や学びを創り出そう」を合言葉に、子どもたち一人一人が自分の思いをもち、安心して過ごせる居場所づくりと主体的で豊かな心を育む集団づくりを目指している。プールは増築校舎建築のために取り壊しになり、今年度から水泳学習は全学年民間のプールで行うことになっている。「どうしたら楽しく豊かに遊べるか」児童会を中心

に考えたり生活科・総合的な学習の時間で様々なイベントを考えたりと、各学年で取り組んでいる。今年度も、地域や町の人との交流を大切にし、街が大きく変化していく鷺沼を、どうやって盛り上げていけるか、来年度の50周年を見通しながら町と共に成長していく鷺沼っ子を育んでいきたい。

◆土橋小　天然芝が校庭に広がる本校は、開校時からコミュニティ・スクールとして地域に開かれ地域とともに歩み、今年度創立20周年を迎える。「つながる心　ちからを合わせ　はじける笑顔　しあわせいっぱいの土橋小学校」の合言葉は開校以来受け継がれ、学校目標と学校教育目標としても掲げられている。今年度は児童数1010名、40学級でスタートした。大規模校として、これまで以上に「つながる心」を大切にし、教職員一丸となって「しあわせいっぱいの学校づくり」に向けて学校運営を進めたい。

◆有馬小　児童数349名、16学級で令和7年度がスタートした。学校教育目標スローガン「一歩前へ　受け止め伝え合い　つなごう有馬」のもと、目標に向かってこつこつと粘り強く挑戦すること、相手の意見を受け止めたり考えを聴き出したりすることを大切にして自分の考えを広げ、友達、地域、有馬の伝統とつながることを目指して教育活動を進めている。今年度より「子供同士でつながる授業をめざして」をテーマに国語の校内研究に取り組んでいる。

◆西有馬小　令和7年度で創立47年目。児童数は816名。学校教育目標は「考える子ども、心豊かな子ども、たくましい子ども」である。地域と連携して学校教育目標の具現化に努めている。校内研究のテーマを「友達のよさを認め、自信をもって自分の力を発揮できる子を目指して」とし、特別活動についての研究に取り組んでいる。

◆富士見台小　全校児童約1100名、37学級（支援級4クラスを含む）、職員数は約70名。通級指導教室も設置された大規模校である。「やさしく　かしこく　たくましく」の児童目標のもと、児童の主体性を大事にした教育活動の実現を目指している。また、「互いに学び合い、高め合う子の育成」という研究テーマのもと、国語科の校内研究に取り組んでいる。

◆宮前平小　昭和55年に富士見台小学校より分離独立し、保護者に支えられ、地域と共に歩み今年度で46年目を迎えた。「今日も楽しく、明日がまたれる学校に」を学校教育目標として教職員と子ども達が共に歩んでいる。本校の特色としては、引き継がれてきた「なかよし活動」による、縦割りの班活動や支援Coを中心としたきめ細かい児童支援体制が挙げられる。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両輪を追求しながら子ども達の深い学びを実現すべく、昨年度から「夢中で考え伝え合う子」をテーマに、国語の研究に取り組んでいる。

◆宮崎台小　学校教育目標「心豊かに生きる力を育む～かしこく、やさしく、たくましく、ひろく～」を掲げ、今年度は『ハートフルパワー宮崎台』をスローガンに、自分も大事・他者も大事にする「認め合う心の育成」に重点を置き優しさいっぱいの学校づくりに取り組む。創立51年目は再生整備事業が始まる年でもある。校内研究では見通しと振り返りを大事に生活科・総合的な学習の時間において子どもたちが学びに向かうよう研究を進めている。

◆向丘小　川崎最古の歴史を綴る伝統校として、創立153周年を迎えた。学校、保護者、地域の協力体制が構築され、みんなで子どもたちを支えるよき伝統が引き継がれている。子どもたちも自校に誇りをもっており、学校が大好きで、生き生きと学校生活を送っている。学校教育目標「自ら学び、かかわり合いながら、表現力をつけ、自分を高めようとする子ども」の実現に向け、全職員で、大人も子どもも笑顔あふれる学校づくりを推進していく。

◆平小　自学・自習、自主・自律、共生・協働を学校経営の3本柱として掲げ、心豊かでたくましく実践力のある子供の育成を目指している。豊かな自然とあたたかな地域・保護者等の人々に囲まれて、子供たちはのびのびと成長している。学校テーマ[SMILE&CLEAN]は3年目を迎える。「笑顔」そして、「心がきれい」「言葉がきれい」「校舎がきれい」を教職員が常に意識しながら、482名の子供たちと毎日明るく楽しく学校生活を送っている。

◆白幡台小　学校教育目標は「心身ともにたくましく自ら学ぶ子どもの育成」、重点目標を「子どもたちに良い学習習慣と生活習慣を」と昨年度からの継続で設定した。

児童数197名、通常級7、支援級5学級という川崎で2番目に児童数が少ない小規模校ではあるが、教職員のチームワークとフットワークのよさは誰にでも自慢できる長所である。

また、3年計画で始まった校舎再生整備事業最後の1年を迎え、学校全体がリニューアルされる予定である。

◆菅生小　昭和42年向丘小学校より分離独立し、今年度で58年目を迎える。地域に支えられ、子どもたちは明るく素直に育っている。「菅生文化の継承・創造」をめざす学校像として掲げ、「笑顔・挨拶」「熟考・振り返り」「アンテナ・ハーモニー」をキーワードとして掲げ、学校教育目標の具現化に向けて、職員・保護者・地域が一体となって教育課程の創造を進めている。校内研究ではすべての子どもたちが目を輝かせて授業に取り組める単元づくりをめざして取り組んでいる。

◆稗原小　昭和61年4月1日、菅生小より分離独立し557名の子どもたちと共に開校。今年度、令和7年11月1日に、「助け合い　笑顔でSHINKA（進化・深化・伸化・新化）稗原小」のスローガンのもと、創立40周年記念式典を行う。学校教育目標「よく遊び、よく学ぶ子　認め合い、助け合う子　粘り強く、挑戦する子」を掲げ、認知能力・非認知能力の両面の伸長を目指す。「地域の中の学校」としての意識を高くもち、全学年が地域と連携した教育活動の実践を継続推進していく。一昨年度より「思いを伝え、聞いて、深める国語」を研究テーマとして国語の校内研究を深めている。

◆犬蔵小　今年度は、児童数893名でスタート。令和7年度で創立49周年を迎える。来年度の50周年を見据えて子どもたちの表現力を育むことに力を入れていく。

3年間の校舎再生整備事業のⅠ期目。

「子どもたちが生き生きと笑顔で学び合える学校」づくりを目指している。それには、教職員がウェルビーイングを感じられるように、放課後の時間を主体的に活用する工夫をして、業務改善を図る。午前5時間授業を実施。朝と放課後の図書館開放、みんなの校庭プロジェクトの拡充を行う等、チャレンジしていく。

多摩支部

南生田小・羽深

多摩区制53年目となった。今年は東生田小学校が創立60周年を迎え、秋の式典開催に向け地域と共に準備を進めている。

昨年度まで支部を支えてくださっていた菅小学校の戸塚裕康校長と宿河原小学校堀川勝也校長がご退職された。新たに菅小学校には南菅小より首藤弘明校長、さらに宿河原小には麻生区の千代が丘小学校から田中亜希子校長がそれぞれ昇任され、多摩区校長会に仲間入りとなった。

今年度の支部研究は、昨年度に引き続き「魅力あるこれからの学校づくり～夢の実現に向けての考察～」をテーマにした。今年度は、各校において、昨年度の考察を実践に移しながら成果や課題などを見出していきたい。

◆稲田小　本校は、多摩川を始め二ヶ領用水、宿河原の桜並木、長尾の小高い丘や梨畑等、豊かな自然があり、恵まれた教育環境にある。また、146年の歴史と伝統がある。子どもたちは、素晴らしい環境の中で、保護者や地域の方々に見守られながら心豊かに成長している。

今年度は、GIGAスクール構想推進協力校として、また生成AIの校務活用についても試行研究を行う。「自ら考えたことを進んで表現する子」をテーマに、思考力と表現力を高める授業づくりを目指して、国語科研究を行う。

◆長尾小　学区に隣接した東高根森林公園は四季折々の自然を楽しむことができ、構内は市内でも有数の3つに分かれた大きなグランドと、樹木に囲まれている。昭和57年に稲田小・向丘小学校より分離独立し、川崎市で99番目の小学校として開校した。友情の木としていただいたキンとギンのモクセイが、正門脇から全校児童282名を毎日見守っている。小規模校のアットホームな校風である《長尾小らしさ、よさ》を守りながら、一歩一歩学校運営を進めていきたい。今春に新体育館が完成し、学びの場だけでなく、2階にある会議室は避難所開設本部として、また地域のコミュニティーの場となることを期待している。

◆宿河原小　本校は多摩川のふもとに位置し、学区内に二ヶ領用水も流れ、自然と住宅地が共存する地域の中にある。「自立協働～自分で考

え、人との関わりで育つ子～」を教育理念に、児童数771名で令和7年度をスタートした。校内研究は「子どもが主体となる学びをめざして～こうしよう　やってみよう　どうだった～」というテーマで、学習プロセスとして、A（見通し）A（行動）R（振り返り）サイクルを取り入れた学びに取り組んでいる。未来を切り拓いていくための力を子どもたちにの中に育てていきたいと考え、研究を進めている。

◆登戸小　明治6年に地域の善立寺で誕生し、今年度150周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。地域の方々が下校時の見守り活動、野菜や梨づくりの学習協力をしてくださるなど、地域とのつながりが深い。学区である登戸駅周辺の再開発が進み、今後児童数の増加が見込まれている。学校教育目標「よく考える子・思いやりのある子・健康でたくましい子・最後までやりぬく子」を柱に運動と心の発達を検証する体育の研究を進める。今年のテーマは「わくわく」する学校づくりを進めている。

◆中野島小　学校経営のテーマは、「子どもたちの夢と希望を育む学校づくり」とし、創立60周年の記念式典から次の10年に向けて、目指す学校「楽しい学校」「やさしい学校」「活気のある学校」を具現化できるように教育活動を進めている。今年度は65周年目であり折り返しの年となる。充実してきた専科教員の活用を図り、ダイナミックな学校経営を目指している。教育活動の中心となる、校内研究は、国語、社会科の授業を中心に、課題と向き合い、学び合い表現し、次につなげようとする子を育てるべく研究を積み重ねている。

◆下布田小　本校には、1988年に作られたせせらぎ観察園がある。せせらぎ観察園の中には、二ヶ領用水の支流が昇降口前まで流れ込み、小川が作られていて、子どもたちは中休みにザリガニつりなどをして楽しんでいる。下布田小の宝として子どもも保護者もとても大切にしている。375名の子ども達みんなが「自分が大事、友達が大事、そして学校が楽しい」と思えるように、一人一人の自己肯定感を高め、人と関わる力を身につけ、自分で考え行動できる力を伸ばしていきたい。今年度は「子ども達と共に」をキーワードにして、子どもに問いかけ、考えさせ、一緒につくることを目指している。

◆東菅小　周辺にまだ緑が多く残り、名産の梨畑もあちらこちらにみられる児童数610名の学校である。今年度創立55周年を迎える。敷地内にも特設の梨畑があり、地域の方の協力のもと、3年生が9月の収穫まで大事に手入れをして育てている。コミュニティ・スクールも徐々に活性化して、これまで以上に地域と共に教育課程を推進していくことになった。

「自ら学び、自分を振り返る子」「違いを認め、人から学ぶ子」「前向きに考え、学校をつくる子」という3つの目指す子ども像を描き、具現化のため、教職員一同「チームひがしすげ」で一丸となって子どもたちと向き合い、子どもたちの成長を後押ししていきたい。

◆南菅小　菅の高台、閑静な住宅地の中にある児童数255名の学校である。近隣には小・中・高の学校とよみうりランド、多摩スポーツセンターなどがあり、大きな施設と豊かな自然が共存している地域でもある。「心身ともに健やかで、思いやりがあり、調和のとれた児童の育成」を学校目標に掲げ、「学習・ハートフル・元気」の3つのプロジェクトを柱として教育活動を進めている。今年度は創立40周年を迎え、「HAPPY　COLOR　SCHOOL　みらいにかがやけ　南菅」をスローガンとし、多様性を認め合い、一人一人が輝ける学校にしていきたい。

◆西菅小　児童数227名でスタートした本校はよみうりランドや緑地等に囲まれ、小沢城址や菅薬師堂など歴史的にも目を見張るものがある魅力的な地域である。学校教育目標を「かしこく心豊かでたくましく　自分で考えて行動する子　共に生きる子」とし、学校も地域も一体となって教育活動を進めている。今年度も積極的な情報発信に努めるとともに、今年度から始まる教育委員会社会科研究推進校として、学びに夢中になる子どもの育成に努めたい。

◆菅小　豊かな自然に恵まれ田畑も多く残る本校の学区には、南武線と京王線の稲田堤駅もあり、農家を中心とした何代も続いているような旧家とベッドタウンとして新しく開発された住宅が混在し、さまざまな世帯が暮らしている。しかし、共通して皆が温かく、保護者も地域の方も学校に協力的であり、明るく元気な菅っ子たちを見守ってくださっている。今年度も地域の方や保護者にご協力をいただいて、「笑顔い

っぱい・学びいっぱい・夢いっぱい」な思い出に残る一年にしたい。

◆東生田小　北側を日向山と五反田川、南側を小田急線に見守られている本校は、毎朝温かい地域の方々に支えられ、こどもたちは元気に集団登校をしている。今年度の校内研究は、昨年度に引き続き「自らの考えを深める子」とし、教科も同じく算数で行う。身につけた力をうまく利用し、実際に使える力とするにはどうすれば良いか、さらに実践的な研究を進めていく。今年度は創立60周年となる。児童活動を中心にスローガン、マスコット等々が次々と決定お披露目が進んでおり、日に日に式典に向けて、学校全体が活気に満ち溢れている。

◆三田小　丘の上にある緑に囲まれた広い校庭と上空に広がる青空が素敵な学校である。今年度は、共生＊共育プログラム研究協力校としての取組を行う予定である。支援教育Coを中心としたチーム学校体制で、不登校支援、学習支援を充実させ、一人一人のニーズに即したきめ細やか指導・支援を目指す。理科、音楽、外国語等専科教員による専門的な授業、担任による授業交換を行うことで、児童が教科の楽しさを味わえる授業を目指している。「わかった！できた！もっとやりたい！～主体的な学びにつながる授業～」をテーマに、全学年が算数の授業実践を行い、研究を重ねている。

◆生田小　地域の方々に愛され温かく支えられている。生田駅から見上げると、丘の上に白い校舎が見える。創立152年目となる今年度は、児童数468名でスタートした。昨年度からの校舎再生整備事業が２期目となり進められる。敷地内には、樹木が多く、田畑もあり、自然環境に恵まれている。コミュニティ・スクールがスタートした今年度はより一層地域と連携、協働し、「社会に開かれた教育課程」を目指すとともに笑顔あふれる学校、一人一人の子どもたちが他者を認め、居場所のある学校づくりに取り組んでいく。

◆南生田小　落ち着いた静かな環境とあたたかい地域の方に支えられた、児童923名、教職69名の大規模校である。「心豊かで自らよく学び、たくましく活躍できる子ども」の育成を目指し、子どもたちが主体的に活躍し、成長できる学校づくりに取り組んでいる。

本年度は、「自分の考えをもち、伝え合う子の育成～聴く、聴き合う、伝え合う子活動を通して」を研究主題を掲げた国語の研究として３年目となる。物語文を通して、自分の考えをもち、友達に伝えたり自分の考えを深めたりする授業となるように研究を進める。日々の授業では、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し授業改善に取り組む。

麻 生 支 部

千代が丘小・柴田

麻生支部は、長年にわたり支部を支えてくださった杉本真知子校長、山岡昌子校長、紀裕子校長が３月にご勇退された。３名の皆様にはこれまでのご功績に深く感謝申しあげたい。また、井上清一校長、秋山直子校長が他区へ異動された。そして、他区より大曽根実校長が着任されるとともに、末武由布子校長、後藤智春校長、支倉圭太校長、朝比奈浩校長が昇進され、令和７年度の新体制がスタートした。麻生区は「しんゆり芸術のまち」「麻生音楽祭」「安全・安心まちづくり」など様々な事業が計画されており、教育への意識や関心が高い地域である。学校教育に関する課題も共通することが多く、各校長が連絡を取り合い情報交換しながら課題解決にあたっている。学校経営研究は、テーマ「第４期教育振興基本計画から考えるこれからの学校づくり～管理職・職員で共に考えるこれからの学校づくり～」とし、研修を通して「ウェルビーイングの向上」をいかに学校運営に取り入れていくか研究している。

◆長沢小　長沢小学校の校章は菜の花である。菜の花の花言葉「明るさ、快活」のとおり、元気で素直で優しい子どもたちは、私たちの誇りである。令和７年度に50周年を迎えた長沢小学校では、地域との関わりを学習活動に生かすことを大切にしている。防災、菜の花の栽培等長沢小学校ならではの単元づくりを行っている。50周年スローガン「菜の花のようにすくすく育ち、大きな一歩をふみ出そう」を実現すべく、教育活動に取り組んでいきたい。

◆西生田小　創立150周年。自然豊かで地域からも愛されている832名の子どもたちは、優しく素直な子が多い。一方で、登校への不安を訴

える子も年々増加。すべての子どもの学習権を保障する学校づくりを通して、子どもも大人も学びの中で自らの成長を認め、自立を実感できる人へと育っていくことを願っている。校内研究は「伝え合い」を焦点に、メディア活用、情報活用能力の育成も図っている。11月には放送教育全国大会で14クラスの授業を公開した。

◆千代ヶ丘小　川崎では一番標高の高い位置にある学校で、天気の良い時には丹沢の山々や、その奥には富士山を眺めることができる。学区は住宅地であるが、緑豊かで野鳥のさえずりも聞こえてくる。昨年度50周年を祝い、今年度は次の50年のスタートの年と位置づけ、「大好き千代ケ丘　自分から○○のために　やってみよう」を千代っ子みんなの目標として、児童・保護者・地域・職員みんなで共有し、充実した教育活動に取り組んでいきたい。

◆金程小　豊かな緑に囲まれた地域で、素直で優しい子どもと、チームワークのよい教職員が集う学校である。校内研究は、生活科・総合的な学習で「やってみたい！もっとよくしたい！」を研究テーマに、自ら課題をみつけて解決する子どもの育成を目指している。また、コミュニティ・スクールとして、地域の方々に栽培活動などのご協力をいただいている。

◆百合丘小　小田急線百合ヶ丘駅から徒歩3分、住宅地が広がる地域に建つ学校である。笑顔あふれる学校を目標に「明るい子　よく考える子　がんばる子」の育成を目指している。令和7年度は、新入生117名を迎え、全校児童数754名でスタートした。「私も大切　あなたも大切」を児童目標に、自他を大切にし、認め合う心の育成を図るとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指し、国語科の校内研究に取り組んでいる。

◆南百合丘小　新百合ヶ丘駅にも近いながらも閑静な住宅街に位置する学校である。令和7年度は新入生126名を迎え、児童数830名でスタートした。「笑顔あふれる　明日が楽しみに思える学校に」を合言葉に、児童のコミュニケーション能力、自主的態度、相手を思いやる気持ちの育成、心身ともに健康な児童を目指していく。特に、相手のことを考えながら話す、相手の思いを受け止めながら聴くといった活動を全学習の中に取り入れ、その力を高められるよう取り組んでいる。

◆麻生小　新百合ヶ丘駅近く、小田急線からもよく見える開校35年、児童数680名の麻生小学校。「一人ひとりが認め合い、自分らしさを輝かせ、響き合う学校～人・物・こととの出会いを大切にし、互いの良さを認め、高めあえる麻生小学校～」を目指す学校の姿としている。児童も教職員も保護者も地域も、一人ひとりがそれぞれの音（個性）を大切にし、その音を響かせ、互いに聴き合い、重ね合わせ、素敵な麻生小のハーモニーを奏でていきたい。校歌の出だし「♪響くメロディ、こぼれる笑顔～♪」の実現を目指して取り組んでいく。

◆東柿生小　1947年5月1日に開校し創立78年となる。令和7年度全校児童382名でスタートした。緑豊かな自然と地域の方々に守られてきた歴史に囲まれた学校である。里山からは鳥の鳴き声が聞こえ、地域のあちこちで子どもの遊ぶ元気な声が響いている。「一人ひとりの子どもの笑顔がかがやく学校の創造」を学校教育目標に自己の存在感を実感し、より良い人間関係を形成して、笑顔で充実した学校生活を送ることができるよう全教職員で取り組んでいる。

◆王禅寺中央小　閑静な住宅地にあり、王禅寺中央中学校と同じ敷地に建つ学校である。493名が在籍し、縦割り活動を通して児童たちが学年を超えて仲良く活動している。
今年度は「わかった！」「できた！」を学校の学習面での重点目標でありスローガンとして掲げ、児童の学習面の定着を図りたい。広い視野に立って情報を収集し、先の見通しを立てて「今できることに最善を尽くす」ことをモットーとして教職員が心を寄せて教育活動を行っている。

◆真福寺小　「真剣に進んで学習する子」「みんなの幸福を願い　なかよく助け合う子」「心身ともに丈夫で実践力のある子」の学校教育目標のもと、「子どもが主役」を意識しながら教職員が一丸となって学校運営をしている。今年度は、33名が入学し全校児童213名でスタートした。小規模校の良さを生かし、縦割り活動で学年を超えた良い関わりを育んでいる。いつも応援してくださる地域や保護者と共に、子どもの笑顔が輝く学校を創っている。

◆虹ヶ丘小　1年生16名を迎え、全校児童125名。全学年単級で川崎市で一番小さな学校

である。季節を味わえる自然豊かな虹ヶ丘公園と早野の里山に囲まれ、良い環境の中で子どもたちは育っている。今年度は創立50周年記念式典を行う。地域に感謝を表し、虹ヶ丘小らしい記念事業を進めていきたい。

自分の思いや考えを、自分らしく表現できるように、また、人にやさしく、人を大切に、だれかのために自ら行動、工夫し自ら切り開く子になるように全教職員で取り組んでいる。

◆柿生小　全校児童数853名。年々増加傾向にある本校は、「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子どもの育成」を学校教育理念に掲げ、子どもたち一人一人が輝きながら、楽しく安心して過ごせる学校づくりを進めている。令和５年度に創立150周年を学校、保護者、地域の皆さんでお祝いして以来、「学校・家庭・地域オール柿生のウエルビーイング」をめざしている。今年度の保護者ボランティアは、213名。地域教材も積極的に取り入れ、地域との関わりを大切にしている。これからも学校･家庭･地域、オール柿生のウェルビーイング実現のために、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきたい。

◆岡上小　39名の１年生を迎え、全校児童数は234名。創立39年目を迎えた岡上小学校は「岡上で言葉を」をすべての教育活動の基本として位置づけ、誰もが安心して豊かな学校生活を送ることができるようにすることを目指して学校教育を推進している。丸山（学校の裏手に位置する里山）や田、畑と豊かな自然環境をフィールドとした本物の体験を通した活動も充実させている。常に子供たちの豊かな成長を支えてくださる保護者・地域の方々の力をお借りし「岡上を大切に思う気持ち　自分を大切にする気持ち相手も大切と思う気持ち」の醸成も進めている。年間を通して計画されている、たてわり活動や異学年交流を通して、リーダーシップ＆フォロワーシップの精神もしっかり身につけながら過ごす６年間は、未来の社会を創造していく子どもたちの生きる力をしっかり育んでいる。

◆片平小　103名の新入生を迎え、全学年３クラス601名の素直で優しい子どもたち、54名のやる気に満ちた職員でスタートした。昨年度、地域の皆さまや各校長先生方のご臨席を賜り、創立40周年記念式典を無事行うことができた。春の桜から始まる色とりどりの植栽に毎日迎えられ、40年かけて笑顔があふれる学校に成長している。今年度も見通しをもって粘り強く取り組む主体的な学習活動や、自己及び他者理解を深めながら仲間意識を育む協働的な活動の場を設定し、「やさしくたくましい子」を育んでいきたい。

◆栗木台小　今年度は児童６０７名でスタートした。学校正門横には「にこ　はき　どん」の石碑があり、子ども達の事をいつもどっしりと見守っている。この石碑の言葉には、いつもニコニコはきはきと、そしてどんどん進んで取り組もう！という願いが込められている。その願い通り、子ども達はいつも笑顔一杯で、意欲的に生活をしている。今年度は、体育館の再生整備が実施される。豊かな自然に恵まれた環境の中、子ども達、教職員が相手を尊重し、地域との関わりを大切にして、誰もがそれぞれに高まっていかれる学校を目指し、きれいになった体育館で気持ちよく年度末を迎えたい。

◆はるひ野小　川崎市初の小中連携校として開校してから18年目を迎えた。９学年、約1060名の児童・生徒が同じ校舎・校庭で交流しながら学校生活を送っている。自然が豊かで、地域の方が大切に育てている桜並木が美しいまちである。昨年度に引き続き、小学校、中学校共通の学校経営目標に「ハートフルはるひ野の推進」を掲げた。自他を尊重し、よりよい集団づくりを目指す子どもを、教職員、保護者、地域が三位一体となり、育んでいきたい。

専門研究会議・教育課題研究会議・特別委員会活動報告

研　修　研　究　会　議

１．研修研究会議構成

座　　長　陸田由喜子
〔川崎区〕　楠田　典子・西村　和恵
〔幸　区〕　田中　康子・筒井　愛子
〔中原区〕　小久保裕之・陸田由喜子
〔高津区〕　飯塚　正行・高木　栄二
〔宮前区〕　藤中　大洋・藤原由布子
〔多摩区〕　江良　真一・田中亜希子
〔麻生区〕　福岡　雄二・後藤　智春
担当役員　中野　正明

２．活動方針

○これからの時代に即した、会員の資質・能力の向上に資する学校経営研究の充実る。各支部の研究は、本研究会議で内容を確認しながら進める。
○学校経営に関する先進校等の研究内容や長の取組について、また、関係機関等の視察、講演等を行い、学校経営研究に資するものとする。
○信頼される学校づくりに向けて研究し、活力ある学校運営の推進を図る。

３．活動内容

（１）学校経営研究については、支部ごとにテーマを設定し、学校経営の在り方を積極的に研究するとともに、社会の変化に対応した学校運営の推進、校長の指導力向上に寄与するものとして、その推進を図る。
①本市校長会の「会報」に、全支部の研究報告を掲載する。（会報第号 61 号）
②全市校長会議において、全支部の研究の概要を報告する。（令和８年２月６日）
③県校長会研究大会（川西）で、多摩支部が発表する。（令和８年２月 19 日）
（２）視察研修では、視察機関選定に向けて、学校経営に資する先進的、効果的な取組を行っている機関について調査研究を行う。その後、視察機関を決定し、視察を実施し、その成果を学校経営研究に資するものとする。
（３）学校評価をいかした学校経営のあり方について、校長と総括教諭を対象に研修会を開き、学校経営への参画意識を高めると同時に、活力ある学校づくりを推進する。（７月 14 日）

４．活動日程

・第１回４月10日（木）今年度の計画
・第２回６月６日（金）研修打ち合わせ
・第２回７月14日（月）
　信頼される学校づくりのための
　　学校評価研修会
・第３回11月19日（水）支部原稿検討
・第４回12月18日（木）新小倉小視察研修
・第５回１月22日（木）
　総合教育センターステージ別研修
　　担当者との情報交換会

（１）各支部のテーマ
・**川崎**「充実した学校運営のための体制の構築」
　～校内研究を通した人材育成を考える～
・**幸**「チーム学校としてのマネジメント機能強化」
　～「業務改善」と「働き方改革」を効果的に進めるには～
・**中原**「チームで行う人材育成」
　～心理的安全性を高める学校運営～
・**高津**「社会の変化に対応できる学校づくり」
　～これからの学校経営を支える人材の育成を通してⅡ～
・**宮前**「学校経営における校長のマネジメント」
　～誰一人取り残されない学びの保障に向けた環境マネジメント③～
・**多摩**「魅力あるこれからの学校づくり」
　～持続可能な学校運営に向けての考察～
・**麻生**「第４期教育振興基本計画から考えるこれからの学校づくり」
　～管理職・職員で共に考えるこれからの学校づくり～
・研究の概要報告
　（全市校長会議にて　令和８年２月６日）
・県校長会発表（多摩支部　令和８年２月19日）

（２）「信頼される学校づくりのための学校評価研修会Ⅴ」（令和７年７月14日）
　～学校目標の実現に向けて～
　会場：川崎市教育会館
　講師：川崎市総合教育センター
　　所長　大野　恵美様

（３）「視察研修」
　（全員参加　令和７年12月18日）
【内容】新小倉小学校の概要（校舎設計・多様な学びを支える環境作り・新しい形の職員室・教育課程の工夫など）について説明及び施設の見学を通して今後の学校経営の工夫・改善に向けて学びを深める
【視察場所】　新小倉小学校

（宮内小・陸田）

情　報　研　究　会　議

１．研究会議構成

座　　長　安藤　　勉
〔川崎区〕　中原　義郎
〔幸　区〕　安藤　　勉
〔中原区〕　近藤由起子
〔高津区〕　平井　育子
〔宮前区〕　田中　克義
〔多摩区〕　青木あゆ子
〔麻生区〕　樋口　　彰
担当役員　南谷　隆行

２．活動方針

（１）会 報

「会報」は、年度ごとに校長会全体の活動を記録する。組織の紹介や新会員・退職会員・元会員の思いを載せるなど、今年度も内容の充実を図り、読みやすい会報作成に努める。川崎市小学校教育研究会の組織や活動も提示することで、幅広い内容を伝えるよう努める。

（２）紹介スライド作成

校長・教頭紹介スライド（顔写真）をつくる。

（３）ヒヤリ・ハットの共有

どのように記録し、どのように周知するかを検討する。

（４）会報送付の変更

現職：GIGA 端末上で閲覧
退職校長：希望者のみ自己負担で郵送
（データは C4th に残す）

３．活動内容と経過の概要

（１）会　報

方針に則り 61 号の内容検討を行う。昨年度同様、「校長会全体の活動を記録すること」「新会員・退職会員・元会員の思いを伝えること」を本誌の役割として確認し編集作業にあたる。

（２）校長・教頭紹介スライド

過去に市教委が作成していた校長・教頭の顔写真つき名簿が作成されなくなった。　校長・教頭昇任者が多くなるので、校長や教頭の親睦をはかるため、スライドで顔写真を共有することとした。

（３）ヒヤリ・ハットの共有

USB の使用やクロムブックの活用に伴い、情報漏えい等に関する不祥事となる事案が懸念されている。各学校において、不祥事とはならずともその一歩手前となるヒヤリ・ハット事例がなかったかアンケート調査を行う。調査結果を全市で共有することで、不祥事の発生を未然に防ぐ。

４．活動内容

（１）「会報」61 号の編集・発刊
（２）次年度以降の「会報」のあり方について検討
（３）校長・教頭紹介スライドの作成
（４）ヒヤリ・ハット事例のアンケート調査実施、及び、結果の共有
（５）校長会ウェブサイトの更新

５．活動日程

第１回４月10日（木）活動方針等検討
第２回７月３日（木）ヒヤリ・ハットについて検討
第３回９月１日（月）進捗状況確認
第４回２月６日（金）ヒヤリ・ハット事例集計・検討

６．今年度の検討課題

（１）校長会報の次年度以降の見直し
（２）校長会サイトの今後の立ち上げ
（３）校長・教頭の顔写真スライドの作成の継続
（４）ヒヤリ・ハット事例の共有の仕方

（東小倉小・安藤）

行　事　研　究　会　議

１．研究会議構成

座　　長　松沢　　隆
〔川崎区〕　坂東　　修
〔幸　区〕　勝俣久美子
〔中原区〕　小林　達也・山田　朗生
〔高津区〕　鶴見　悦子
〔宮前区〕　松沢　　隆
〔多摩区〕　猊倉　正樹
〔麻生区〕　大曽根　実
担当役員　山川　佳美

２．活動方針

○校長会主催及び各機関と共催・後援・協力する行事の円滑な推進と支援活動を行う。
○教育課程編成に役立てるために、校長会主催の行事等の充実を図る。

３．活動内容

（１）日光修学旅行（校長会主催）の企画・立案運営にあたる。
①感染症対策や自然災害等からの児童の安全確保及び対応のあり方や実施時期に伴うプログラムを作成する。
②修学旅行実施のあり方等について検討する。
（２）八ヶ岳自然教室（市教委主催）における効果的で安全な活動のあり方について研究する。
①感染症対策や自然災害等からの児童の安全確保及び対応のあり方等を市教委事務局と共有し、対応を図る。
②「自然教室指導の手引き」の見直しへの協力を行う。
③指定管理者制度の下に実施されるさまざまな課題について、関係機関と協議することにより、より豊かな体験活動のあり方について検討する。
（３）校外学習の実態について全市の傾向を探る。
①各校の遠足、校外学習を集約し、行き、交通手段、費用等の現況を報告する。

４．活動日程

第１回４月10日（木）活動方針等の策定
第２回５月９日（金）修学旅行検討事項
第３回６月６日（金）自然教室検討事項
第４回６月18日（水）校外学習検討事項
第５回８月29日（金）前期修学旅行集約
第６回９月29日（金）自然教室他施設
第７回10月24日（金）自然教室他施設
第８回11月17日（月）教育委員会連携
第９回12月５日（金）修学旅行交通手段
第10回１月17日（金）後期修学旅行集約
次年度の計画

５．活動経過

①日光修学旅行関係
・実施報告書を作成し、反省や次年度の要望等の資料とする。
・現地視察と協議によって、今後の修学旅行について検討する。
・緊急事態に備えて、日光と川崎の連絡体制の強化確認を行う。
②自然教室
・実施報告書を作成し、今後の実施に当たっての連絡協議会の資料とする。
・他施設への段階的な移行がスムーズに行えるように情報共有する。
③教育課程編成について
・学校行事をよりよく、安全に実施すめ、校外学習と遠足集団宿泊的行事に関わる情報収集し、随時提供する。

（平小・松沢）

行 財 政 研 究 会 議

１．研究会議構成

座　　長　後藤美智子
〔川崎区〕　後藤美智子
〔幸　区〕　本田　明子
〔中原区〕　伊藤　和江
〔高津区〕　近清えり子
〔宮前区〕　菅原　隆宏
〔多摩区〕　西田　裕子
〔麻生区〕　中西　憲子
担当役員　辰口　直美

２．活動方針

校長会の活動の重点における「協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり」を進めるにあたり、課題となる諸問題について協議検討し、校長会としての施策提案を行う。

各学校における安全で快適な教育環境の整備についての行財政面での諸問題を集約し、具体的な事例や参考となる資料をもとに関係機関との話し合いをもつ。財政的環境の充実、教育環境設備の改善、学校施設の有効活用等が図れるように取り組む。

３．活動内容

（１）学校施設長期保全計画に基づいた改修による再生整備と予防保全により、早期かつ効率的な教育環境の改善に向けて、実態調査や視察を行い、学校・教育委員会と情報の共有化を図る。工事の具体的な留意点について課題を共有し、今後の環境整備の方向性について現状把握と内容検討を行う。今年度実施予定の空調設備更新整備事業の進捗状況の確認と共に、その他の施設・設備の改善の方向性や取組についても情報の共有化を図っていく。

（２）「かわさき教育プラン」第３期実施計画における財政・施設設備等にかかわる諸課題を検討するとともに、市独自の教育予算の効果的な運用について調査研究し、校長会としての提案を行う。地震や風水害等の必要な災害時の避難所開設・運営における学校施設・設備の課題について教育委員会と情報の共有化を図る。また、体育館や給食室の空調設備の設置、太陽光発電設備導入・照明のＬＥＤ化、学校プールの更新等についても情報の共有化を図る。

（３）諸会議へ参加する
・市教委職員安全衛生委員会

４．活動日程

４～９月
・活動方針、年間計画の作成、役割分担
・調査内容の検討と実施、提案内容の討
・環境整備推進室との話し合い
・長期保全計画対応資料の作成及び修正
・教育環境に関わる継続・新規事業の進捗状況の確認と情報整理

10～12月
・提案内容の検討とまとめ
・長期保全計画実施校視察内容の検討
・長期保全計画実施校視察とまとめ
・その他教育環境整備事業の検討

１月
・年間反省と次年度の引継ぎ検討

２月
・視察、アンケート結果、教育委員会との情報共有のまとめを全市へ周知

５．活動経過

４～９月
・活動方針、年間計画の作成
・役割分担、調査内容、提案内容の検討
・環境整備推進室と話し合い
・長期保全計画対応資料の作成及び修正

10～12月
・調査内容、提案内容の検討
・長期保全計画実施校視察内容の検討
・長期保全計画実施校視察
（宿河原小学校）
・長期保全計画実施校視察報告
・アンケート調査の実施、結果報告
・新規事業「体育館空調整備、学校施設包括管理」についての教育環境整備推進室との情報共有

１月・年間反省と次年度の引継ぎ検討

２月・視察、アンケート結果、教育委員会との情報共有のまとめを全市へ周知

（川中島小・後藤）

現職教育研究会議

１．研究会議構成

座　　長　関口　真弓
〔川崎区〕　山口　嘉徳
〔幸　区〕　渡辺　陽子
〔中原区〕　梶　　康子・吉村あかね
〔高津区〕　中尾由美子
〔宮前区〕　伊藤　　肇・後藤　香織
〔多摩区〕　首藤　弘明
〔麻生区〕　朝比奈　浩・芦刈　竜哉
担当役員　五十嵐　忍

２．活動方針

「多様な価値観を受け入れ、自立と協調する心を育てる」「変化の激しい社会を生き抜くための確かな学力を育てる」この大きな目標に向け、教職員には自らの指導力を高めるとともに、使命感と情熱をもって日々の教育実践に取り組む姿勢が求められている。このようなことをふまえ、管理職を含む教職員としての資質の向上や人間性の涵養をめざし、現職教育のあり方を探っていく。

３．活動内容

（１）調査研究活動

・教職経験10年未満の教員が多数を占めている。現状から、教職員としての心得や指導等についての基礎基本を押さえた「教職員に伝えたい」といった内容の「おすすめ研修事例集」を作成し、教職員の資質向上を目指して校内研修の充実を図る。

・モラル面を含めた教職員としてのあるべき姿を示すとともに、かわさき教育プランにある学校の教育力の向上に必要な教職員の体制の構築等の調査研究を行う。

（２）関係諸機関との協力連携

・川崎市総合教育センター主催の研修会の助言者を務めたり、受託役職の諸会合等に出席したりすることにより、関係機関と連携して、教職員の資質向上を図る。

４．活動日程

①４月11日（金）活動日程、活動内容提案
②４月30日（金）新任総括研修（講師）
③５月２日（金）提案内容・調査内容検討
④６月　　教育暦1.2年目アンケート
⑤９月１日（金）おすすめ研修原稿検討
⑥10月17日（金）はたらく人々活用委員会
⑦１月23日（月）県教頭会分科会（助言者）
⑧２月６日（金）今年度のまとめと課題

５．活動の成果と課題

○例年作成している「これだけは　教職員に伝えたい」は、今年度「学校で働く者として」「情報活用」「児童保護者対応」「学習指導」にポイントをしぼり、若手教員に気をつけてほしいことをわかりやすくまとめた。多くの学校で短時間でできる研修資料として、また校長がこんな点に配慮してほしいという意思を伝える一つの方法として活用していただきたい。今後も、「こんなことが知りたい」という現場の声を聞きながら事例の数を増やし、行われた実践例や効果等を集めて改善を図っていく。

○新任総括研修、県教頭会等に助言者としてアドバイスを行った。また、教職員としてのあるべき姿を示すとともに、川崎教育プランにある学校の教育力の向上に必要な教職員の研修や体制の構築に向けての課題把握と改善を行った。今後も、信頼される教職員としての人材育成に向けた取組を続けていくことが重要であると認識された。

○教員歴1.2年以内の教員からアンケートをとった。アンケートの中で教員になり今に至るまでのやりがいや不安など率直な意見を集約した。若手教員として授業づくりへの困り感や課題を把握できたので、今後、関係諸機関との協力連携をしながら解決策を見つけることのできる良い機会となった。

（小田小・関口）

特別支援教育研究会議

１．研究会議構成

座　　長　小碇　早苗
〔川崎区〕北　　良介・紙屋　智子
〔幸　区〕小碇　早苗
〔中原区〕松原　晴美・滝澤　純子
〔高津区〕吉野　晶子
〔宮前区〕秋山　直子・吾妻　典子
〔多摩区〕富谷　千春
〔麻生区〕鈴木みどり
担当役員　五十嵐　聡

２．活動方針

川崎市における特別支援教育の状況を調査し、インクルーシブ教育の理念に基づいた特別支援教育体制の充実や諸課題に対応できる学校運営の在り方についての研究に取り組む。また、特別支援教育に関する情報を収集・共有するとともに、今後の施策について提案していく。

３．活動内容

（１）調査研究活動

①特別支援学級の指導と評価についての調査・研究を進める。
・管理職への評価に関する研修の実施
・支部校長会にて全小学校の課題を聴き取りを行い現状把握し、検討

②毎年増加している特別支援学級の在籍児童や、通常の学級において特別な支援を必要とする児童に対応するための学校運営の在り方について調査研究を進める。
・特別支援学級及び通級指導教室（御幸小学校・大戸小学校）への施設・授業見学、研修
・関係諸機関との情報交換

③特別支援教育にかかわる情報を収集し、情報共有を行う。
・関係諸機関との情報交換

（２）関係諸機関との連携・協力
・川崎市特別支援教育問題研究協議会
・川崎市教育支援会議
・川崎市通級指導教室設置校長会
・川崎市特別支援教育研究会
・神奈川県特別支援学級設置校長協会
・神奈川県特別支援教育研究会
・全国特別支援学級設置校長協会

（３）その他
・特別支援教育の実態に関する情報収集と対策
・特別支援教育に関する諸問題への対応

４．活動日程

４月10日　活動方針、活動計画の検討
役割分担

４月21日　「校長研修」の運営
「特別支援学級における指導と評価」
（講師：特別支援教育センター黒江千尋指導主事）
⇒振り返りフォームによる質問への指導主事からの回答をC4thで全体へ共有

６月18日　御幸小学校通級指導教室
施設見学・研修
提案内容検討
⇒見学内容を「通級指導教室見学」スライドにまとめ、全体へ共有（※）

９月24日　大戸小学校特別支援学級見学・研修・課題検討
⇒見学内容を「大戸小特別支援学級見学」スライドにまとめ、全体へ共有（※）

10月29日　課題検討
（参集＋オンライン）

12月～１月　課題研究　研究のまとめ
（書面開催）

２月17日　活動のまとめと次年度に向けた課題整理
（参集＋オンライン）

＊学校体制改善会議の「学校体制改善」サイトへアップしていただき情報共有
（古市場小・小碇）

危機管理研究会議

１．研究会議構成

座　　長　今　　広道
〔川崎区〕　佐藤　茂樹・仙田　清孝
〔幸　区〕　宝谷　拓之
〔中原区〕　二川　義明
〔高津区〕　押田　春美
〔宮前区〕　丸尾　明彦
〔麻生区〕　支倉　圭太
〔麻生区〕　齊野　裕子
担当役員　五十嵐　聡

２．活動方針

本研究会議では、「川崎市学校防災対策指針」に基づいた各校の「危機管理マニュアル」の実効性を高めるよう研究を進めてきた。「関係機関との連携（顔の見える関係）」を進めるべく、各区危機管理担当、教育委員会庶務課・健康教育課、危機管理室との打合せを行い、学校の現状、明確になった「学校の役割の確認」などを行った。その間、「ミマモルの活用」「LoGo チャットの導入」による連絡体制の充実など、児童の安全が担保できるような学校の運用を模索してきた。

今年度は、今で積み上げてきた研究を進める形で、次の６点を課題として研究を進めていく。

①近年続く、地震における対応についての問題点の明確化【最重要課題】
②風水害時の学校の適切な対応の検証
③学校防災対策指針を基に作成された各学校の危機管理マニュアルの検証と実効性向上の方策
④学校防災対策指針の理念の継続と管理職・防災担当者の理解の推進
⑤風水害対応が起こった場合の他部署との連携の強化
⑥令和７年度版発災から学校再開までのロードマップ検討

課題の解決に向け、教育委員会事務局等の関係機関との連携を継続し、各種マニュアルを見直す。教職員の危機意識の向上に向けた取組を行う。

３．活動内容

（１）課題の解決に向けて、災害への備えや危機対応についての校長や学校、教職員の在り方についてまとめる。
（２）発災から学校再開までのロードマップを検討する。
（３）緊急事案の対応を振り返り、再来に備える。
（４）令和６年能登半島地震を受けて、課業日以外、休日等に大地震が起こった場合の対応について考えていく。
（５）携帯トイレ、マンホールトイレの活用訓練を行う。
（６）大地震が起こった時の学校とわくわくプラザの連携について考えていく。

４．活動日程

第１回４月12日　活動方向性の確認
第２回４月22日　わくわくプラザとの連携
第３回５月28日
第４回６月26日
第５回７月15日　マンホールトイレ設置訓練について
第６回９月３日
第７回９月10日　マンホールトイレ設置訓練研修場所　川崎市立坂戸小学校
第８回10月30日
第９回12月19日　土曜日に大地震が起きた時の対応について
第10回１月22日　大地震時のわくわくプラザとの連携について
第11回２月　次年度へ向けて

移動の負担を減らすため、会議は双方型オンラインで実施する。

（中野島小・今）

人権・児童指導研究会議

１．研究会議構成

座　　長　宮原千恵子
〔川崎区〕　上野　和美・若狭　美加
〔幸　区〕　柴田　　薫
〔中原区〕　菊地美和子・横山　里恵
〔高津区〕　米倉　竜司・松澤ゆかり
〔宮前区〕　山本　　直
〔多摩区〕　宮原千恵子
〔麻生区〕　小堤　紀子・末武由布子
担当役員　森島　美子

２．活動方針

子どもたち一人一人が自己肯定感をもち、意欲的に自己実現できることが、私たち教職員の大きな願いである。しかし、子どもたちを取り巻く環境が変化し、様々な問題を抱えている子どもや家庭が増えている状況がある。このような現状を子どもの人権・児童指導の観点からとらえ、情報交換および研究協議を重ね、子どもの視点に立った学校経営のあり方について追究する。

①外国につながる児童、性的マイノリティー等を含む、人権尊重を基盤とした学校の対応
②いじめ、不登校等、児童支援に係る課題への対応

３．活動内容

（１）調査研究活動
①「外国につながる児童」「性的マイノリティー」等を含む人権尊重を基盤とした学校の対応に関する課題についての研究を進める。
②「いじめ」「不登校」「教室に入れない児童」等、児童支援に係る課題についての研究を進める。
③子どもの人権意識を育み、教職員の人権意識を高めるための情報交換を通して事例を検討する。
④本研究会議の情報を支部校長会議等へ提供することで、各校の人権・児童指導の充実、教職員の意識の高揚を図る。
＊スライド「子どもたちと共に～個別指導や教室に入れない児童の居場所、外国につながる児童の学びの場」の作成

（２）各機関との連携
①各機関との連携会議に参加し、児童生徒に関わる諸問題について研究協議を行う。
・教育政策室 人権・多文化共生教育担当
・教育政策室政策推進担当
・学校教育部支援教育課 不登校対策担当
・総合教育センター　指導主事
・各区の地域みまもり支援センター
・こども未来局
○川崎市学校警察連絡協議会
○川崎市児童生徒指導研究会議
○川崎市いじめ防止対策連絡協議会
○児童の自殺予防に関する普及及び啓発協議会
○川崎市外国人教育推進連絡会議
○川崎市要保護児童対策地域協議会代表者会議
○不登校対策に係る懇談会
○川崎子ども夢パーク運営懇話会
○川崎子ども会議推進委員
○子どもの権利学習資料検討委員会　等
②中学校長会人権教育推進委員会と情報交換・研修を行い、課題の検討及び連携を図る。

４．活動日程

４月10日（木）	活動方針、年間計画作成
５月８日（木）	提言内容検討、調査研究 受託役職確認
６月10日（火）	提言内容作成、調査研究
７月７日（月）	調査研究、情報交換
９月24日（水）	小・中学校合同研修・情報交換
10月９日（木）	調査等内容等の検討
11月17日（月）	調査等内容等の検討
12月18日（木）	調査研究のまとめと考察
２月13日（金）	成果と課題等の検討、年間反省

（南菅小・宮原）

学校体制改善研究会議

１．研究会議構成

座　　長　川村　雅昭
〔幸　区〕　滝口　太志
〔中原区〕　五十嵐礼子
〔高津区〕　栃木　彰子
〔宮前区〕　小林　美代
〔多摩区〕　棟居　　謙
〔麻生区〕　長嶺　祐介・袴田　深雪
担当役員　山川　佳美

２．活動方針

日々新たな課題に追われる学校現場において、子供も大人もがやりがいをもって教育活動に参加できるように学校運営体制や教育課程編成、日課や週時程について研究を進め、改善に努めている。また、効率的に校務を進めるため、DX 化推進や水泳外部委託、徴収金の外部委託など市が推進する事業についても各会員に情報提供を行っていく。

＜各校の取組、好事例等の情報提供＞
◎教育課程の円滑な実施のために、授業内容充実と効果的なＧＩＧＡ端末活用、カリキュラム編成、週時程見直し等の提案
→学級担任制から複数教員による学年担任制への移行・試行
→非常勤職員も含めた人事配置の工夫
→週時程の工夫、モジュールの効果的な活用とカリキュラム再編成
→効果的な授業時間の運用　清掃活動の工夫等
→学校の儀式的行事や遠足的行事の見直し
→年間反省など学校運営改善に向けた会議方法の改善
◎学習形態の工夫と外部提携・人材派遣
→外部委託による水泳学習の実施や水泳学習への地域スポーツ人材活用（効果と検証）
◎ＤＸ化の推進
→学校だよりや学年だよりの合体化、ＨＰ掲載、ペーパレス会議等の推進
→ AI による業務改善の推進

３．活動内容

（１）校務の効率化
○ GIGA 端末を利用した校務の在り方
・Google サイトを利用した情報の共有
・会議時間の短縮
・ペーパーレスの促進
・スプレッドシートを利用した事務支援ファイルの紹介
○「学校体制改善サイト」による校長・教頭の情報共有の推進
（２）教育課程の実施に必要な人的・物的な体制の確立と改善
・職員配置の工夫と持ち時間の分散化
・学年担任制に向けた取り組みの紹介
・支援教育に向けた人的・物的な取り組み紹介
・働きがいを喚起する取り組み例
・包括管理委託の現状紹介
（３）水泳外部委託事業展開に向けての取り組み
○健康教育課との情報交換と会員への伝達
＊他の研究会議活動内容と重なる部分もあるため、連携、協力しながら進めていく。

４．活動日程

４月　・活動方針、内容の検討
　　・年間計画作成
　　・運営会議にて提案
５月　・教育経営推進会議で重点課題を報告
　　・全市校長会議で提案
６月　・GIGAサイトの作成
　　・各支部へ情報提供の依頼
　　アンケート等実施・結果分析
７月　・教育委員会意見交換会、情報交換会への提案内容検討
　　・情報交換会への参加
９月　・各支部情報交換（サイト更新）
　　・教頭にも学校体制改善の取り組みを公開
10月　・各支部情報交換（サイト更新）
１月　・今年度のまとめ
２月　・次年度の課題
　　かわさき教育プランと体制改善

（登戸小・棟居）

こころの劇場特別委員会

１．「こころの劇場」特別委員会の構成

委 員 長　森島　美子
〔川崎区〕　上野　和美・若狭　美加
〔幸　区〕　小碇　早苗・柴田　　薫
〔中原区〕　清水　弘彦・滝澤　純子
〔高津区〕　鶴見　悦子・吉野　晶子
〔宮前区〕　吾妻　典子・松沢　　隆
〔多摩区〕　棟居　　謙・西田　裕子
〔麻生区〕　袴田　深雪・大曽根　実
担当役員　南谷　隆行・五十嵐　忍

２．「こころの劇場」内容とねらい

「こころの劇場」は、日本全国の子どもたちに演劇の感動を届けるプロジェクトとして、財団法人舞台芸術センターと劇団四季、そして、この趣旨に賛同する多くの企業や行政の協力により無料で実現している全国規模の事業である。この事業では、舞台芸術を通して子どもたちの心を育み、豊かな社会の実現をめざしている。

本市では、平成21年度より小学校長会主催で「こころの劇場」を発足し、川崎市教育委員会の協力を得ながら、徐々に参加校を増やした。平成24年度には市内全校参加の取組となり、平成27年度からは川崎市教育委員会の共催を得て支援を受けながら事業を進めている。

本事業は、川崎の子どもたちが舞台芸術を介し「生命の尊さ」「人を思いやる心」「信じあう喜び」「仲間の大切さ」などについて、学べる貴重な体験となっている。

３．「こころの劇場」特別委員会として

本事業は、17年目を迎え、市内全校参加となってから14年目となる。平成30年度から会場を川崎市教育文化会館からカルッツかわさきへ移し、川崎市麻生市民館と２会場で公演を行っている。児童の昼食場所として、川崎競輪場や麻生小学校なども貸与いただいている。令和元年度は富士見中学校も貸与いただいた。

令和元年度までは、「こころの劇場」特別委員会の委員を中心に各学校の協力を得ながら、６日間の運営を行っていた。しかし、令和２年度はコロナ禍により劇団四季の状況から開催は中止になった。令和３年度も見通しが立たないままだったため、構成メンバーは、担当役員のみとした。そのような中ではあったが、５月になって劇団四季より動画配信による「こころの劇場」実施のお知らせが入った。小学校長会としては、動画配信であっても人とのかかわりや思いやる心など子どもたちの心を育む一助になるではないかと考え、受け入れた。しかし、年度途中のため希望校のみの実施とした。令和４年度も同じく動画配信での実施となったが、令和５年度から久しぶりに２会場で観劇が再開した。

今年度の演目は「ふたりのロッテ」である。離ればなれに暮らしていたふたごの姉妹が、力を合わせて困難に立ち向かい、家族の絆を取り戻そうとする物語である。ドイツの小説家エーリッヒ・ケストナー作「ふたりのロッテ」は、子どもにも読ませたい児童文学100選にも選ばれている世界的名作である。劇団四季による10年ぶりの演目になる。性格も特技も全く正反対の姉妹。両親の事情で赤ちゃんの時に離ればなれになったことが分かったふたりは、再び両親と４人で暮らせるようにある作戦を実行。ふたりが奮闘する姿はユーモラスでありながらも切なる願いが伝わってくる。家族、友達、人とのつながりなど大切なものは何かについて改めて気づく物語である。

名作ではあるが、今の時代の家庭の背景を考えると、一考を要する演目であったことは拭えない。

「これまでの演目」

○平成21年度「人間になりたがった猫」
○平成22年度「エルコスの祈り」
○平成23年度「はだかの王様」
○平成24年度「ガンバの大冒険」
○平成25年度「桃次郎の冒険」
○平成26年度「ふたりのロッテ」
○平成27年度「むかしむかしゾウがきた」
○平成28年度「エルコスの祈り」
○平成29年度「ガンバの大冒険」
○平成30年度「王様の耳はロバの耳」
○令和元年度「はだかの王様」
○令和２年度「人間になりたがった猫」
　※新型コロナウィルス感染症の為中止
○令和３年度「はじまりの樹の神話」
　※動画配信（R4.2.14～2.18）
○令和４年度「人間になりたがった猫」
　※動画配信（R4.11.14～11.18）
○令和５年度「人間になりたがった猫」
○令和６年度「エルコスの祈り」
○令和７年度「ふたりのロッテ」

（宮崎台小・森島）

通知表検討特別委員会

１．通知表検討特別委員会の構成

委 員 長　南谷　隆行
〔川崎区〕　関口　真弓
〔幸　区〕　筒井　愛子
〔中原区〕　陸田由喜子
〔高津区〕　大泉　文人
〔宮前区〕　西村勇一郎
〔多摩区〕　栃木　達也
〔麻生区〕　中西　憲子

２．内容とねらい

◆「のびゆくすがた」に関する内容の整理・のびゆくすがたに関する声などを整理して情報・視聴覚センターに伝え、改良できることについて協議し、のびゆくすがたに反映させていく。

◆「のびゆくすがた」の校正作業を行う。
※この作業については、令和５年度より、研修研究会議から本特別委員会に移された。

３．令和７年度の活動内容

（１）「のびゆくすがた」校正作業

・５月８日
「学習のめあて」（１・２年関口、筒井）（３・４年陸田、大泉）（５・６年　西村、栃木）「生活のめあて」「学習・行動状況一覧表」（中西、南谷）の文言　チェック

・５月27日
のびゆくすがた表紙、修了証書の校長名、校印等について、文書施行にて全校に送付、各校でチェック

・６月３日
全校によるチェック終了

・６月５日
学事課に初校提出

・６月９日
修正箇所について学事課と協議

・６月11日
修正箇所について学事課と協議、第２校提出
※校正作業については、概ね昨年度と同じスケジュール感で作業が進められた

（２）のびゆく姿の様式変更
令和６年度より前期に所見を書かないこととなり、それに合わせて令和７年度より前期通知表から所見欄を削除した。

（３）次年度「のびゆくすがた」準備

・１月14日
学事課より、次年度の仕様についての相談

・１月20日
校長会企画会議で検討

４．これまでの経緯

平成30年度
・今までの「のびゆくすがた」の課題を洗い出すとともに、新しい「のびゆくすがた」に期待することについて、アンケートを実施し、分析と話し合いを重ねた。

令和元年度
・「のびゆくすがた」を６年間、家庭で保管するファイル形式にすること、ファイル費用は受益者負担であることを、校長会で説明し承認をもらった。
・「学習・行動状況一覧表」と「のびゆくすがた」「指導要録」が入力上、連動するシステムになることを、校長会で説明し承認をもらった。
・情報・視聴覚センターと会議を重ね、使いやすいC4thになるよう要望を出した。
・学事課と「学習・行動状況一覧表」と「修了証書」ついての会議を持ち、要望を出した。
・校章と職印を改めて114校から集め、学事課に送った。今後は、学事課と校長会での保管となる。

令和２年度
・C4thでの入力やプリントアウトした用紙について業者と会議を持ち、細かい要望を出して修正をかけた。
・「学習・行動状況一覧表」と「修了証書」の印刷業者との打ち合わせを細かく行い、小教研の各研究会長や、全校長の協力を得ながら、完成に至った。
・カリキュラムセンターの協力を得ながら「のびゆくすがた」手引書を作成し、サインズにアップした。各学校でプリントアウトする形式にした。

令和３年度　・連絡調整
令和４年度　・前期の所見について検討
令和５年度　・前期の所見なし
　　・担任印の欄削除
令和６年度　・各学校の校長名・印確認
令和７年度　・前期書絢欄を削除

（子母口小・南谷）

学習状況調査特別委員会

１．委員会構成

委 員 長　小川　　幸・神宮　祥恵
〔川崎区〕　坂東　　修
〔幸　区〕　小川　　幸
〔中原区〕　横山　里恵
〔高津区〕　近清えり子
〔宮前区〕　伊藤　　肇
〔多摩区〕　猊倉　正樹
〔麻生区〕　長嶺　祐介
担当役員　辰口　直美・堀江　広志

２．研究のねらい

令和３年３月に出された「かわさき教育プラン第３期実施計画」の「基本政策Ⅱ - １」には、「確かな学力の育成」が掲げられており、ここでは、「すべての子どもが『分かる』ことをめざして、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的にした学習活動の充実を図っていく」ことが示されている。そのために、学習状況調査の実施学年を拡大し、そのデータを活用して教育活動の質の向上と学習効果の最大化を図ると、示されている。

令和５年度から新しくなった学習状況調査を活かして、学習指導要領、かわさき教育プラン、学校教育目標等で示された資質・能力の育成に向けて、児童、各学校、校長会・各研究会、教育委員会のそれぞれが主体となり、RPDCA サイクルを進めていく。

また、全市小学校で、以下の調査の目的について共有しながら、研究を進めていく。

〇学校や教員が子どもたちの学習状況を的確に把握することにより、指導方法や教育課程の検証・改善に役立てる。

〇子どもと保護者に学習状況を伝え、一人一人の子どもの学習に取り組む態度や、家庭での学習のあり方の改善に役立てていく。

３．主な研究内容

１　川崎市学習状況調査のねらいや内容に沿って効果的な調査のあり方について研究する。

２　教育課程や指導方法の検証・改善に活かすために、結果の処理方法等について検討する。

３　調査結果を受け、学習指導要領の観点を考慮に入れながら、各学校で指導法改善について検証・検討するように働きかける。

４　本調査の円滑な実施に向け、実施方法や内容について検討する。

４．学習状況調査の流れと活動日程

４月８日（火）～25日（金）	川崎市学習状況調査実施
６月	川崎市学習状況調査について全市小学校長にアンケートを実施し意見集約
７月	委託業者と学習状況調査特別委員会委員長との意見交換会
７月	結果返却
夏季休業	各校で研修、結果分析 授業改善に向けた取組
10月	委託業者と校長会の代表者との意見交換会
前期末	報告書作成
年度末	振り返り 次年度方針へ反映

〇教科調査の問題作成、採点とアンケート作成、集計は、川崎市教育委員会が委託する業者が行う。

〇個人結果表を夏休み前に返却し、結果に連携したGIGA端末のドリルパークの有効活用を推進する。

〇学校ごとに結果分析を行い、前期末までに学校としての報告書をまとめ、保護者や地域に提示する。

〇児童個々の学力向上が目的であるので、市内各校の序列化、競争を助長するような結果処理は行わない。

〇調査研究推進は、小教研、カリキュラムセンター等との連絡を密にし連携して行う。

（夢見ヶ崎小　小川・西野川小　神宮）

研究
研修

参加報告

第77回
全国連合小学校長会
研究協議会　福岡大会

期　日　令和7年10月15日（水）～17日（金）
会　場　福岡サンパレス・福岡国際会議場
日　程　第１日目　開会式　文部科学省講話
全体会　分科会
　　第２日目　全体会　講演　閉会式
参加者　全国各地より2200余名、川崎市からは14名（県役員枠２名を含む）が参加

【大会主題】
　自ら未来を拓き　ともに生きる豊かな社会を創る
日本人の育成を目指す小学校教育の推進
［副主題］
　志を持ち　多様な人々と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進

＜開会式＞
・大会会長・実行委員長の挨拶の後、文部科学省審議官、福岡県知事、福岡市長が祝辞を述べた。
＜文部科学省講話＞
・「当面する初等中等教育上の諸課題」という演題のもと、田村　学　初等中等教育局から熱いエールが送られた。
＜全体会（第１日目）＞
・日程説明、運営委員会構成・本部の報告、大会主題・研究課題に関する趣旨説明、大会宣言に関する提案がなされた。
＜分科会＞
・大会主題・副主題のもと13分科会で研究協議を行った。
【第１分科会】経営ビジョン
創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定
【第２分科会】組織・運営
学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営
【第３分科会】評価・改善
学校教育の充実を図るための評価・改善
【第４分科会】知性・創造性
知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進
【第５分科会】豊かな人間性
豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進
【第６分科会】健やかな体
健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進
【第７分科会】研究・研修
学校の教育力を向上させる研究・研修の推進
【第８分科会】リーダー育成
これからの学校組織を担うリーダーの育成
【第９分科会】学校安全
命を守る安全教育・防災教育の推進
【第10分科会】危機対応
様々な危機への対応と未然防止の体制づくり
【第11分科会】社会形成能力
持続可能な社会を創造する力を育む教育活動の推進
【第12分科会】自立と共生
自立と共生の実現に向けた教育活動の推進
【第13分科会】社会との連携・協働
家庭や地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進
・各都県の先進的な実践をもとに情報共有を行い、克服すべき課題や校長が果たすべき役割、発揮すべき指導性について６～７人のグループで熟議を重ねたのち、全体で共有が図られた。
＜全体会（第２日目）＞
・研究部長より、前日の各分科における協議の概要が報告され、研究のまとめが行われた。
・「大会宣言」が正式に宣言された。
＜講　演＞
演題　「志す」
講師　外尾　悦郎 氏(聖家族贖罪聖堂彫刻家)
・世界を舞台に活躍されている外尾氏の生き方、考え方からは福岡大会において我々校長や未来を創る子どもたちへのメッセージをいただいた。
＜閉会式＞
・大会会長・実行委員長から今大会に至るまでの経緯が改めて紹介され謝意が表されるとともに、成果を参会者全員で共有した。
・次期開催県代表からは、次期開催に向けて力強い決意が述べられた。

（白幡台小・五十嵐）

第77回
関東甲信越地区小学校長会
研究協議会　新潟大会

期　日　令和７年６月19日（木）～20日（金）
会　場　朱鷺メッセ
　　新潟コンベンションセンター
日　程　第１日目　開会式　全体会
　　第２日目　分科会・分散会
参加者　関東甲信越地区１都９県より950名程度、川崎からは13名が参加

【大会主題】
　自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
［副主題］
　未来を拓く新たな価値を創造し、豊かな社会を　つくる子どもを育む学校経営

記念講演
演題　「新潟から世界へ」
　　～地域密着！教育・観光・産業に貢献～
講師　国友　慎之助 氏（CHIBIUNITY 代表）
・自己紹介　高知県出身の 43 才。母親の影響で幼少期よりダンスに親しむ。高知といえば「よさこい」。芸能界にも関わらせてもらい、様々な経験を経て、15 年前に新潟にダンススタジオを立ち上げた。
・ダンスチームの「CHIBIUHITY」を立ち上げ、社会貢献活動を含めて幅広い活動を行っている。国際的な活動も行っている。ダンスの人気は年々高まり、ブレイクダンスなどはオリンピックの種目になった。社会に及ぼす影響は絶大である。学校での教育活動にも取り入れ、ダンスを通じた複合プロジェクトにも発展している。学校教育への導入モデルも作製している。また、観光とも結びつけ、地域振興にもつなげたいと考えている。さらに、医療や農業等もダンスとつなげ、様々な分野と連携させていきたいという目標について語られていた。

分散会
　今大会では全連小が掲げる主題のもと、副主題を上記のとおりとし、５研究領域･12 分科会･20 分散会で研究協議を行った。（丸数字は分散会番号）
　Ⅰ　学校経営
　　A　学校経営・評価　①②
　　B　組織・運営　③④
　Ⅱ　教育課程
　　C　知性・創造性　⑤⑥
　　D　豊かな人間性　⑦⑧
　Ⅲ　指導・育成
　　E　研究・研修　⑨⑩
　　F　人材育成　⑪⑫
　Ⅳ　危機管理
　　G　学校安全　⑬
　　H　健全育成　⑭⑮
　Ⅴ　教育課題
　　I　自立と共生　⑯
　　J　情報・環境　⑰⑱
　　K　国際理解教育　⑲
　　L　連携・接続　⑳
・各都県の先進的な実践について情報共有を行いながら、克服すべき課題や校長が果たすべき役割、発揮すべき指導性について究明が図られた。
・報告者は、第 20 分散会（Ⅴ 教育課題 分科会Ｌ「連携･接続」）に参加し、相模原市の「自己実現を育成する教育課程のあり方～小中一貫教育を活かしたキャリア教育を推進する校長のリーダーシップ～」と、新発田市の「創意あふれる教育活動を展開するための持続可能な家庭・地域との連携の在り方を求めて」の２本の提案をもとに、同グループの５名（東京都福生市、埼玉県狭山市、新潟県長岡市、新潟県三条市、新潟市）の方々と、意見交換を行った。キャリア教育については、外部人材や外部機関との連携が重要。今回の発表では、大学との連携ができているので、幅広い活動が期待できる。地域の特徴を活かして、人材活用が進んでいる。コミュニティースクールについては、学校運営協議会のメンバー構成が重要。どういった人材を置くかで、会の方向性が決まってくる。学校が何をねらっているのか、どういうことに困っているのかという情報を PTA 会議や CS 会議等でしっかりと伝えていくことが必要である。学校運営協議会は、自主運営できるように学校が少しずつ手を引いていくことが大事である。というようなことが話題になり、実り多い情報交換となった。学校現場が抱える苦労等は、いずれも同様であることが確認され、一体感が感じられるような分散会となった。

（南野川小・西村勇一郎）

第79回
指定都市小学校長会
研究協議会　静岡大会

期　日　令和７年11月13日(木)～14日(金)
会　場　ホテル グランヒルズ静岡
参加者
小林勝弘（会長・西菅）袴田深雪（発表者・栗木台)、森島美子（副会長･宮崎台)、山川佳美（副会長・川崎)、五十嵐聡（副会長・宮前)、辰口直美（書記・新城)、南谷隆行（書記・子母口）

大会主題

「新しい時代を切り拓く力」を育む学校経営
校長は、これからの教育の方向性を確かにとらえ、連携による「チームとしての学校」を機能させ、創造的で持続可能な学校経営を積極的に進めていく必要があり、そのためには
●子どもと教職員の命と人権を守り、ウェルビーイング実現のため、多様な教育ニーズに対応したマネジメント力の向上
●教職員にとってやりがいのある、子どもにとって居心地の良い教育環境づくりなど安全安心の確保
●主体的に社会形成に参画できる人材の育成と、地域の特色やつながりを生かした教育の推進
●家庭・地域社会・関係機関との創造的な教育活動推進のパートナーとしての良好なな連携体制の構築
●確かな学力育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と教科指導力向上の推進
●多様性を尊重した教育を充実させるため、ユニバーサルデザインの視点で授業を見直し、どの子にも分かる授業の実践と研修の充実
●学校経営の力量を港珠澳させ、教育改革のリーダーとして指導制を発揮できる、教育DX等の先進事例に触れる校長研修の充実
●教育委員会と連携した教職員の待遇改善や教育条件整備の推進

これらの活動に重点を置きながら、校長の経営力や指導性の工場が一層必要になってくる。今大会では、これらを踏まえた大会宣言が採択された。

他市の校長先生方と今日的課題について情報交換することができ、有意義な時間となった。

また、2日目の講演会では、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所宇宙飛翔工学研究系准教授である月崎竜童氏による「宇宙探査と学校教育」という講演が行われた。

（子母口小・南谷隆行）

第62回
神奈川県小学校教育研究会
中央研究大会　川崎大会

日時　令和８年２月４日（水）
場所　川崎市教育会館・川崎市立小杉小学校
形式　オンライン、分科会参集形式

大会主題

基礎基本を身につけ、自ら学び、他者と協働し、心豊かに生きる子どもの育成をめざした小学校教育の創造　～「見方・考え方」を働かせて、考えることができる子どもの育成～

記念講演
脚本家　徳永　友一氏
テーマ「自分らしく生きるために大切にしたいこと　～『学校でなぜ学ぶのか』改めて考える～」 いろいろな方向から話題が提供され、お二人の先生の掛け合い話を楽しく聞くことができた。内容に「授業は変わりましたか？」「知識技能、思考力判断力表現力、学びに向かう力は三位一体」「先生のめあてと子どものめあて。何を大切に授業を進める？」「先生も子どももウェルビーイング」「体験の大切さ、他者の経験を共有する」「自立ではなく自律、子どもの意思決定､選択が大切」「すぐには身に付かない、長期戦」「デジタルとアナログ、バランスをとることが大事」などがあり、時にドキッとしたり、なるほどと感心したりしながらお話を聞けた。最後に「神奈川には子どもを大事にする文化があるので、子どもが目立つ授業、子どもを表現者にする授業を」と鹿毛先生からエールをもらい、田村先生からは「授業研は止めないで自信をもって取り組んでほしい」と応援していただいた。

午後は、19の分科会に分かれ、第１提案は川崎から、第２提案は横浜からの順番で行われた。算数分科会の川崎の提案では、６年「比」の実践を通して、数学的な見方・考え方を育てるために、材の工夫や見取りと問い返しの工夫についての提案がされた。会場からは単元を通して見方・考え方は身に付いたと言えるか、他に使えそうだというところまで育ったのかなどの質問が出た。横浜の提案では、５年「帯グラフと円グラフ」の実践で総合的な学習の時間とも合わせた教科横断的取組だった。学校の縦割り活動が納得できるものになっているかという問いのもと、帯グラフや円グラフを使って考察する流れで、生データを扱っている難しさ、単元構想の内容など質問が出た。

（百合丘小・長嶺）

記念行事

藤崎小学校　　創立 70 周年記念式典
「つないでいこう　光り輝く藤っこプライド」

11 月 1 日、来賓として歴代校長、歴代 PTA 会長をはじめ地域の方々にも多数ご参加いただき、「藤崎小学校創立 70 周年記念式典」を行うことができました。

藤崎小学校は戦後の傷跡がまだ其処かしこに残る昭和 30 年に歩み始めました。校舎はブロックを積み上げただけの２階建てで教材や教具も揃っておらず、校庭にはガラ残土が残っていたそうです。地域の方々や当時の教職員が力を合わせコツコツと整備を重ね教育環境を整備していったという話を聞いたとき、地域の学校に対する期待の大きさに、身が引き締まる思いがいたしました。また、日々登下校の見守りや学校の教育活動を支えてくださっている方々や、豊かな学校生活になるように力添えをしてくれている」PTA の皆様の存在、文化や発展を享受できる地域の風土が藤崎小学校を教育を支える大切な礎であると思います。このことは朝会や行事など機会を捉え子どもたちに伝えていきました。各学年、それぞれの学びに合わせ学校の歴史や地域のことを知る中で、感謝の気持ちや誇り、そして未来につないでいかなければという使命感などが、子どもたちの中に生まれてきたことは大変嬉しいことでした。

記念事業として副読本の作成や校歌をアレンジしたダンス曲の作成、藤棚の設置を行いました。副読本や校歌ダンスはこれからの学びに実際に使われていくものになることでしょう。校章のモチーフになっている藤は数年後きれいな花を咲かせ始めるでしょう。藤の花言葉は「優しさ」「絆」だそうです。藤の花のように、藤崎小学校も地域と深く結びつきながら新たなスタートを切っていきます。子どもたちが未来に夢と希望を抱きながら成長できる学校であるよう、教職員一同、力を尽くしてまいりたいと思います。

（上野　和美）

東小田小学校　　創立 70 周年記念式典
「笑顔いっぱい東小田～夢をもって楽しくすごそう～」

12 月 6 日（土）東小田小学校創立 70 周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代 PTA 会長をはじめとして、元職員や地域の方々にも多数ご参加いただきました。子どもたちの「自分たちが地域の方々と一緒にお祝いし、盛り上げる創立 70 周年式典にしたい」という思いが叶えられました。

式典の案内役は創立 60 周年式典の時のキャラクターであるメタちゃんと、70 周年のキャラクターであるチェリーちゃん。まず、東小田小の歴史を映像で振り返りながら、70 周年のスローガンを発表しました。そして、みんなで作った『夢』の文字をスクリーンで観ていると、妖怪バクがその『夢』を真っ黒にしてしまい、おしり探偵による捜査が始まるというわくわくするような流れで式典は進行していきました。みんなの夢を真っ黒にしてしまった妖怪バクの魔法を解くには、ドリームファートガンに『言霊エナジー』をチャージし、言霊エナジーを満タンにしてバクにドリームショットを打ち込むしかない。そのためには、皆の力が必要だということで各学年の発表が始まりました。

最初は３・４年生による「空より高く～みんなの夢をのせて～」と題しての合奏と合唱。連合音楽会が式典の２日前にあり、自信を持って心を合わせて発表をすることができました。３・４年生の力で言霊エナジーのポイントを増やすことができました。そして、1 年生による「がっこうだいすき」の呼びかけと手遊び歌、２年生による「気づいたよ！町の人の思い」の発表と歌、全校による「ありがとうの花」の合唱と続き、言霊エナジーを次々と増やすことに成功しました。

式典の後半を飾るのは、高学年です。５年生による「昔から今へ～つながる私たち～」の劇と合奏では、タイムマシンにのった５年生が昔を振り返りながら今の自分に焦点をあて、こうしたいという未来の自分の姿を堂々と発表することができました。最後は最高学年６年生です。６年生は「盛り上げよう！東小田の町」との発表の演目の通り、自分たちが住んでいるこの町を盛り上げるため、様々な取り組みに挑戦してきました。その取り組みの一つが地域で行っている盆踊りです。自分たちが積極的に地域の盆踊りに参加し、盆踊りの際に出店しているお店のお手伝いなどをしながら、地域のために自分たちができることをしようと頑張ってきました。発表ではさらに自分たちで、校歌をアレンジして盆踊り『東小田音頭』を作り、踊り方を全校の子どもたちに教え、全校での盆踊りを披露しました。

全校の子どもたちの元気と笑顔に満ちた発表で、言霊エナジーを満タンにしてバクの魔法を解くことに成功しました。そして、みんなが明るい未来に向かって共に生きる道を歩んでいこうと決意し、これからも協力して素敵な東小田小学校を作り上げていきましょうとの宣言で、式典が終わりました。

当日ご参加いただいた方から「とにかく素晴らしかった」「感動した」とのお言葉とともに「式典を自分たちで作り上げようとする児童の姿から、充実した学校生活が送れていることが感じられた。」「子どもによるパワーに圧倒された」等々の感想も頂戴しました。

今回、70 周年に関連する様々な行事等を通じて、子どもたちだけでなく、保護者や教職員も日頃から地域の温かい支えがあることを改めて知ることができ、その有り難さに深く感謝しました。

学校の校歌に「集まれ竹の葉の旗の前に」とあります。竹は 20cm ほど伸びては成長を止め、節を作り、また成長の繰り返しをして伸びていきます。70 周年という大きな節目に自分たちの成長を確かめ、次の目標を立てていく良い機会を得ました。さらに次の 80 周年、そして 100 周年に向けて、新たな東小田小学校を創っていこうと我々教職員は決意をしているところです。

（坂東　修）

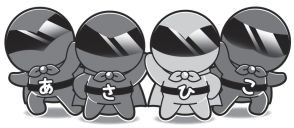
東大島小学校　　創立 70 周年記念式典

「未来へ走れ！笑顔でつなぐ 70 周年」

10 月 22 日（水）に保護者向け、25 日（土）にご来賓をお招きして、創立 70 周年記念式典を行いました。保護者向けをリハーサルと位置づけることなく、あえて式典と銘打ち、２回の式典として実施しようということを前年度に決めて取り組んできました。両日とも朝から雨が降るあいにくの天気でした。70 年前、開校にともない、向小学校から引っ越しをしてきた日も小雨が降っていたと記録が残っており、その歴史に想いを馳せながら、式典を進めていきました。保護者 200 名、ご来賓 40 名をお招きし、東大島小学校の 70 歳の誕生日のお祝いを盛大に行いました。当日は司会をたてずに、音楽や呼びかけで体型移動する形でプログラムを進めました。学年ごとに工夫した発表は、会場にいる方々を巻き込み、あたたかい雰囲気を自然につくりだしていきました。校歌、川崎市歌、かわさきのねいろ、スローガンの歌、世界はあなたに、COSMOS・・・、みんなで歌うことで一体感をさらに深めていきました。児童数が少ない本校は、全員がステージ上、ステージ横に集まることができます。フィナーレは、全員で「絆」を歌い、「これからも東大島小学校のことをよろしくお願いします！」という気持ちをご来場の皆様に届けることができたと思います。

風邪が校内で流行る中、式典当日に体調を崩して欠席する児童が何名かいました。それでも急遽、代役を立てる、台詞を変えるなど、臨機応変な教職員の対応や児童の頑張りもあり、式典を滞りなく終えることができました。「昔から変わらない素直でのびのびとしていた子どもたちを見ることができました」「みんなで協力して取り組んでいる様子がよく伝わってきました」とお褒めの言葉をたくさんいただきました。

「次の 10 年、そして未来をつくっていくのはあなたたち」と子どもたちと約束をしました。輝く未来を築いていく主人公は子どもたち、私たち大人は、常にその舞台を整え、寄り添い、背中を押す存在でありたいと思います。これからも、学校、保護者、地域が手をとりあい、子どもたちとともに「新しい一歩」を確実なものにしていこうと、みんなで確認しました。　　（結城　俊一）



旭町小学校　　創立 100 周年記念式典

「みんなで　つなごう　あさひこの　バトン」
～次の 100 周年にむけて～

本校が創立されたのは今から 100 年前の大正 13 年３月 31 日です。川崎小学校から分離独立して旭町小学校ができました。戦時中には、大山への学童疎開や校舎の焼失など苦難の時代もありましたが、戦後には、学校が再建し、児童、教職員、保護者、町内会が一体となって、学校教育を推進してきました。運動会では、地域と一緒になって「綱引き」や「旭子音頭」をともに楽しんだという記録もあります。また、現在まで続いている「旭子まつり」や「旭子たてわり班活動」は、他校では見られなくなりましたが本校独自の教育課程として残っています。

11 月８日（土）旭町小学校創立 100 周年記念式典が行われました。当日は、川崎市長、市議会議長、教育長、小学校校長会　中学校校長等のたくさんの来賓の方々や本校歴代校長、歴代 PTA 会長、元職員をはじめとして地域の方々にも多数ご参列いただき、総勢 800 名を超す記念式典となりました。

体育館の中央には、前日に行った「100 周年記念鈴割り」が飾られ、キャットウォークには、スローガンの横断幕を掲示しました。また、各学年からは、100 周年の思いを込めた、絵画、版画、ちぎり絵、校章等の作品を掲示しました。

当日は、６年生の実行員が中心となって、司会と進行を務めました。①オープニング６年生合奏「シング・シング・シング」 ②「旭町小学校 100 歳のお誕生日おめでとう！～学校探検に行こうよ～」（１年生）③「100 歳おめでとう・きらり☆あさひこの町」（２年生）④「あさひこの大冒険～昔から続けられてきたもの～」（３年生）⑤「大切なもの～旭町小 100 周年と私たちの成長～」（４年生）⑥「あさひこの歴史をたどれ！」（５年生）⑦「感謝と伝統」（６年生）でした。合奏や合唱、呼びかけや時代劇、クイズなど、どの学年も、参観された方々に「感動」を味わっていただけるように趣向を凝らし真剣な姿がありました。参加された来賓の方々からも、「１年生の呼びかけは、探検した学校の教室の絵が上手で、お誕生日の歌がかわいかった。」「２年生の学区の紹介が素敵でした。」「３年生は、この町の歴史紹介を劇でやっていて、お神輿や木遣の歌まで出てきてびっくりしました。」「４年生は、素敵な歌声が体育館いっぱいに広がっていて、会場が一つになっていました。」「５年生は、学校の 100 年をクイズ形式で発表したり、寸劇を交えたりしてとても迫力がありました。」「６年生は、ダンスやエール交換がかっこよかったです。６年生の呼びかけも流石でした。」その他には、「リアルあさひこレンジャー」の活躍について、多くのお褒めの言葉を頂きました。

この式典を通して、学校の職員や子ども、保護者や歴代の本校の関係者がこの一大事業を成功させようと一つにまとまって、100 周年を祝うことができたことが何よりの成果だったと考えています。

児童が作ったスローガン「みんなで　つなごう　あさひこのバトン」にあるように時代の流行り廃りに流されることなく、教職員一丸となり、次の 100 年をめざして精進してまいりたいと思います。最後に、創立 100 周年記念事業にあたり、教育委員会をはじめ、小学校校長会、中学校校長会等多くの方々にご尽力いただきましたことに感謝と御礼を申し上げます。　　（山口　嘉徳）

西丸子小学校　　創立 70 周年記念式典

「未来へつなごう７色のバトン　～輝け個性、進化し続ける西丸子～」

11 月８日（土）西丸子小学校創立 70 周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代 PTA 会長をはじめとして地域の方々にも多数ご参加いただきました。子どもたちの「地域の多くの人に創立 70 周年ということを知ってもらいたい。」という思いを叶えるために、コミュスクの皆様や現Ｐの方々がご協力くださり、西丸子の子ども達や教職員の、地域の方々への感謝の気持を表した立派なポスターを作成してくださいました。

多忙化がますます進む学校現場で、始め教職員は周年行事への目的意識をもてず、苦しんでいるように見えました。しかし、地域の方々の学校への温かい眼差しや、なにか手助けしたいという熱い思いをいただくことで、徐々に周年行事の意義を見出してくる様子が実感できました。式典に向けての準備には、教職員と子ども達の思いが溢れていました。どの学年も、それまでの学習の中で気づいた学びを活かし、それが地域の方々のご協力があってこそ成り立っていた学びだということを自覚し、感謝の気持ちとこれからの学びに向けての抱負に溢れる内容となっていました。内容から準備、練習まで担当を決め、すべて自分たちで発表準備を進めていた５年生からは、７分の持ち時間で入りきらず、何とかあと３分もらえないか、と校長室や学年主任会で直談判するほど気合が入っていました。

式典会場の装飾も、それぞれの学年の手作りの思いがこもった内容でした。装飾のための装飾にするのではなく、各学年の学びを生かした装飾にするというのが、装飾を担当した部会のねらいだったので、各学年、図工の単元を応用させたり、国語で短歌に思いを表す学習でできた作品を展示用にアレンジしたり、学びの足跡を来賓の方々に観ていただく機会にもなりました。また、正門の周りには、数週間前から子ども達の地域の方々にむけたメッセージを貼り出しましたが、足を止めて、ニコニコご覧いただく姿や、学校にお電話をいただき、子ども達のメッセージが心に届いたことを教えてくださるお声など、多くの嬉しい反応がありました。

当日ご参加いただいた方からは、子ども達が一生懸命演技する姿に励ましの声をいただいたり、これまでの学びがよく分かる内容をお褒めいただいたりしました。「式典での児童の姿から、のびのびとした学校生活が送れていることを感じた」「最上級生として学校全体を引っ張っていく責任を強く感じた」「みんなで一緒に活動できる安心感があった」「西丸子の町や学校の良さを知ることができた」などのいただいた感想は、教務主任が発行していた西丸子７０周年だよりで子ども達にも紹介しました。

今回 70 周年に関連する様々な行事等を通じて、子ども達だけでなく、保護者や教職員も日頃から地域の温かい支えがあることを改めて感じ、その有り難さに深く感謝しているところです。今後も学校の歴史を積み重ねていく上でも、子ども達の主体的な学びと感謝の気持ちを大切にした教育活動の実践に努めていきます。

（吉村　あかね）

子母口小学校　　創立 60 周年記念事業

「たくさんの”あい”をとどけよう　L♡VE 子母口」

本校では、記念の年を迎えるにあたり、学校教育目標「未来社会を切り拓く 心豊かなたくましい子を育てる」の実現を最優先に据え、重点取組として掲げる「未来は与えられるものではなく、自分たちでつくるもの」という理念を、子どもたち自身が体感する機会とすることを重視しました。

従来の周年行事では、記念式典＋祝賀会という形態が多かったと思いますが、本校では学校教育目標や重点取組に掲げた理念の実現に焦点を当てました。子どもたちが主体的に関わり、自分たちの思いを形にするプロセスこそが最も重要な学びであると捉え、「考える力」と「行動する力」を合わせた本校独自のキーワードである『考動』の育成を核とした一連の取り組みを推進いたしました。

記念事業は、足掛け約八ヶ月にわたる期間、三つの大きな学校行事を通じて展開されました。この過程において、教職員は、子どもたちの「思い」を実現できるよう、活躍の機会を用意しながらもできる限り子どもたちに任せるという姿勢で支援を続けました。その結果、周年行事は「やらされるもの」ではなく、「自分たちの行事」へと変わりました。

まず、５月には「60 周年記念運動会」を実施しました。子どもたちが応援や競技の内容、盛り上げの段取りに至るまでを自ら話し合い、工夫を凝らすことで、一人ひとりが主役として輝く一日となりました。

次に、10 月 28 日（火）には、記念行事の第２弾として「お誕生日集会」を開催しました。これは、スローガン「たくさんの“あい”を届けよう L♡VE 子母口」に込められた仲間や学校、地域に対する感謝の思いを、子どもたち自身が深く考え、話し合い、具体的な行動に移して具現化する場となりました。「ハッピーコンサート」の拡大版と「学校かくれんぼ」そして記念の自校献立と、子どもたちは一生懸命に頑張り、存分に楽しむことができました。

そして、11 月 29 日（土）に開催された「わくわくワールド グランドフィナーレ」, をもって事業の集大成を迎えました。子どもたちは、一年間培ってきた「あい」（助け合い、認め合い、感謝の気持ちなど）を、長きにわたり学校を支えてくださった地域の皆様へ、行動として実際に届ける最高の舞台を作り上げることができました ,。

この一連の経験を通し、子どもたちは課題に向き合い、仲間と語り合いながら新しい価値を生み出す確かな力、すなわち『考動』の力を大きく伸ばしました。子どもたちが「自分たちの手でつくりあげた」成功体験は、大きな自信と達成感となり、今後の学校生活をより豊かなものにしてくれると信じています。

（南谷　隆行）

久本小学校　　創立 70 周年おたんじょうび会
～未来へはばたけ　久本っ子！感謝・あいさつ・思いやり～

久本小学校のお誕生日のお祝いをしたい！という子供達の願いから準備が始まった記念事業です。準備の段階の１年間、そして今年度の１年間と子供達の考え、そして活動内容を調整しながら活動を進めてきました。スローガンを決めたり、キャラクターの衣装を考えたりした準備期間。そして今年度はお誕生日の年を祝う年として、５月の 70 周年記念運動会から始まり、航空写真、バルーンリリースの会、各委員会主催のお祝い記念の様々な企画プロジェクトなど、どの活動にも目を輝かせて取り組む子供の姿を見ることができました。自分達が考え企画したものが実行され、学校全体の喜びにつながる事を理解した子供達は、本当に楽しそうでした。そして、メインである 11 月 22 日（土）に行われた「久本小学校 70 歳のおたんじょうび会」！！子供達の想いが集結した、すばらしい思い出に残るものになりました。11 月 22 日は、落成日当日である事で「本当のお誕生日だ！」とお祝いの気持ちも特別に高鳴りました。

「未来へはばたけ　久本っ子！感謝・あいさつ・思いやり～」というスローガンを掲げ、この２年間の取り組みをがんばってきた子供達です。このスローガンには久本っ子が大切にしている挨拶する事を忘れず、どんな人にも思いやりをもって優しい気持ちで接し生活をしていく事、そして自分達にかかわってくれる保護者の方々、地域の皆様、友達、そしてたくさんの方々に感謝の気持ちを忘れずに毎日を過ごしていこう！という気持ちが込められています。キャラクターのペンタ・ペンコの衣装チェンジの企画も盛り上がり、新しい衣装にリニューアルした姿を見て、これもまた嬉しそうでした。

当日の「おたんじょうび会」も本当に盛り上がり、素敵な会になりました。地域の皆様、お世話になった皆様、旧教職員の皆様などたくさんの方が参加していただき、とても温かな会になりました。そして、なんと 60 周年の会の時の子供実行委員の方達も駆けつけてくださり、60 周年から 70 周年へ向かうバトンもつなぐ事ができました。久本小学校の先輩方に向けても大きな拍手が起こり、会場の気持ちが一つになりました。

今回の各学年の発表では、久本小のキラキラを探そう！笑顔の花を咲かせよう！久本地域の今と昔！久本地区の祭りばやし！これからの環境問題に取り組もう！私達の未来！というコンセプトでまとめ、ストーリーをもった内容にしていきました。低学年、中学年、高学年の合同の発表もあり、見応えたっぷりのものになりました。発表ごとに、体育館に開くお花と共に「あいさつ」「きらきら」「えがお」「つながり」「ありがとう」「行動」「未来」のメッセージが紹介されましたが、参加して下さった皆様方にもきっと伝わったと思っています。「すばらしい会でした。」「涙がとまりませんでした。」「とても温かな会でした。」とたくさんのお褒めの言葉を後から伝えられましたが、私自身も涙が止まらず、溢れ出す場面もありましたので、本当に嬉しく思いました。会の最後には、ペンタ・ペンコと子供たちと一緒にお客様のお見送りをしましたが、子供たちの満足そうな顔を見て教職員一同も幸せを感じる事ができました。

この周年の行事を行った事で、子供たちにも大きな自信がうまれ、自己肯定感が高まったと感じています。これからも、この周年活動の「子供たち中心で動く」事の良さを忘れずに、学校の教育活動を行っていきたいと思っています。久本小学校はこれからも未来へ向かってはばたいていきます！　　（松澤　ゆかり）

南原小学校　　創立 40 周年記念式典
「新時代に向かって　仲間とつなごう　笑顔のバトン」

11 月 29 日（土）南原小学校創立 40 周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代 PTA 会長をはじめとして地域の皆様にも多数ご来校いただきました。

本校は小規模校ですので、１年生から６年生までの全校児童の参加による「光のバトンを持って未来の扉へ」というタイトルのストーリー仕立てで、10 年に１度の記念すべき節目を刻むことにしました。

「40 年前、ここに１つの扉が開きました。その扉の名前は、南原小学校。

たくさんの子どもたちがこの扉を通り、学び、遊び、巣立っていきました。

今日はこれまでの 40 年への感謝と、新しい時代への一歩をお祝いする日です。」

という言葉から始まり、創立 40 周年記念事業の１つである学校マスコットキャラクター「ひまりん」の着ぐるみと、全校児童のお祝いメッセージ付きのバースディーケーキの登場により「南原小学校の 40 歳のバースディーパーティー」がスタートしました。

学年の扉を一つずつ開けていく中で、それぞれの学年カラーのバトンを見つけていきました。１年生は「がっこうだいすき」の気持ちから、赤く光る「わくわくバトン」を見つけました。２年生は「南原☆キラリコレクション」を紹介する中で、オレンジ色に光る「笑顔と優しさのバトン」。３年生は「まちのタカラを受け継ごう～みなみはらクエスト」を発表する中で黄色に光る「昔からものを受け継いだバトン」。４年生は「みんなが笑顔で幸せに過ごせる南原～今日もどこかで～」を紹介する中で、緑色に光る「笑顔･幸せバトン」。５年生は「南原小ビフォー・アフター」をご覧いただく中で、水色に光る「協力のバトン」。６年生は「南原タイムトラベル」で青く光る「誇りのバトン」を見つけました。これらの６色のバトンを校章に当てはめた時、未来の扉がゆっくりと開き、全校の子どもたちが飛び出して、元気いっぱいにダンスを踊り、新時代へと歩みを進め、「南原小学校の未来へのとびらが開きました。わたしたちは、この光を胸に新しい日々を歩いていきます。」という力強い決意の言葉で締めくくりました。

創立 40 周年記念行事は、地域の皆様の温かな支えにより、大きな成果を収めることができました。特別な活躍の場を設定することで、児童の一人一人の新たな良さを引き出すことができたと感じています。また準備から当日の運営に至るまで、教職員一人ひとりが役割を自覚し、互いに連携しながら取り組む姿が随所に見られ、組織としての一体感と本校の底力を改めて確認することができました。

地域の高齢化、児童数の減少等、本校が抱える課題は多々ある中でしたが、これまで受け継いできた「笑顔のバトン」をもって、新たなステージに立つことができたことを嬉しく思います。来賓の皆様の笑顔と拍手、そして感動の涙に触れた子どもたちが「南原らしさ」を誇りに思いつつ、この「南原のまち」で健やかに育つことができるよう、地域との信頼関係を一層大切にしながら、さらに教育活動の充実に努めたいと考えています。　　（平井　育子）

土橋小学校　　創立 20 周年記念式典

「つちはしスマイル 20 ｔｈ」
～協力＆チャレンジ！あふれるスマイルを未来へつなごう～

11 月 15 日（土）、土橋小学校創立 20 周年式典が行われました。この日に向けて、各学年の児童が、土橋や小台地域の歴史を調べたり、学校が新設された経緯や当時の様子を調べたり、地域の方々と共同して活動したりと、生まれながら（開校当時から）のコミュニティ・スクールならではの取組が進められてきました。当日は、企画・運営はもちろんのこと、司会や進行、来賓の方々の案内まで、すべて児童が主体的に行いました。校長は、「校長先生と実行委員長の話はあわせて 10 分でお願いします。」と６年生からの依頼をうけ、「子どもたちの活動時間が減らないよう絶対に時間をオーバーさせないぞ」という強い気持ちでのぞみました。想像を超えて、児童の発表に気持ちがこもっており、とてもよい雰囲気の中、無事終えることができました。参加されたご来賓の皆様、地域の方々からも、「子どもたちの熱心に活動する姿が素敵でした」と、たくさんのあたたかいお言葉をいただきました。

土橋小学校は 2006 年に、長年かわさき市民に親しまれてきた鷺沼プールの跡地に、「コミュニティ・スクール」として生まれました。地域に開放することを前提とした校舎のつくり、芝生の校庭、学校校務員の存在など、当時としてはそれまでの学校とは異なる新しいものばかりで、近隣３校から転校してきた児童も、着任した教員も、みんなが新鮮な気持ちで活動していました。しかしながら、芝生の校庭は養生が必要なため、冬は使用できないという厳しい条件があり、児童だけでなく、保護者や地域の方からも厳しいご意見をたくさんいただきました。その際、学校のために尽力されたのが、学校運営協議会委員を始めとした地域の方々や、PTA として活動していた保護者の方々でした。３年間をかけて、全校児童、保護者、教職員から意見を聞き、アンケートの結果を集約し、教育委員会事務局と折衝し、校庭の一部を人工芝にすることができました。20 年たった現在、この芝生と人工芝の両立により、児童が生き生きと活動することができています。

そして、この 20 年間、全く変わっていないのが、「つちはし」の合言葉、「つながるこころ」「ちからをあわせ」「はじけるえがお」「しあわせいっぱい」です。これは、富士見台小学校、鷺沼小学校、宮崎小学校から土橋小学校に転校する児童が話し合い、できたものです。校歌の歌詞としても親しまれているこの言葉が現在も引き継がれ、学校教育目標はこの合言葉からつくられています。市内ではまだまだ新しい学校ですが、20 年大切にされてきたこの合言葉を、これからの 10 年、20 年、100 年と引き継いでいくことが、現在土橋小学校にかかわるすべての人の願いであり、責任でもあります。そのことが、この 20 周年をお祝いする活動を通して共有できたことが、一番の財産なのかもしれません。

これからも、地域全体で児童を支え、子どもも大人も生き生きと活動する学校であり続けるよう努めてまいります。

（山本　直）

稗原小学校　　創立 40 周年記念式典

稗原小学校　創立 40 周年記念式典を終えて

11 月１日（土）稗原小学校創立 40 周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代 PTA 会長をはじめとして、地域の皆様や保護者、旧職員にも多数ご参加いただき、温かい拍手と笑顔に包まれての一日となりました。

会場には、３～６年生の子どもたちも同席し、児童の発表を中心にした式典が行われ、厳かというよりも笑いあり涙ありの集会のような流れの式典となりました。　式は、開式の言葉から始まり、オープニングでは、実況中継のようなビデオ映像が流れ、扉が開いて子どもたちとキャラクターが登場するという、結婚式の披露宴風のサプライズで会場の子どもたちは大はしゃぎでした。盛り上がりの中、周年実行委員長の祝辞のあと、各学年の表現発表へと進んでいきました。１年生は、「ぐんぐん SHINKA ！わたしたちのひえばらせいちょうにっき」として、学校生活・学習場面での成長と地域の方の優しさについて発表しました。２年生は、「きらっと見つけた」と題して、町探検でみつけたひと・もの・ことに関して、コースごとにわかれて地域のよいところを表現しました。最後に、稗原小学校の先輩が東門からの風景を歌詞にした「かわさきの音色」を紹介し、全員で合唱しました。３年生は郷土学習のまとめとして、学校や地域の 40 年前から現在までのトピックを呼びかけやラップ調で表現しました。４年生は、10 周年の時から代々受け継がれている「ひえばら太鼓」を披露し、一糸乱れず太鼓に打ち込む様子やかけ声が呼応する姿がとても頼もしく映りました。５・６年生も４年生のときに経験した、太鼓の口唱歌を添い歌い、４年生に勇気を贈りました。５年生は、体育館いっぱいに広がる群読で、これまでの自分たちの活動の成果や地域への感謝、そして、未来への決意を力強く伝えたあと、息のあった全員合奏「アフリカンシンフォニー」を演奏しました。６年生は、学年発表の締めくくりとして、40 年前から現在までのトピックを寸劇にして、地域の方のエピソードとしての記憶を呼び起こすことができました。

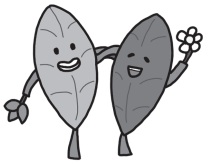
各学年の子どもたちは、学校のお誕生日をお祝いする気持ちと地域の方への感謝の気持ちを表したいという思いが叶えられました。各学年の発表や祝辞や式辞のあとにパズルピースが登場し、１ピースごとに大きな掲示板にはめ込んでいくので、子どもたちは、パズルが完成していく様子を式の進行とともにワクワクしながら楽しみました。最後は、１・２年生が登場し、全校合唱「ふるさと」を歌いました。嵐の楽曲で聞き覚えがあり、皆が覚えやすく親しみやすかったので合唱に気持ちが入りました。多くの方の感動の涙が見られ、子どもたちの一生懸命さが伝わりました。ふるさとの歌詞「ひたむきに時を重ね、思いを紡ぐ人たち」「巡り合いたい人がいる、優しさ広げて待っている」など、40 年前、この稗原の地に学校を建てたい、子どもたちの笑顔あふれる学校をつくりたいという地域の方々の思いや稗原小学校はいつ帰ってきても心のふるさととして存在していることを合唱を通して全員が感じ取った瞬間に出会えました。

40 周年記念式典に関連する様々な行事等を通じて、子どもたちだけでなく、保護者や教職員も日頃から地域の温かい支えがあることを改めて感じることができ、その有り難さに深く感謝しているところです。

稗原小学校はこれからも 40 周年のスローガン「助け合い　笑顔で SHINKA（進化･深化･伸化･新化）稗原小」この絵が示す通り SHINKA のバトンを引き継ぎながら、子どもたちが夢と希望をもって学べる環境をつくっていきます。

（菅原　隆宏）

南菅小学校　　創立 40 周年記念式典



「HAPPY　COLOR　SCHOOL
～みらいにかがやけ　南菅～」

11 月 29 日（土）地域協力者や保護者の代表の方、学校関係者をはじめ南菅小学校を支えてくださったたくさんの皆様をお招きし、「創立 40 周年記念式典」を行いました。

昨年度の卒業生も含め、子どもたちが考え創り上げたキャラクターやスローガンに込められた「ハッピーな学校をつくろう、個性を大切にしていこう、学校の良さをつないでいこう」という思いのもと、式典会場（体育館）の装飾や発表に取り組みました。

式典会場には、児童が日頃の学習で制作した作品を学年ごとに展示しました。また、児童の装飾リーダーを中心に「家族や地域の方に向けた感謝」や「10 年後の自分に向けて」をテーマにメッセージカードを作成し、そのカードでキャラクター「はっぴー」を描いたモザイク画を展示しました。保護者対象の発表会兼リハーサルには、お子さんのカードを見つけ感動する方やお子さんの成長を実感される方の姿がたくさん見られました。発表では、スローガンにある「ハッピー」や「学校」「地域」「つながり」「未来」をテーマに、日頃の学習の成果を学年ごとに表現しました。自分たちで課題を見つけ、めあてをもち、実際に地域に出てインタビューをしたり情報を集めたりし、体験を通した自分たちの思いや願いを発表しました。発表が得意でない児童もいましたが、最後まで力を合わせて頑張りました。参加された来賓の方からは、たくさんの拍手とともに「子どもたちの目の付け所が面白い」「みんなの笑顔が素敵でした」「子どもたちの歌に感動しました」など、お褒めの言葉をたくさんいただきました。終了後の児童の様子からは、緊張から解き放たれた安堵の表情と達成感や満足感を感じることができました。

また、児童や参加していただいた方への記念品として、「はっぴー」を描いた航空写真のファイルを用意しました。全児童で描くには人数が足りず、保護者や地域の方にも撮影にご参加いただきできあがったものです。また、今までのキャラクターをデザインしたバンダナやトートバックもお渡しできました。「せっかくの機会なので全部入れましょう」という実行委員長さんの言葉を、職員が実現させました。懐かしいキャラクターをご覧になり、来校者の会話も弾んでいました。

今までの歴史やつながり、未来にも思いを馳せながら、ご協力いただいたみなさまの支えで周年行事を行うことができたことに感謝するとともに、この周年行事を自分ごととして捉え学習や準備に取り組んだ子どもたちや教職員の姿がとても輝いて見えました。これからも「みらいにかがやけ　南菅」を目指し、一人一人を大切にした教育活動の実現に努めていきます。　（宮原　千恵子）

東生田小学校　　開校 60 周年記念式典

「ずっと元気な笑顔の花よ 未来にはばたけ」

秋晴れのとても気持ちの良い 11 月 22 日（土）に東生田小開校 60 周年記念式典が行われました。当日は、歴代校長先生、歴代 PTA 会長、常日頃からご協力いただいている地域の方々がご臨席され、小規模ながら活気のある式典となりました。前の 50 周年式典マスコットである「ヒガシマルくん」が今現在でも人気があり、式典マスコットにとどまらず我が校のマスコットとして独り立ちし、さらに未来へ向かってという意味で 60 周年式典マスコットとして「未来犬（みらいけん）」が新たに誕生し２つ併せて式典をより賑やかなものにしていました。

会場の周囲の壁には、１年生から６年生全員の校内の好きなところの絵が飾られ、子どもたちの、この学校が本当に好きだ、ということが強くアピールされていました。オープニングでは、植物をモチーフに、これからの未来を作っていく「お種（たね）」ちゃんと未来に向かって一人ひとりが飛んでいく「綿毛（わたげ）」ちゃんとの掛け合いで始まりました。その後、１年生のリズミカルでとても楽しく可愛らしい群読で学校の良いところをたくさん紹介してくれました。２年生は、国語のスイミーが東生田地区を冒険しているという設定で、この地域の特徴などを紹介していました。３年生となると、東生田のある川崎市の魅力について、市内巡り等々で調べたことを元に発表していました。一通り、東生田の紹介が済んだあと、４年生からは、式典直後に控えた連合音楽会で歌う曲「10 さいを迎える日に」をとてもきれいな歌声で披露しました。４年生はちょうど 10 歳になる年、東生田小学校も 60 歳になる年とういことで年齢は違えど、年齢のそして成長の一つの区切りを迎えたという気持ちを心を込めて歌い上げ、見て聞いていただいている方々を魅了しました。このあとは高学年。５年生は、会場全体を使って「ソーラン節」を踊りました。これは運動会でも披露し好評を博したもので、自ら世話を焼いているビオトープの生物たちがこれからさらに増えていってほしいという気持ちを大漁にかけたものでした。子どもたちの気持ちが乗ったとても優雅で豪勢で会場全体を盛り上げました。最後は６年生。「動」の５年生から一転して、黒いウェアに赤い扇子という出で立ちで現れました。合図とともに一切の乱れなく赤い扇子の花が咲いたり閉じたり、波を打ったり急に止まったりと可憐な中に「動」と「静」をうまく表現していました。これから迎えるみらいには自分にとっていいこともあれば悪いこともある。でも、それに負けないように力強く進んだり、ときには立ち止まったりしながら前に進んでいく、つまり、未来に進んで作っていくのは自分、また、仲間たちとともに、という気持ちを表していました。とても黒と赤のコントラストが見事に映えていて思わず見とれてしまう演技でした。

周年行事としては、珍しく ICT 機器を使わず、自分たちの演技と言葉だけで 60 歳の誕生日を祝うと同時に、マスコットの「未来犬」とともにこれから向かっていく「未来」への自分たちの決意が見るものにダイレクトに伝わってくるものだったと感じています。

この周年行事という経験をしたことで、この子どもたちの顔には達成感と自信が満ちており、彼らの未来に期待できそうだと感じた１日でした。　（猊倉　正樹）

長沢小学校　　創立 50 周年記念式典

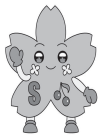
「菜の花のようにすくすく育ち、大きな一歩を踏み出そう」

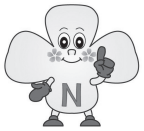
11 月 22 日長沢小学校 50 周年記念式典を無事に終えることができました。当日は、来賓として福田紀彦川崎市長も参列してくださいました。福田市長は長沢小学校の卒業生、子どもたちの先輩です。式典では、登校するときに学校の周りにたくさんの菜の花畑があったこと、修学旅行の懐かしい思い出などをお話してくださいました。今でも母校として長沢小学校を大切に思っていてくださることを子どもたちも私たちもとても嬉しく思いました。

子どもたちの発表は、3 年生と地域の方々のおはやしからスタートしました。発表をつないでいくのは、5・６年生の有志による劇です。「なのっち」が子どもたちに相談をもちかけます。「菜の花とともに長沢小学校のシンボルである桜がなんだか元気がない、桜を元気にするために、『６個の思い出のかけら』を見つけてきてほしい」と。そうして手分けして見つけに行った子どもたちは、各学年の発表から「思い出のかけら」を託されます。３年生は「長沢小学校のシンボルである菜の花の歴史」、１年生は「友達を大切にする心」、２年生は「地域を大切に思う気持ち」、４年生は「協力する大切さ」、５年生は「身近な環境を大切にする心」、６年生は「50 年分の感謝」、６個の「思い出のかけら」が集まると・・・・・、桜はみるみる元気を取り戻し、50 周年の新しいマスコット「さくらん」が誕生する、というミュージカルのようなストーリー展開です。

各学年の発表は、生活科や総合的な学習の中で地域の方々と出会ったり、お話を聞いたりしたことをもとにつくられています。発表の中にはたくさんの地域の方のお名前が登場しました。長沢小学校のオリジナルです。練習時間を増やさないためにリハーサルを行わず学校公開日での反省を生かして修正しよう、と思っていたのですが延期となってしまいました。たくさんの人の前で発表する機会のないままに当日となりましたが、どの学年の子どもたちもとても立派でした。５年生は発表の中で音声の不具合があり中断する場面がありましたが、その対応の姿を多くの参列者の方々にほめていただきました。そして、６年生は各学年の発表のエネルギーを受け、まさに思いをつないで立派な発表で式典を締めくくってくれました。「今までのありがとうを、これからの未来へ」、50 年分の感謝を子どもたちみんなで地域の皆さん、学校を支えてくださる皆さんに伝えることができた素晴らしい式典でした。

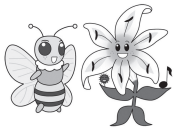
50 周年記念事業実行委員長さんは、長沢小学校ができた年に１年生に入学されたそうです。朝会で「50 年後、長沢小学校が 100 周年のときには、もしかすると長沢小学校の子どもたちの中から実行委員長さんが誕生するかもしれない」と話しました。変化の激しい社会の中でも生き抜く力をつけること、どんなに世の中が変わっても決して揺るぐことのない人としての真理を育むことを目指して、子どもたち、教職員とともに長沢小学校の新しい一歩、大きな一歩を踏み出していきます。これからもどうぞ、長沢小学校をよろしくお願いいたします。（中西　憲子）


さくらん


なのっち

百合丘小学校　　創立 60 周年記念集会

「ありがとうの花を咲かせよう
笑顔！チャレンジ！ゆりっ子！」



子どもたちに思い出が残る 60 周年になってほしいと思い、４月から「今年は記念の年です、どんなことができそうか皆さんで考えてみてください」と呼びかけ、１年を通して 60 周年のお祝いをしていくことにしました。子どもたちからはいろいろなアイデアが出されました。

・60 周年記念の給食献立をアンケートを取って考える
・百合小歴史クイズ　・60 周年の飾り付けをする　・60 周年クイズ　・植物で 60 を形づくる
・60 周年記念キャラクターの募集　・60 にちなんだスポーツ大会　・60 周年記念のスポーツフェスタ

などたくさん出ました。個人でも「ポスターを作りました」「横幕を作りました」と校長室に届けてくれる低学年の子どもたちもいました。４月から徐々に気持ちが盛り上がり、11 月８日（土）に 60 周年スポーツフェスタが開催されました。直前にインフルエンザが流行して心配されましたが、何とか実施でき、60 周年に絡めた種目や表現が披露されました。

そして、11 月 18 日（火）に、百合丘小学校創立 60 周年記念集会を開きました。子どもたちの気持ちは最高潮です。当日は来賓に歴代校長、歴代 PTA 会長はじめ西生田中学校の校長先生、子どもたちをいつも見守り、学習に協力していただいている地域の方々にもお越しいただきました。スポーツフェスタが終わってから練習期間はわずか４日でしたが、先生方の計画的な指導で、各学年、趣向を凝らした発表がされました。どの学年も素晴らしく、来賓の皆様も思わず笑顔になっていました。「手作りの感じがしてとてもよかったです。」「いいものを見せてもらいました。」と子どもたちにお褒めの言葉をいただきました。

また、保護者ボランティアの皆さんには、大変ご協力いただきました。園芸、装飾、デジタルと３つのボランティアが発足し、園芸ボラさんには、集会当日、花の道や花でできたウエルカムボードを作っていただきました。装飾ボラさんには、１階の廊下の壁面、玄関をきれいに飾り付けをしてもらい、１～３年生の図工の時間に装飾づくりのお手伝いもしてもらいました。デジタルボラさんには、子どもたちの活動の様子を動画にまとめてもらったり、シンボルマークを作ってもらったりシンボルマークのシールや LINE スタンプの作成をしてもらいました。保護者の皆さんの子どもたちに 60 周年を楽しんでもらいたいという思いがとても感じられ、本当にありがたかったです。

集会の最後に１～６年生の児童代表の言葉がありました。百合丘小学校が大好き友達と仲良くしたい、お世話になった人に感謝したい、来年は最高学年として下級生を引っ張っていきたい、60 周年の記念の年に最高学年として関われたことを誇りに思う、卒業までの時間をしっかり過ごしていきたい、と子どもたちの前向きな言葉を聞くことができました。60 周年記念の行事を通して子どもたちが自分やまわりを見つめなおすことにつながったかなと感じました。

集会を通して、改めて保護者、地域の皆様から子どもたちのために温かいご支援をいただいていることを感じることができ、そのありがたさに深く感謝をしているところです。たくさんのご支援に応えられるよう、今後も教育活動をしっかりと進めて参りたいと思います。（長嶺　祐介）

西生田小学校　　創立 150 周年記念式典

「未来へつなぐ笑顔のバトン　～気持ちを一つに Let's try! ～」

今年、西生田小学校は創立 150 周年という大きな節目を迎えました。７月には、100 周年の時に埋めたタイムカプセルの掘り起こし、お宝の引き渡し会を実施。その後も、児童・保護者・地域の皆様と力を合わせて準備を重ね、11 月 15 日には 130 名ほどのお客様を迎え記念式典を盛大に開催しました。

当日、主役の子どもたちは、心を込めた歌声や呼びかけ、演技で感謝と 150 周年への思いを力いっぱい表現し、会場を笑顔で満たしました。各学年はテーマを掲げて発表しました。１年生は「協力パワーで空までとどけ　くじらぐも・校歌」、２年生は「やさしさにつつまれた町　にしいくた」、３年生は「それぞれが大事　自然はみんなつながっている」、４年生は「世界を救え！　エコレンジャー！」、５年生は「200 周年につなげる未来への思い」、６年生は「未来へつなぐ　わたしたちの挑戦」。発表後には「くじらぐもを作れて楽しかった」「やさしさって大事だと改めて思った」「自然を守るためにできることを考えたい」など、子どもたちの声があふれました。

とりわけ、150 周年記念ソング「世界は笑顔で歌うのさ」は児童の思いを一つにし、未来へつなぐ象徴となりました。さらに、卒業生・在校生・保護者・地域の皆様、そして新旧職員、計 1,848 名の協力で完成したモザイクアートには、それぞれの西生田への思いが込められています。約７か月かけて取り組んだこの作品は、学校と地域の絆の証として体育館に飾られています。

式典に参加した卒業生（50 代）からは、次のような手紙が届きました。

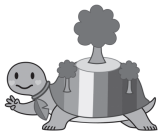
「大きな節目の行事が終わり、ほっとする気持ちと同時に、次の走者が新たな目標に向かってもう走り始めていることを実感し、感慨無量でした。バトンを渡した私たち（卒業生）は一つの役目を終えましたが、後輩の背中を力強く見守り、応援席からエールを送りたいと思います。」 150 周年というプロジェクトは、式典当日で終わりではありません。広報ボランティアさんが丹精込めて作成した記念動画を、式典後に全校で視聴しました。１年生は画面に釘付けになり、どの学年からも「早く GIGA たんに入れてほしい」という声が。６年生の教室では、「俺たち、すごい年に６年生だったんだなぁ」と話す子どもたちの姿も見られました。

そんな子どもたちの反応を目にし、私たちも改めて 150 年という長い歴史の重みを強く感じました。

西生田小は次の 50 年、100 年へと挑戦を続けるとともに、学校・家庭・地域が一つになり、子どもたちの笑顔があふれる環境を守り育ててまいります。　（樋口　彰）

虹ヶ丘小学校　　創立 50 周年記念式典

「虹のしあわせ　ずっと続くよ　どこまでも」



11 月８日（土）に虹ヶ丘小学校創立 50 周年記念式典を行いました。

川崎市で一番児童数が少ない虹ヶ丘小学校ならではの、特色のある記念式典となりました。

「虹のしあわせ　ずっと続くよ　どこまでも」のスローガンは、虹小だからこそできたものです。１年生から６年生までが、自分の考えとしてスローガンを書きました。それを、計画委員会児童、代表委員児童、教員が読みながら付箋をいれていきました。「これはスローガンにしたい」というものをしぼって、言葉をつなげて、５つにしぼりました。どれがスローガンになってもよいという自信作ができました。この５つから選びます。まずは子どもが投票しました。次に職員。授業参観、懇談会の時に保護者に投票してもらいました。最後に、地域の方々に手紙を配り、投票していただきました。その結果、「虹のしあわせ　ずっと続くよ・・・」になりました。「虹のしあわせ」というのは、虹ヶ丘小学校だけでなく、虹ヶ丘の地域に住む方々すべての幸せをさしています。このスローガンの決定により、子どもたちは自分事として記念事業に向かうことができました。職員もやるべきことが明確になりました。あとは、子どもたちが今まで積み上げてきた力を生かして、アイディアを出し合い、何をすべきか、どのようにしたらよいかを自分たちで考えるのみでした。

当日は、歴代校長先生をはじめ元職員や、地域の方々に温かく見守っていただきながら、１年生から６年生までが国語、社会、生活、総合的な学習の時間、音楽、図工など学習の成果を表現しました。式場の体育館には、「自分のしあわせな時」という等身大の自分を描いて壁面いっぱいに掲示しました。１年生から６年生まで全員が、最初から最後まで式場にいて、学年の出番の他にも、校歌、創立 50 周年記念ソング「虹のゆめ」の全員合唱があり、「虹っ子共同体」で 50 周年をお祝いすることができました。

各学年の表現活動では、３年間、地域を学習材とする単元をつくり、学んだことを発表しました。

６年生のオープニングの和太鼓演奏、６年生式典実行委員長の開式のことば、虹っ子合唱団の歌、最初からすばらしい表現に惹きつけられました。休み時間、ずっと続けて練習してきた虹っ子劇団が式典を展開しました。

１年生は、保育園の子どもたちに虹ヶ丘小のいいところを伝える学習を生かして表現しました。２年生は、王禅寺、琴平神社、地域のお店など、地域の方々から聞いて、見て学んだことを発表しました。３年生は学校にある木を調べました。虹ヶ丘小には 100 本以上の木が植えられていることにびっくりしたこと、名前を調べてわかったことを発表しました。４年生は、麻生支援学校と福祉施設の方々との交流を通して、虹ヶ丘には幸せに暮らせる場所や工夫があることを発表しました。５年生は「虹ヶ丘のスーパースター」にインタビューしました。たくさんの方々に支えられ、守られていることを改めて感じたようでした。６年生は小学校で学んだ集大成。迫力満点の群読で式場全体を魅了しました。

学校の特色を最大限に生かした、サポート級のハンドベルとダンス、外国につながる児童による「小さな世界」の歌、日本語と母国語と英語のスピーチ。自分の好きな食べ物、生まれた国の紹介、虹ヶ丘の好きなところ、将来の夢を、一人一人が堂々と話をしました。最後の閉式のことば　子ども実行委員のスピーチは、式場にいるすべての人を感動させました。

虹ヶ丘小創立 50 周年の式典は、児童数 125 名と職員、地域の方々でつくった、一人一人の個性が光る式典でした。　（井上　恵子）

新小倉小学校　　開校記念式典

新しい自分をつくる　未来をつくる

12 月 13 日（土）に新小倉小学校開校記念式典を行いました。川崎市長、国会議員、県議会議員、市議会議員をはじめ、地域の皆様、施工業者、川崎市職員等 120 名ほどのご来賓にご臨席を賜りました。

新小倉小学校は令和 7 年 4 月に川崎市 115 校目の小学校として、児童数 535 名、教職員 45 名で開校しました。「新しい自分をつくる　未来をつくる」を学校教育目標とし、自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながらよりよい人生を切り拓き、未来の作り手となる力を育んでいく教育活動を進めています。

校舎は、環境に配慮し、最新の教育環境を整え、地域防災の拠点となる設備を整えています。児童数は、この先数年間は増加していく傾向にあるため、校舎は児童数増にも柔軟に対応できる造りになっています。様々な形態の学習に対応することができる空間もあり、子どもたちの充実した学びにつながっています。

最新の教育環境の有効な活用推進を図るため、本校は今年、文部科学省のリーディング DX 事業の指定校となっています。校務 DX を推進し、職員室にフリーアドレスを導入しました。また GIGA 端末、クラウドを活用した新しい授業実践を創出し、展開を図っています。

子どもたちは、そんな新しい学校を気に入り、学校に愛着をもって、楽しい学校生活を送ることができています。開校記念式典では、全校児童が歌、ダンス、映像、劇、楽器演奏などで自分たちの学校をつくってくださった方々への感謝の気持ちを表現しました。

「校長先生、校歌はつくらないんですか？」という言葉から始まり、子どもたちが３ピースロックバンド SHISHAMO のギター・ボーカルの宮崎朝子さんと一緒につくった校歌もお披露目されました。当日は、17 社のマスコミが取材に訪れ、子どもたちが校歌の歌詞に込めた思い等を新聞・TV 等で伝えてくださいました。

午後は、本校の通学区域であるクレストプライムレジデンス自治会が主催し、幸区の社会福祉協議会が共催している「幸縁むす日冬まつり」が本校を会場に行われました。地域のみなさんが開校を一緒にお祝いしてくれるお祭りを式典と同日に開催するという新しい形になりました。

地域の皆様や関係者の皆様にご尽力をいただき、開校記念式典を迎えられたことを改めて感謝申し上げます。

（田中　康子）

退会会員のことば

ありがとうございました

野　澤　　聡

教育会館から初任校に校長面接に向かった時の様子は、今から40年以上前のことになりますが、はっきりと覚えています。今のようにスマホで学校を検索するという方法もなく、大汗をかきながらやっと到着したと思ったら隣の学校だったという落ちまでついて、ハラハラドキドキのスタートでした。それから教諭として日吉小学校、教頭として渡田小学校、南加瀬小学校、井田小学校、校長として戸手小学校、浅田小学校と転任し、令和７年３月に正規の教員生活を終了しました。結果的に勤務地の北限は中原区という川崎市の南半分のみを異動していたこととなりましたが、どの学校もそれぞれの特徴がありたくさんの出会いがありました。個人的に住まいも幸区、中原区だったので、当時の子どもたちや保護者の方々とも一部まだ関わりが持てていることは、本当に幸せなことだと思っています。これまで、学校内ではたくさんの諸先輩方に教えていただき、校外でも理科研究会、校長会と数えきれない方々に支えていただき無事に終えることができたこと心から感謝しています。

４月からは自分の中でもいくつかの選択肢はあったのですが、20年近く継続的に子どもたちの前で授業をしていなかったので、下平間小学校で初任者の後追いとして４年生の子どもたちと関わらせてもらうことにしました。毎日、近距離で子どもたちと関われる幸せな気分を久しぶりに感じています。

最後になりましたが校長会の皆様には10年間、大変お世話になりました。学校運営で困ったり悩んだりした時に、本当に心強い味方となっていただき、感謝しかありません。会の益々の発展とご活躍をあらためて祈念いたします。ありがとうございました。

解放の年へ

片　山　純　子

現在、高津区内の小学校で支援教育コーディネーターをしています。子ども達、先生方やクラスの困り感を把握し、より近くで指導や支援を行えることにやりがいや楽しさを感じています。また、改めてCo.の役割や業務について考えさせられる毎日です。

1998年（平成10年）片平小の時に、内地留学（現在は廃止）で、障害児教育について専門的に学ぶことができました。その後2003年（平成15年）、４年後の特別支援教育のスタートにあたり、先行的に多摩区の小学校でCo.の配置が実施された際、稲田小でCo.に指名されたのが、その後特別支援教育に深く関わるようになったきっかけでした。

2007年（平成19年）南生田小に異動し、今では当たり前になっている専任のCo.を務めました。Co.の存在や役割については、まだ認知されておらず、学校内の特別支援教育をどう整えていくのか相談できる人もいない中で悩みも多くありました。１年目で耕し、２年目で種まき、そして３年目でようやく芽が出てきたと感じられました。失敗や反発もありましたが、まだ誰も取り組んだことのない特別支援教育の体制作りへチャレンジできたこと、何より支援した子ども、保護者、先生方の困り感が軽減したり相談を受けるようになったりしたことを嬉しく思いました。その後特別支援教育センターに異動し、川崎市全体の特別支援教育や教育相談に関わることができ、また新たな学びがたくさんありました。培った知識や経験は、東住吉小学校での学校経営でも活かすことができたのではないかと思います。

さて、ある占いによると、私は2026年、「７年の闇」が終わり「解放の年」となるとのこと。ワクワクしています。皆様もお体を大切にして、チャレンジとワクワクのある学校経営を目指してください。ありがとうございました。

ありがとうございました

八　幡　博　子

熊本県立の工業高校で美術講師として勤務をスタートしました。男子校であり、校内で様々なことが起こる波乱の日々でした。あの当時を思い起こすと皆様も想像ができると思います。10年ぶりの女性教師ということで、周りに心配されたようです。子どもたちはやんちゃでしたが、なんともかわいく、楽しい日々でした。

その後、鹿児島県の小学校教師になり、２校経験しました。２校目は学年１クラスの小規模校で国立公園内にありました。白砂青松、校庭に柵もなく、校庭端の砂浜を馬がよく走り抜けていく学校でした。同和教育推進校でもあり、いろいろ学びました。その後、川崎に来ました。

１年目は、南菅小学校、大谷戸小学校の臨任から始まり、翌年、上作延小学校で川崎の初任者になりました。県ごとの様々な違いに戸惑いましたが、川崎は本当に温かく、子どもも教師も大切にするシステムがあり、驚きと同時に感動したものです。上作延小、南菅小の後、管理職として、橘小、西有馬小、中原小、下小田中小に赴任しました。各学校で温かな地域の方々と教職員の方々に出会いました。素晴らしい出会いでした。特に校長10年間、校長会の皆様、支部の皆様の強力なサポートにとにかく助けていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。管理職として周年行事３校、再生整備２校、他にも本当にいろいろな経験を積みました。

現在、犬蔵小学校で初任者研修担当として、時に授業を行う日々です。子どもたちと学ぶことが楽しく、元気で意欲的な初任者さんとにぎやかな日々をおくっています。

小学校校長会の益々のご発展、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

感謝を胸に、新たな一歩を踏み出す

伊　東　芳　男

このたび令和７年３月をもって教員生活を無事に終え、小学校長会を退会することとなりました。振り返れば、校長としての歩みの中で、同じ志を持つ皆様とともに学び、語り合い、支え合った日々は、私にとってかけがえのない財産となりました。

校長職に就いた当初は、教育の現場における責任の重さに戸惑いながらも、子どもたちの笑顔と成長に励まされ、職員の力に支えられながら日々を積み重ねてまいりました。校長会では、先輩方の温かい助言や、仲間との率直な意見交換を通じて、教育の本質を見つめ直す機会を数多くいただきました。特に、支部校長会議での情報交換や研究を通して教育活動のあり方について語り合った時間は、私の教育観を深める大きなきっかけとなりました。

近年は、教育を取り巻く環境も大きく変化し、ICTの活用や多様性への対応、働き方改革、気候変動に伴う各種災害対応、そして新型コロナ禍など、新たな課題に向き合う日々でした。そうした中でも、校長会の皆様との連携が、現場の知恵と勇気を引き出す力となっていたことを、改めて実感しております。

退会後は、文化財課で学校連携事業を担当し、橘樹官衙遺跡群の学校見学や出前授業などに従事しています。川崎は遺跡・文化財に乏しいと思われがちですが、実は縄文・弥生時代の遺跡密集地であり、国の成り立ちを示す文化財の宝庫なのです。今後はそうした川崎の姿を伝える教育支援や文化活動に携わっていくつもりです。子どもたちの豊かな未来を育むため、これからも皆様のご活躍を心より応援しております。

最後になりましたが、これまでのご厚情に深く感謝申し上げます。校長会のますますの発展と、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

人が環境をつくり、環境が人をつくる

坂　本　正　治

７年間勤めた東小倉小学校の校長室に飾られた「書」の言葉です。教職員としての人生を終え振り返ってみたとき、この言葉の奥深さを改めて強く感じます。

初任校は開校２年目の南菅小でした。今のような初任者研修はなく、「毎月指導案を書いて全教科公開する」のが使命でした。マンツーマンで教科主任から授業づくりの指導を受けました。授業後の飲み会ではいつも怒られていました。校内研究の楽しさや難しさもたくさん学びました。当時先輩方と知恵を出し合った問題解決学習の考え方は、その後自身が研究をする上で強固な基盤となりました。

２校目は新設の西菅小学校。「校内研は年の若い二人に任せる」という校長先生のお考えに応えようととにかく頑張る毎日でした。相方の先生と遅くまで教材づくりを楽しみました。体育研の先輩方の熱いご指導に心も鍛えられました。６年間研究し続けたことで確実に子供が変わった、そんな手応えをもてました。

中原小では教育課程という大きな括りで教科を捉えることを学びました。先進的な研究家の先生方との出会いもあり、本気で学ぶ、研究する楽しさが増していきました。当時、ご指導いただいた校長先生から「研修型の校長になれ」とかけていただいた言葉を胸に秘め、数年後に東小倉小学校に赴任しました。

近頃は、効率的に物事を済ませることが正論のように聞こえます。手間暇をかけず、無難に学校時間を終わらせようとする風潮にも感じます。採用された初任者たちが育つ環境づくりをするのは校長の使命です。川崎の教育の在り方について、信念をもって考え、議論する校長会であり続けてください。

皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。お世話になりました。

挑戦と出会い

栗　田　嘉　也

３月まで３校で校長を務め、この４月から田園調布学園大学で専任教授としてお世話になっております。これまで「必ず夢はかなう。」と信じて挑戦する中で、人との出会いに恵まれてきました。

担任30年間のうち14回６年生を受け持つ一方で、ライフセービングでは日赤水上安全法指導員の仲間と三浦・横須賀地区の海のライフセーバー育成や、防大水泳部の指導にあたりました。スキーでは、（公財）神奈川県スキー連盟前会長・片忠夫先生に師事し、（公財）全日本スキー連盟の技術員として22年間、指導員の養成・研修を行い、自らも競技者として数多くの大会に挑戦しました。教員としては異色ですが、学校外での挑戦と出会いの経験が少しは教員の仕事に生かされたと思っています。

創立から９年間在籍したはるひ野では、教師として最も尊敬する大日方雄三先生（KAJAC代表）の助言を受けながら中学陸上部の顧問として関東大会・全国大会へ行きました。その後卒業生のうち３人がインターハイ、２人がインカレ、１人は日本選手権まで進みました。土日夏休み返上でわが子の運動会も行きませんでしたが、彼らの努力と才能に多少でも関われたことは教員人生の最大の誇りです。

校長として赴任した３校では、６年生の英語授業を担当しながら、２年かけて英検準１級を取得、玉川大学米田佐紀子先生に授業の助言をいただき、大学英語教育学会（JACET）にも入会させていただきました。これが今の仕事のご縁につながり、本当に幸運だったと思います。先日参加した国際大会では発表・討議すべてが英語で行われ、緊張と達成感の連続です。経験と現在進めている研究をどのように学生に伝え育てていくかがこれから５年間の私の仕事です。

振り返れば、管理職昇任をはじめ、数々の経験は人より出遅れましたが、学校内外での私の異色な挑戦を温かく見守ってくださった先輩方、仲間の皆様に深く感謝申し上げます。

ちょっとうれしい、ちょっとさびしい

戸　塚　裕　康

昭和60年４月16日付で新採用となり、夢見ヶ崎（当時は夢見崎）小学校に着任しました。辞令をいただいて昼頃に学校に到着し、校長先生に挨拶した後は、驚くことが待っていました。まずは、事務職員の方から「はい。これ、４月分の給料ね」と現金の入った封筒を渡されました。「まだ働いてもいないのに給料？ ラッキーじゃん！（心の声）」そして次に、教頭先生から「今日は授業参観だからね」と。「えっ、聞いてないよ！（同じく心の声）」授業は後ろで参観していればよいとのことでしたが、懇談会から任されることになってしまいました。そんなラッキーでスリリングな幕開けから再任用の２年間を含めて約40年が過ぎた令和７年３月末日をもって、教員生活に終止符を打ち（ほっとし）ました。夢見ヶ崎のあと、白幡台小、宮崎小、市外の特別支援学校、富士見台小、三田小を経て、校長として勤務した菅小学校までの計７校で、諸先輩方をはじめ保護者や地域の皆様から、たくさんのご指導をいただきました。そしてもちろん、校長職を勤めた終わりの７年間は、小学校長会の皆様から常にお力をいただいていました。当然のことながら多摩支部の皆様とは顔を合わせる機会も多く、情報共有やお悩み相談等で、本当に支えていただいたと感じています。これまで大変お世話になりました。

現在は、川崎市生涯学習財団で事業推進室の一員として週４日間の勤務をしています。私の主な業務はシニアの方々に社会参加の場や活躍の場を提供することで、例えば社会人学級の運営、PC活用学習や環境学習を支援するボランティアを学校へ派遣することなどがあります。今の仕事も責任ある大切なものですが、業務の性格上、自分より年長の方との関わりが多い日々で、さびしい思いもあります。ですので、ボランティアの方に同行して学校へ行き、子どもたちと関われる日を心待ちにしています。ボランティア派遣についてご興味がある方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

では皆様、これからもますますお元気でご活躍ください。ありがとうございました。

お世話になりました

山　岡　昌　子

1985年４月１日付教諭採用がなかった年、養護教諭として採用されて以来40年、川崎市で奉職できたことは何よりの幸せだったと思います。振り返ると採用当時には考えられない想定をはるかに超えた歳月でした。初任の日吉小から大戸小、宮前平小と先輩、同僚、同職の方々、何より子どもたち、保護者の皆様、地域や関連機関の皆様という人に恵まれ、育てていただきました。指導主事時代には、新型インフル、エピペン、東日本大震災と未曾有の貴重な経験をさせていただきました。

管理職として現場に戻ってからは、新学習指導要領の全面実施、そしてまさかの新型コロナ禍での学校経営を担うこととなりました。思えば教頭初任の年、菊池　眞校長が、学校経営の在り方をお教えくださったことが管理職としての根源となりました。教頭３校、校長としても３校に赴任し、何とか職務を全うすることができました。特に、社会の変動が急激になった近年、最後の８年間を共に過ごした校長会の皆様には、公私ともに大変お世話になりました。小教研での活動でも大変力をいただきました。本当にありがとうございました。

今は、ゆうゆう広場たかつの相談員として子どもたちを愛おしく思う日々です。私的には、登山を通して、国内の主要な山々や温泉に魅了される幸せも満喫しています。こんな穏やかな日々がくるとは思ってもみないことでした。

最後になりましたが、校長会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念して感謝の言葉に代えさせていただきます。

どうか、ご自身の心と体、社会的な健康状態を大切にされ、頑張りすぎないでくださいね。

人との出会いに感謝
～和顔愛語～

杉　本　眞智子

令和７年３月、柿生小学校を最後に43年間の教員生活を終えることができました。その間、週５日制の完全実施、授業時間数の削減、総合的な学習の時間の新設、英語や道徳の教科化、ギガ端末の導入と学校教育は日々変化してきました。そんな中でも変わらないことは、「子供の笑顔のために」「子供たちが喜ぶことを」ということだったと思います。

私の教員生活のスタートは、登戸小学校でした。５年生の箱根林間学校で乙女峠から金時山まで縦走したこと、職場でバレーボールをしたりスキーに行ったりと、諸先輩方のおかげで、楽しい20代を過ごしました。

王禅寺小学校での30代は、素敵な仲間に恵まれ、(学校教育を逸脱しない程度に)子供たちとやりたい放題楽しみました。

行政職に就いた時には、「クラスの子供たちのために」という枠から、「川崎市の子供たちのために」という視野が求められました。大変なこともありましたが、新たなことを提案し、それが実現できる喜びを味わうこともできました。また、学習指導要領の改訂に携わったり、中教審の会議に出たりなど、貴重な経験もさせていただきました。どれもこれも、自分一人の力ではできることではなく、出会った方々が後押ししてくださったことと感謝の気持ちでいっぱいです。

校長を拝命した西生田小学校では、140周年、そして柿生小学校では150周年記念式典を挙行しました。多くの教職員はじめ、保護者の皆様や地域の方々に支えられながら共に喜び、お祝いをし、「ウェルビーイングの実現」を味わうことができました。

校長会の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。
出会った全ての方々に感謝申し上げます。

元気をめざして

添　野　雅　美

在職期間中は皆様には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

さて、退職してそろそろ１年が経ちます。健康に問題を抱えて決意した退職でしたので、４月からすぐに近所のジムに通い始めました。最初は片足で椅子から立ち上がるというテストで１回も成功せず、コーチにも苦笑されたものです。また知り合った整形外科の先生に「握力と寿命は関係あるよ」と言われたことから、100円ショップで材料を揃え、グッズを作って毎日握っているところです。50代女性の平均27kgを目指していますが、正直、この平均値は高すぎると思っています。

作るといえば小物づくりが趣味ということもあり、リボンやペーパーを買ってはいろいろな物づくりにチャレンジしています。主に「推し活」グッズですが意外と好評で家に人が来て一緒に作ったりしています。若者と知り合いになるのは楽しいものです。先日はとうとう「ぬい」ぐるみをいちから自作し友人に押し付けるなど、余生っぽいなと思いながらの毎日をすごしています。

【感謝とお詫び、そしてお願い】

田　中　仁　浩

６年間、川崎市立小学校長会で多くのことを経験し学ばせていただいたことに心から感謝しています。

中でも思い出深いのが支部校長会です。情報交換を通して悩みや迷いが著しく軽減しました。会議後の懇親会や旅行会ではさらに深く人間模様を交換・共有し、自らの人間性を豊かにすることができました。一生の宝を得た思いです。本当にありがとうございました。

学習状況調査委員会では、調査が市独自からベネッセによるものへと移行する大きな変革期であったにもかかわらず、在任期間中に十分な意見の吸い上げや情報提供ができなかったことを深く反省しています。ごめんなさい。市の学習状況調査を校長会が担ってきた趣旨や、皆で大切にしてきた思いを、これからもずっと守り続けていってほしいと願っています。

人権児童指導研究会議では、自身も含めて大人の人権感覚や児童理解の力を磨くことの重要性を痛感しました。職は辞しても、生涯追求し続けたいと思っています。ありがとうございました。

県校長会に役員として出向させていただいた３年間もたいへん実りあるものになりました。特に麻生市民館を会場に第111回研究大会（R6.2.22）を開いたときには、川崎の皆様から温かいご支援、ご協力をいただき、とても心強かったです。皆様のお陰で３年間、川崎から選出されていることに誇りを持って仕事を全うすることができました。ありがとうございました。県では他市町の苦労や努力、工夫、そして何よりも同志の熱い思いを知ることができました。どうか末永く、全県の校長さん方との親交、情報共有、共同研究を大切にしていってください。よろしくお願いします。

結びに、校長会のますますの発展をお祈りしています。そして皆様、どうぞご健勝にてご活躍ください。どうもお世話になりました。

ありがとうございました

金　田　玉　恵

令和７年３月31日をもちまして、校長としての教員生活を無事に終えることができました。多くの皆様にご指導とお支えをいただいたことに、心より感謝申し上げます。

校長として２年目の１月以降、新型コロナウィルス感染症の影響で教育活動が大きく変わりましたが、区内の校長先生方にご相談しながら対応を進めることができ、できることの最善を選ぶことができたように思います。また、歴代校長先生方もご連絡をくださり、思いをお聴きすることができました。歴代校長先生のお優しさを感じると共に、繋ぐことの意味を実感いたしました。川崎市立小学校で勤務できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

最期になった木月小学校では、創立50周年記念式典の開催、家庭科の推進校、再生整備の準備と数多くの経験をさせていただきました。その度に、チーム木月の全職員の力強い協力があったことや、中原区支部校長会や市内各部署、川崎市総合教育センター・カリキュラムセンターの皆様からのご指導とお力添えをいただくことで、子どもの笑顔と、地域に愛される学校作りに関わっていくことができました。

初任校で教科の関東ブロック研究大会発表のために、川崎市立小学校教育研究会の常任委員の先生方にご指導いただいたことが思い出深く、その後も研究会の中で多くの学びを得ることができました。研究会を通した全国の先生との交流の場は、自身の成長の糧となり、川崎市の研究が充実していることを実感することになりました。川崎市立小学校教育研究会の益々のご発展を願っています。

４月からは、初任者研修の担当として市内学校で勤務しています。初任者と共に、子どもたちの成長に関われていることに幸せを感じています。

最期になりましたが、川崎市立小学校長会の皆様には大変お世話になりました。皆様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

渡　部　伸　一

令和７年３月31日をもちまして、３６年間の教員生活を無事に終えることができました。大過なく終えることができ、ほっとしています。平成元年に初任として苅宿小学校に着任し、教員生活がスタートしました。その後、下作延小学校、横浜国立大学附属横浜小学校、富士見台小学校、西菅小学校、住吉小学校、教育委員会事務局職員部、麻生小学校、東高津小学校に勤務しました。それぞれの職場で、様々な出会いがありました。在職中に出会った子どもたちや保護者の皆様、地域の方々にたくさんのことを教えていただき、支えていただき、楽しく、充実した時間を過ごすことができました。また、ご一緒させていただいた教職員の皆さんには、大変お世話になりました。楽しいことばかりではなく、大変なこともありましたが、一緒に力を合わせて乗り越えられたことも思い出です。出会えた皆さんに感謝です。そして、たくさんの出会いに感謝です。

校長会での思い出もたくさんあります。特に、人権・児童指導研究会議に所属し、児童・生徒の人権に関わる会議やいじめ防止対策の会議、全市学警連など、他校種の校長先生方や関係機関の方々と関わる機会をいただき、多くのことを学ぶことができました。また、政令指定都市大会千葉大会、岡山大会で発表する機会をいただきました。川崎市立小学校長会や研究会議の取組やその成果について、全国の校長先生方にお伝えすることができました。

４月より、公益財団法人　川崎市生涯学習財団の事業推進室に勤務しております。川崎市における豊かな生涯学習社会の実現を図るために、教育、学術、文化等に関する事業を進めています。私は、夏休みのキッズセミナーや寺子屋先生養成講座などの担当をしています。なかなか新しい仕事には慣れませんが、日々、勉強しながら業務に取り組んでいます。

最後になりますが、小学校長会の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。これからの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

感謝を込めて～フォーエバー校長会

堀　川　勝　也

教員人生の始まりは、綾瀬市・海老名市での非常勤・臨任教諭でした。教員試験に受からず、不安や焦燥感にかられる日々でした。そんな若い頃の自分に「未来は大丈夫」と声をかけてあげたいです。教員試験５回目で川崎市に採用になり、合格通知を受け取った時は本当に嬉しかったです。

初任の井田小では、２年目から体育主任を仰せつかり、ラインパウダーと砂にまみれながら仕事をしました。プールの水も入れ過ぎたこと、あります。職場の先輩には､放課後･夜(居酒屋)と教育について、人生について多くを学ばせていただきました。２校目から体育研究会の常任委員となり、いい授業づくりのために、互いに切磋琢磨しながら成長させていただきました。

担任時代は１年から６年全てと通級指導教室の担当もさせていただきました。通級指導教室を担当してから、子ども側から授業を考えるようになり、自分のキャリアの大きな転換点となりました。

６校目の新作小から校長職に就かせていただきました。先生方が子ども達のために互いに協力しながら力を発揮できるように心がけてマネージメントしましたが、欠員人事等常に迷いの中、暗中模索の日々でした。そんな厳しい状況でしたが、校長会の方々は親身に相談に乗ってくださいました。相談することで、最適解を探し決断することができました。

校長２校目の宿河原小では、５０周年行事に関わらせていただきました。昨年８月の台風による避難所設営では、旅先の広島から学校に向かい、校長室に泊まりました。一人寂しく誕生日を迎えたことも今では懐かしい思い出です。

これまでを振り返ると、子ども達・先生方・地域、保護者の方との関わりで、人として成長できる素晴らしい仕事に就かせて頂いたと感じます。

４月から東生田小にて初任者担当教諭として週４日短時間勤務をしております。初任と共に「いい授業づくり」を目指しています。

日々、様々な課題に取り組まれている校長先生方、本当にご苦労様です。忙しいと思いますが、健康にはご留意いただき、子ども達のためにいい学校づくりにお取り組みください。大変お世話になり、ありがとうございました。

ありがとうございました

紀　　裕　子

生まれ育った横浜市で教員人生をスタートしました。初任研で２年生の国語「かさこじぞう」で、つたない授業を公開したことが懐かしいです。

横浜市で２校経験した後、息子が中野島小学校に入学する機に、わたしも川崎市の教員１年生となりました。隣接市であり、30代後半での異動でしたが、異動当初は戸惑うことも多く、赴任した有馬小学校では、熱心で温かい先生方に丁寧にご指導頂いたり、たくさん助けて頂いたりしました。校長会には、当時お世話になった先輩方や元同僚がたくさんいて、またまたお世話になり、ご縁を感じずにはいられません。その後もそれぞれの学校で、たくさんの良い出会いに恵まれ、刺激を受け、さまざまな経験をさせて頂きました。

橘小学校での教頭時代は、丁度「生活科・総合的な学習の時間」の研究校で、子ども達と教職員皆で、地域の財を使った単元開発を進めたことが印象に残っています。また、図画工作科研究会に参加させて頂き、新たな学びがあり大変勉強になりました。

校長の６年間を振り返りますと、一日一日の中身が重く濃く、判断に迷ったり責任の大きさに悩んだりしたことも数知れず。同じ区の校長先生方に相談したり、ご指導頂いたり、励まして頂いたりしながら、何とか１年１年を積み上げていたように思います。最後の令和６年度は、片平小学校で子ども達と教職員、地域も含め皆で協力して40周年行事に取り組むことができ、一生の思い出となりました。

４月から、「ゆうゆう広場たま」で教育相談員として勤務しています。繊細で心優しい子ども達が、笑顔で通室しエネルギーをチャージできることを願って、「ボカロ」や「推し」など、中学生の話題に耳を傾け、勉強中です。創作活動や調理では子ども達の特性や季節を考えながら「次は何を作ろうかな。」と工夫したりしています。久しぶりに、直接子ども達に関われる楽しさを味わっています。

最後になりましたが、校長会の皆様には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。皆様どうぞお体に気をつけて、川崎の子ども達のために益々のご活躍をお祈りしております。

新会員のことば

【①出身地　②趣味　③好きな言葉・座右の銘　④現在の心境・頑張っていること】

渡田小学校　　仙田　清孝

①川崎市　②陸上競技・スポーツ観戦　③好きこそものの上手なれ　④校長として、気持ちを新たにスタートしました。渡田小学校の学校教育目標「やる気いっぱい」「笑顔いっぱい」「元気いっぱい」のように子供たちも教職員もウェルビーイングな日々を過ごせるように取り組んでいきたいと思います。毎朝の見守り活動では「おはようございます」のあいさつとともにたくさんの力をもらっています。子供たちのよさ、教職員のよさを家庭や地域に発信し、家庭や地域と連携した学校運営をしていきたいと思います。

旭町小学校　　山口　嘉徳

①川崎市　②ドライブ・登山　③置かれた場所で咲きなさい　④朝、校門で子どもたちを迎え入れていると、「おはようございます」と子どもから元気な声で挨拶してくれます。その言葉に「今日も一日頑張ろう。」というエネルギーをもらっています。100周年という大きな式典を通して、職員も子ども達も、学校が一つになって取り組むことができました。「あさひこ」の学校目標の具現化のために、学校・家庭・地域と協力し合って取り組んで行きたいと思います。

古川小学校　　石塚　全

①川崎市　②サッカー指導・サッカー観戦　③我以外皆我師　④素直な児童、学校の応援団の地域や保護者の方、前向きな職員に支えられ、毎日楽しく過ごしております。その４者をつなぐのが私のミッションだと思っています。笑顔がたくさん古川小学校になるよう、チーム古川で頑張ってまいります。

新小倉小学校　　田中　康子

①川崎市　②プロ野球観戦・ゴルフ　③過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる④川崎市115校目の新設校としてスタートしました。日々手探りでとりあえずやってみる！という姿勢で毎日を過ごしています。

東住吉小学校　　伊藤　和江

①川崎市　②美術館・博物館めぐり　③一期一会　④二ケ領用水沿いにある東住吉小学校です。季節の変化を感じながら、響き渡る子どもたちの挨拶から１日が始まります。今日に至るまでたくさん子どもたちに出会い、そしてたくさんの先生方に支えられ教師として育てられてきました。一つ一つの出会いを大切に職員も子どもたちも認め合い、励まし合い、高め合える学校づくりに励んでいきたいと思います。

上丸子小学校　　横山　里恵

①兵庫県　②写真撮影（人）マラソン　③捨てる神あれば拾う神あり　④自校昇任のおかげで子ども達・教職員・地域・保護者にスタートから支えていただいています。教頭として務めた３年間、窮地に追い込まれた時にこそ見えてくる仲間のあたたかさに今度は私がお返ししていきたいと思います。子どもを主人公に、いろんなことがあるから楽しいと思える仲間づくり、学校づくりを目指します。

西丸子小学校　　吉村　あかね

①川崎市　②読書・音楽鑑賞　③人類みな兄弟　④緑に囲まれた広々とした敷地に子どもたちの明るい笑顔、鳥たちのさえずり、時には猫や狸、蛇まで寛いでいる学校です。地域の方々が学校教育に大変熱心で、たくさんの知恵を行動にうつしてくださいます。職員の私達もチームワーク重視で主体的に働くことで、授業も、児童指導も前向きになれると思っています。チーム西丸子で学校教育を推進できるよう頑張ります。

下小田中小学校　　安斎　陽子

①広島県　②山歩き・ドラマ鑑賞　③なせば成るなさねば成らぬ何事も　④毎朝、子どもたちの元気な挨拶に、自然と笑顔がこぼれてしまいます。前向きな職員や温かい保護者･地域の方々の協力に助けられて､改めて「学校っていいな」と実感する日々です。先日、校長室に来た児童に「しもこ（下小田中小）の良いところを教えて」と尋ねたところ「優しい友達に助けてもらって『なりたい自分』になれる学校だよ。」という言葉が返ってきました。今までの取組を大切に、学校目標『共に学び、明日が楽しみになる学校』に向けて、チーム下小田中で頑張ってまいります。

小杉小学校　　山田　朗生

①川崎市　②温泉旅行　ラグビー観戦　③大体大丈夫　④令和７年３月６日に右膝蓋腱断裂、右足首骨折という大きな怪我をしてしまい、校長昇進の報を受けたのは病院のベットの上。その後、手術を受け４月 20 日まで入院。令和６年度の卒業式も令和７年度の入学式も出ることができず、やっとのことで５月１日付で復帰しました。未だ松葉杖の状態でリハビリに励んでいます。自校昇任ということと入院し現在通院している病院がお隣さんという好条件もあり、パワフルな教頭先生と主体的な教職員のおかげで何とか学校が進んでいるといったところです。学校目標の中に「人と人とがつながる温かな環境」という言葉があります。子どもたちだけでなく教職員のウェルビーイングの実現を目指して、校長としてより良い学校づくりができるよう努めていきたいと思います。

新作小学校　　高木　栄二

①岐阜県　②スポーツ観戦　③随処為主　④毎朝校門に立ち、子どもたちに会っていると「おはようございます。」等と元気な挨拶が満ち溢れます。気の向く子とはジャンケンをして楽しんでいます。６年生が「ジャンケン受付中」というタスキを作ってくれました。夏には「ほらクワガタだよ。」「カブトムシが飛んできた。」と子どもたちが嬉しそうに見せてくれます。まさに「都市に隣接する田園」そのものの環境です。挨拶運動や登下校支援をはじめ教育活動に協力してくださる地域の皆様に支えられ、感謝の念にたえない日々です。

東高津小学校　　米倉　竜司

①三重県　②天体観測・楽器演奏　③己の欲するところに従えど、その則をこえず　④歴史のある地域とそこに住まう素直で元気な子どもたちと一緒にドキドキ・ワクワクの毎日を送っています。校内のどこを歩いていても子どもたちがとても素敵です。学校教育目標である「考えよう やってみよう　みんなの本気が明日への一歩」を常に意識して、職員と協力しながら学校運営を行っていきたいと思います。がんばります。

土橋小学校　　山本　　直

①川崎市　②スポーツ観戦・スーパー銭湯　③愚直の道　④目の前に子どもがいる毎日に、とても幸せを感じています。10 年間教員として勤めた学校であり、学区のすぐとなりに住んでいるため、地域の方も知り合いばかりで大変協力的で嬉しく思います。疲れたときは、子どもたちと一緒に芝生の校庭で、紙飛行機を飛ばして、心を洗っています。

宮前平小学校　　後藤　香織

①神奈川県　②観劇　③なんとかなる　④毎朝、子ども達と目を合わせて｢おはようございます｣と声をかけると、気持ちの良い挨拶がかえってきます。とても清々しい気持ちになり、今日も頑張ろうと思える瞬間です。判断や決断を迫られるたびに校長としての重責を感じますが､｢今日も楽しく、明日が待たれる学校に」という学校教育目標の通り、子どもたち、教職員、保護者、地域の方々が、みな笑顔で安心して過ごせる学校をめざし、自分にできることをこつこつとやっていきます。

宿河原小学校　　田中　亜希子

①秋田県　②映画・ドラマ鑑賞　秘湯めぐり　③「変われないのではない。変わらないと決めているだけだ。」アドラーの言葉　④多摩区に初めて赴任しました。地域の方々がたいへんあたたかく、学校を大切に思ってくださっていると感じます。子どもも大人も、一人一人が大切にされて、それぞれのよさを活かし合って、のびのびと活躍できる学校、子どもたちが考え、主体になって創っていく学校を目指していきます。

菅小学校　　首藤　弘明

①川崎市　②ワンピーススクラッチ　③感動はいっしょうけんめいの熱い風④地域の方々に支えられている学校です。その分、校長として多くの方に期待されていることをヒシヒシと感じています。おもちゃのチャチャチャ！菅小チャチャチャ！菅小の校長というチャンスをいただいたので、いろいろなことにチャレンジして子どもたち、菅地区のためにチャリティしていきたいと思います。今は朝の地域の方たちへの挨拶回りと登校してきた子どもたちとのおはようのハイタッチを楽しんでいます！

麻生小学校　　末武　由布子

①東京都　②ピアノ　野球観戦　③以心伝心　④まだ若かりし頃、２校目の勤務地が麻生小学校でした。10年間の様々な経験が私の教員としての土台となっています。そこに昨年度教頭として戻り、今年度より校長となったこと、大きな喜びであるとともに、身の引き締まる思いです。校長室に飾られている歴代校長先生のお写真にお世話になった校長先生方が並び、諸先輩方が築き上げてくださった麻生小のよき伝統を受け継ぎ、さらに発展していけるよう頑張っていかなければと思っています。今一番の楽しみは朝登校してくる子どもたちと挨拶を交わすこと。毎日笑顔で登校することができる学校となるよう精一杯努めます。

東柿生小学校　　後藤　智春

①愛知県　②山歩き　③人間万事塞翁が馬　④いつも相談できる人を探しています。何がわからないのか、すらよくわからない毎日ですが、自校での昇任なので、子どもたちと職員の笑顔に励まされています。地域の方々もよく声をかけてくださり、日々感謝しかありません。毎日いろいろな出来事があって目まぐるしいですが、東柿生小の子どもたちのために、保護者、地域、職員と力を合わせ、焦らずに、自分にできることをこつこつと頑張りたいと思います。

片平小学校　　朝比奈　浩

①東京都　②ドライブ　③何とかなる　④子どもの声が聞こえる職場は、何者にも代え難い居場所です。いつも誰かに助けていただきながら今を過ごしています。これまでに出会ったたくさんの方々に感謝をしながら、与えられた仕事をより良くしていけるよう謙虚な気持ちを忘れずにいたいと思っております。片平小の子どもたち、職員、地域の穏やかで優しい雰囲気がいつまでも続くように努力をしていきたいと思います。

柿生小学校　　支倉　圭太

①東京都　②サイクリング　③心機一転　④152年の歴史をもつ柿生小学校の校長となり、身の引き締まる思いです。子供たちが明日も学校に行きたいと思い、先生方がやりがいを実感し、保護者・地域から信頼される学校づくりに全力で取り組みます。伝統を受け継ぎつつ、一人一人を大切にし、学びと笑顔があふれる学校を皆で力を合わせて創ります。よろしくお願いします。

元会員のことば

忘れられない

炭山　泰江

「今でも担任時代の夢をみる」

教員を卒業して15年がたち、すっかり現役から遠のいたと思っていましたが、なんと授業や教室の夢をときどき見ることがあります。その夢のどれもなぜか焦りまくっているのです。

研究授業なのに当日の指導案ができていない
教室に行くと子どもたちがまばらにしかいない
指導主事が来る日なのに大寝坊

などなど前日の食べ合わせが悪いのかと思うほど苦い思いで目が覚めます。

自分の中で整理したつもりでも根強く教員の頃の自分がいることを思い知らされます。

「川崎市での最初の一歩」

なぜかめぐり合わせで、川崎市で最初の一歩を踏みました。

○区担当の指導主事

学校と身近な指導主事へと行政の意向で各区に主幹１名指導主事１名が派遣されました。まだ場所や体制が整っておらず、中原区は公民館の一角に間借りをしました。

ここで一番迷惑をかけたのは二人とも教員病の大声の持ち主だったことです。電話相談だけでなく二人で内密に話しているつもりでも公民館の職員に静かに話すようしかられました。

ここで勉強したのは小中の問題の相違です。小学校は家庭や親との関わり、中学校は本人やネットのトラブルなどの解決法を考え、そして学びました。

○出戻り校長

有馬小の教頭から区担当へいったん鞍替えしたので、有馬には戻れないのではと子どもたちや地域の方々と涙の別れをしたら、２年でまた同校にとんぼ返り。初めての嬉しい出戻り校長でした。

○女性同士の管理職

横浜では始まっていましたが、川崎では初めての女性の校長と教頭でした。幸いなことに今では珍しくなくなりましたが、良い人々に恵まれたからこそ、今でも続いているのだと感謝しています。

「回想」

渡邉　堅護

球場でビール売りをした。売り子のユニフォーム姿でトスバッティングする選手の近くに行くと、いつも気軽に声を掛けてくれたのは長嶋だった。柔和な表情以外は見たことが無い。引退の日、授業休講で球場に行くと運良く席が取れて、目の前で引退スピーチも聞けた。　朝寝坊をしたおかげで、川崎市に採用された。副担任は給食までベテラン担任の教室で過ごし、大船の女子大学まで一年間通わせて頂けた。ベテランの学級経営を見習って、次年度新学期からの担任職も悩まずにやっていくことができた。

毎土曜日は午後から子どもたちを集めて野球をした。運動会での鈴割りでは鈴を落とさないように支えのロープを力ずくで引っ張り上げた時は人生で一番力を使ったと今でも思っている。

職員旅行への歌集作りは毎年の仕事で、アカペラでのバス車中合唱に活躍した。

16㎜映写技術の資格取得が、林間学校や修学旅行前の事前指導や校内映画教室開催に役立った。

書体違いの文字本からトレーシングペーパーに写し取った文字で構内掲示ポスターを沢山作った。プリント印刷するのにその方法は随分便利に変わっていった。蝋原紙とは思い出しても懐かしい。

教務主任が活字文字を拾いながら大型のタイプライターで文書作成していた様子もあまり長期にならず、ワープロの登場と共に文書類作成は格段の進歩を遂げた。教務の仕事に就いてからは理科研への欠席も増えたが、多種の情報を納める心の引出し作りを覚える事が出来た。

校長職では学校で職員を失う悲しみに遭った。

退職して暫くは空虚感を痛感し気が抜けた。その頃よく見た夢は「今日は終業式だというのに、渡す通信票が書けていない」や「研究発表会で教室に参観者がみえているのに指導案が書けていない」であった。意気地の無さも手伝ってなのだろうが、随分多くうなされた。初任校での先輩方が登場する夢も多く見られるのは懐かしく嬉しい。

教育相談職では相談者が学校に直行しないように声掛けを工夫した事は現場へ少しは貢献できたと思っている。

「ともに生きる」

田中　真喜男

神奈川県の憲章「ともに生きる」は、2016年に起きた悲しい事件を機に、制定されました。著名なダウン症の書家である金澤翔子さんの力強い文字が県の広報紙に度々掲載されています。

私が最初に「ともに生きる」という言葉と出会ったのは、1981年、正式に教員として採用になった「たんぽぽ学級」でのことです。重い障害が複数ある子どもたちが元気で明るく育つための学級目標が「ともに生き　ともに学び　ともに育つ」という言葉でした。

そして、そこ桜本の町には外国の文化とつながる子どもたちも多くおり、外国人教育の推進を目指した「ともに生きる」というタイトルの冊子も教育委員会から発行されていました。その後も、障害・国籍だけでなく、様々に困難な状況の中で生きる子どもたちと出会いました。学級担任を経て、５年間勤めた教育委員会の人権・共生教育担当という職でも、全国で、差別や偏見に負けず懸命に生きる人たちや、それを支える人たちの生き方を目にしました。そこで実感したのは、誰もが互いの違いを認め合いながら「ともに生きる」社会の大切さです。

現在勤めている「教育活動総合サポートセンター」には、「不登校」をはじめ、様々な状況にある子どもたちや、それを支え共に学び活動する仲間たちの姿があります。今、教育の場でも多様性が求められる時代となりましたが、通ってくる子どもたちが書いてくれた言葉の中に「勉強がわかりにくい」「普通になりたい」「自信を持ちたい」「学校に行きたい」という切実な声があります。もちろん学校だけが学ぶ場ではありませんが、どの子も安心して楽しく学べ、違いを豊かさとして認めあい、共に生きる学校づくりは、永遠の課題だと改めて感じています。その実現のためには、教職員、そして校長先生方の力が必要です。私たちも、子どもたちを支え、学校を支えるために「ともに生きる」という言葉を心に刻み、今後も、微力ながら、みなさんと共に子どもたちのために歩み続けていきたいと思います。

「紙芝居師はじめました」

赤松　　理

令和７年３月末で再任用を満了し42年の宮仕えに終止符を打ちました。４月からはかねてよりなりたかった「紙芝居師」を始めました。

「紙芝居師」の前に「ヒロシマを伝える」を付けて「ヒロシマを伝える紙芝居師」が正式名称です。広島市出身の者が教師という立場にたったとき、子どもたちにヒロシマを伝えることは使命である、と自覚したのは1995年、被爆後50年の年でした。私は国語の研究単元の構想に悩んでいました。おりしも、この年の夏「絵本で読む 広島の原爆」という絵本が刊行されました。この絵本には小学校の校庭で多数の遺体を火葬する様子が描かれていました。それは被災者の救護所となった私の出身校の昭和20年８月９日被爆後三日目の光景でした。

私は大きな衝撃を受けました。

そのことを先輩の先生に伝えると、自分が受けた衝撃を子どもたちに伝える学習を構成してはどうか、とアドバイスをもらいました。そうして「石うすの歌」をベースに「今を見つめて『ヒロシマ』～新たな語り部として～」という単元を立ち上げました。ヒロシマの実相を知り、調べ、理解し、感じたことを表現するという構成で、表現方法として壁新聞や朗読劇、そして紙芝居がありました。この単元を通して子どもたちの成長とともに私自身も先述の覚悟に至りました。それから30年、担任であるときは学習や学年通信で、教室を離れてからは朝会や学校だよりでヒロシマを伝え続けてきました。

そして、被爆80年を迎える年に、ヒロシマを伝える紙芝居師としての活動を本格始動しました。紙芝居は２本、一つは30年前の学習成果物である紙芝居、教え子に著作権の移譲を依頼する連絡をしたら驚きとともに快く許諾してくれました。もう一本は広島平和公園内にある慰霊碑や祈念碑を紹介する紙芝居です。

核兵器廃絶、恒久平和への希求を断崖絶壁に追い詰めるような出来事が頻発する今、若い世代にヒロシマを伝えることの使命感を強くしています。おかげさまで原稿執筆現在、主に川崎市内の小学校９校から上演依頼（３校は実施済）をいただいております。

川崎市立小学校長会規約

付・細則並びに規程

昭和44年12月改正
昭和45年４月改正
昭和47年11月改正
昭和55年12月改正
昭和57年４月改正
昭和61年４月改正
平成３年２月改正
平成９年７月改正
平成15年２月改正
平成16年２月改正
平成17年２月改正
平成18年２月改正
平成24年２月改正
平成26年２月改正
平成27年２月改正
平成30年４月改正
令和３年５月改正
令和５年５月改正
令和６年５月改正
令和７年４月改正

第１章　総　　則

第１条（名　称）
本会は川崎市立小学校長会と称し、本部を川崎市中原区下沼部1709の４（川崎市教育会館内）に置く。

第２条（構　成）
本会は川崎市立小学校長をもって構成する。

第３条（目　的）
本会は、会員相互が連絡提携し、小学校長としての職能の向上に努め、本市小学校教育の充実発展を図ることを目的とする。

第４条（活　動）
本会は前条の目的を達成するため、つぎの活動を行う。
１．会員の研修に関すること
２．教育条件の整備に関すること
３．会員相互の連絡、情報に関すること
４．教育的行事の推進に関すること
５．現職教育に関すること
６．渉外に関すること
７．活動方針起草に関すること
８．その他、本会の目的達成に必要な事項

第２章　役員・会計監査

第５条（役　員）
本会につぎの役員をおく。
１．会　長　　１名
２．副会長　　３名
３．書　記　　２名
４．会　計　　２名

第６条（役員の選出）
役員は総会において、役員の選出に関する規程により選出する。

第７条（役員の任務）
役員の任務はつぎのとおりとする。
１．会長は本会を代表し、会務を統括する。
２．副会長は会長を補佐し、会長に事故があったときは代理をつとめる。
３．書記は本会の庶務を処理する。
４．会計は本会の会計をつかさどる。

第８条（会計監査）
本会に会計監査をおき、選出並びに任務はつぎのとおりとする。
１．会計監査は３名とし、総会において選出する。
２．選出方法は役員の選出に準ずる。
３．会計監査は本会の会計を監査する。

第９条（役員・会計監査の任期）
役員・会計監査の任期はつぎのとおりとする。
１．役員の任期は１年とする。ただし再任をさまたげないが、会長の任期は２年を限度とする。
２．会計監査の任期は１年とし、再任を認めない。
３．補欠による任期は、前任者の残任期間とする。

第10条（顧　問）
本会に顧問をおくことができる。顧問は会長がこれを委嘱する。

第３章　支　　部

第11条（支　部）
本会の目的の達成を図るとともに、地域の状況に対応し、学校相互の連帯を深めるため区ごとに支部をおく。

第12条（支部長）
支部に支部長をおき、選出・任務ならびに任期はつぎのとおりとする。
１．支部長は、各支部において互選する。
２．支部長は支部を代表し、支部の活動を統括する。
３．支部長の任期は一年とする。ただし再任をさまたげない。
４．各支部で選考された支部長の中から、

会長の指名により総括支部長を１名選考し、支部活動が円滑に遂行できるよう、情報提供をおこなうものとする。

５．総括支部長は、会長の要請により企画会議に参加することができる。

第４章　専門研究会議・教育課題研究会議

第13条（専門研究会議）

本会につぎの専門研究会議をおき第４条の活動を推進する。各会議の構成員の定数は運営会議で定める。

１．研修研究会議
- ・職能向上のための研究に関する事項（学校経営研究）
- ・学校経営上の諸問題及び会員の研修に関する事項
- ・指定都市小学校長会研究協議会に関する事項

２．情報研究会議
- ・今日的な教育課題についての調査研究（情報の収集・伝達・発信等）に関する事項
- ・会報発行並びに広報活動に関する事項

３．行事研究会議
- ・校長会が主催する連合行事の運営及び調査研究に関する事項

４．行財政研究会議
- ・教育財政に関する事項
- ・学校の施設・設備の調査研究に関する事項
- ・教職員の給与・厚生の調査研究に関する事項

５．現職教育研究会議
- ・教職員の現職教育の調査研究に関する事項
- ・不祥事防止と教職員の資質能力の向上に関する事項

６．特別支援教育研究会議
- ・特別支援教育にかかわる研修・研究に関する事項
- ・特別支援教育にかかわる情報収集と対策に関する事項
- ・諸機関との連絡調整に関する事項

７．危機管理研究会議
- ・危機管理全般にかかわる研究に関する事項
- ・学校の危機管理にかかわる情報収集と対策に関する事項
- ・諸会議・諸機関との連携に関する事項

８．人権・児童指導研究会議
- ・人権尊重教育にかかわる研究に関する事項
- ・児童指導における課題についての研究に関する事項
- ・関係各機関との連携に関する事項

第14条（座　長）

専門研究会議に座長をおき、選出並びに任務はつぎのとおりとする。

１．座長は会長が委嘱する。

２．座長は担当研究会議の活動（計画・課題・課題解決等）を統括する。

３．座長の任期は１年とする。ただし、再任をさまたげない。

第15条（教育課題研究会議）

本会に第４条の活動を推進し、今日的な教育課題の解決のため、必要に応じて専門研究会議とは別に臨時または年度を通した常設の教育課題研究会議を設ける。

１．教育課題研究会議は一応の課題解決を実現した時点で解散とするが、その設置・解散および構成員の定数等については運営会議で定める。尚、年度途中の設置の場合の構成員については専門研究会議の構成員の中から選出する。その選出については運営会議で行う。

２．各教育課題研究会議に座長をおき、選出並びに任務はつぎのとおりとする。
- ・座長は会長が委嘱する。
- ・座長は担当教育課題研究会議の活動（計画・課題・課題解決等）を統括する。
- ・座長の任期は一応の課題解決までとする。その判断は運営会議で行う。

第５章　会　　議

第16条（校長会総会および全市校長会議）

校長会総会は本会の最高決議機関で、会議ならびに開催方法はつぎのとおりとする。

１．校長会総会は会長がこれを召集し、４月・５月に開催する。４月全市校長会議・総会、５月全市校長会議・総会とする。ただし必要が生じた時には臨時で開くことができる。

２．校長会総会はつぎの事項を審議し、出席会員の過半数をもって議決する。
- ・役員・会計監査の選出に関する事項
- ・年間事業計画に関する事項
- ・予算・決算に関する事項
- ・規約の改正に関する事項

・その他の重要事項

全市校長会議は全校長が参加する最高決議機関であるとともに、学校経営調査研究組織としての校長会議で、会議ならびに開催方法はつぎのとおりとする。

１．全市校長会議は会長がこれを召集し、４月・５月・７月・９月・１２月・２月に開催する。ただし必要が生じた時には臨時で開くことができる。

２．全市校長会議はつぎの事項について研究協議し、活動方針を実現する。

・校長会総会に関する事項
・学校経営、教育経営、管理運営に関する研究・研修
・学校運営上の諸問題に関する研究・研修
・学校教育に関する市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等
・校長間、学校間の連絡・協議・調整

第17条（小学校長企画会議）

企画会議は会長が召集し、運営会議で検討する学校経営・教育経営等の課題を明らかにし、学校運営上の緊急課題等の対応にあたる。また、市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等にあたる。

第18条（小学校長運営会議）

運営会議は役員・支部長ならびに専門研究会議座長、小学校教育研究会役員、組織代表をもって構成する。ただし必要に応じて教育課題研究会議の座長・活動方針起草委員会の委員長を招集することができる。運営会議は会長が招集し、活動方針実現のため、全市の学校経営・教育経営研究等の課題について研究協議し、全市的な学校運営上の諸問題等について検討・対応する。また、そのための企画運営にあたるとともに、市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等にあたる。会長は必要に応じて顧問を招集することができる。

第19条（支部校長会議）

支部校長会議は支部長が招集し、第11条の目的を達成するため、各支部の学校運営上の諸問題について研究協議し、学校経営・教育経営・学校管理に関する研究・研修を行う。また、市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等にあたる。

第20条（教育経営推進会議＜拡大を含む＞）

教育経営推進会議は今日的な教育課題解決のための教育施策を市教育委員会事務局へ提言し、市教育委員会事務局との協議を通して、教育経営の充実を図ろうとする会議である。会議ならびに開催方法はつぎのとおりとする。

１．教育経営推進会議の構成員は、企画会議の構成員、専門研究会議と教育課題研究会議の座長、小学校教育研究会役員とする。

・委員長は副会長の中から会長が委嘱する。
・委員長は会議の活動（計画・課題・課題解決等）を統括する。
・委員長の任期は１年とする。ただし、再任をさまたげない。

２．教育経営推進会議は、今日的な教育課題解決のための教育施策としての課題を各専門研究会議と教育課題研究会議に委託し、拡大教育経営推進会議に提案する教育施策提言書を作成する。

３．教育経営推進会議は必要に応じて拡大教育経営推進会議を発足し、市教育委員会事務局との協議に向けて準備を進める。拡大教育経営推進会議には、教育経営推進会議の構成員、支部長、小学校教育研究会役員、組織代表が参加する。ただし、２回目の拡大教育経営推進会議の構成員は、絞り込まれた提言内容の柱立てを基に、教育経営推進会議で決定される。

第21条（専門研究会議・教育課題研究会議）

専門研究会議・教育課題研究会議は座長がそれぞれ召集し、専門研究会議は学校経営・教育経営・管理運営に関する調査研究や学校運営上の諸問題の解決に関する調査研究・研修のため、原則として月１回研究会議を開催する。教育課題研究会議は今日的緊急の教育課題に関する調査研究のため、研究会議を必要に応じて開くものとする。

第６章　会　　計

第22条（経　費）

本会の経費は、会費およびその他の収入をもってこれにあてる。

第23条（会　費）

会費は月額2,500円とする。

第24条（会計年度）

本会の会見年度は４月１日より始まり、翌年の３月31日をもって終わる。

付　　則

１．本会の運営上必要な細則および規程は別に定める。

２．この規約は平成９年10月１日から施行する。

３．令和７年２月７日改正

特別委員会運営細則

第１条（設置・構成）
特別委員会の設置および構成については、運営会議において決定する。
第２条（運　営）
特別委員会の運営はつぎのとおりとする。
１．特別委員会の構成員定数・選出・任期は運営会議で決める。
２．委員長は会長が委嘱する。

付　　則
１．この細則は運営会議の合議により改正することができる。
２．この細則は平成17年４月１日から施行する。
３．平成21年２月10日改正

役員の選出に関する規程

第１条　この規程は川崎市立小学校長会規約第６条の規定に基づく役員の選出および県校長会の役員選出に関し、必要な事項を定めるものとする。
第２条　役員の選出にあたり、役員候補者推進委員会を12月に設ける。
第３条　役員候補者推薦委員会は、各支部から２名ずつ選ばれたものをもって構成し、互選により委員長をおく。
第４条　役員候補者推薦委員会は委員長がこれを召集し、全市的視野に立って会員の中より候補者を選考する。委員は原則として候補者にはなれない。
第５条　役員候補者推薦委員会は、２月の全市校長会議において候補者を推薦し信任を受ける。
第６条　役員候補者推薦委員会委員の任期は１年とし、任期中に役員に欠員を生じた時は後任の候補者の推薦にあたる。

付　　則
１．この規程は運営会議の合議により改正することができる。
２．この規程は昭和57年４月１日から施行する。
３．この規程は、平成17年４月１日より改正する。
４．この規程は、令和４年11月22日より施行する。

活動方針起草に関する規程

第１条　この規程は川崎市立小学校長会規約第４条（活動）７．に基づく、活動方針の起草に関し、必要な事項を定めるものとする。
第２条　活動方針の起草にあたり、活動方針起草委員会を11月に設ける。
第３条　活動方針起草委員会は、各支部から１～２名選ばれた者をもって構成し、会長の指名により委員長をおく。
第４条　活動方針起草委員会は委員長がこれを召集し、川崎市立小学校長会の次年度の活動方針を起草する。
第５条　活動方針起草委員会は、４月全市校長会議・総会において活動方針案を提出し承認を受ける。
第６条　活動方針起草委員は年度当初の支部校長会議において選考し、任期は１年とする。

付　　則
１．この規程は運営会議の合議により改正することができる。
２．この規程は令和６年５月１日より施行する。
３．令和７年２月９日改正

川崎市立小学校長会慶弔規程

昭和44年12月改正
昭和47年11月改正
昭和59年９月改正
平成９年２月改正
平成18年４月改正
平成19年６月改正
平成20年６月改正
平成24年２月改正
平成28年４月改正
令和２年２月改正
令和６年４月改正

第１条（目　的）
川崎市立小学校長会（以下本会と称する）は、会員相互の親睦を図り。互助共栄の実をあげるために、この慶弔規程を設ける。
第２条（事　業）
本会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業を行う。
１．会員の病気見舞い、または災害見舞
２．退会会員に対する謝意の表明
３．会員の表彰に対する祝意の表明
４．会員の婚姻に対する祝意の表明
５．会員ならびに家族に対する弔意の表明
６．祝賀会、または記念式典等に対する祝意の表明
第３条（病気・災害）

1．本会の会員が、長期にわたって療養し、または入院加療した時は、見舞の金品を贈って慰問する。

2．本会の会員が、災害・水難・震災または落雷等の災害をうけて、居住の家屋の減失、若しくは著しく破損した時は、見舞の金品を贈って慰問する。

第４条　（退　会）

本会の会員が、退会した時には、送別会を開催する。

第５条　（表　彰）

1．本会の会員が、国または地方公共団体から選ばれて、海外へ視察、または国際会議に出席を命ぜられた時には、餞別を贈呈する。

2．本会の会員が、国または地方公共団体から受賞・選奨・表彰等の栄誉をうけた時には、記念品を贈呈して祝意を表する。

第６条　（婚　姻）

本会の会員が、婚姻した時は、協議の上金一封を贈り祝意を表する。

第７条　（葬　弔）

1．本会の会員が死亡した時は、その葬儀に際し、なるべく全会員が会葬すると共に花環（または生花）および香料を贈り、代表者は弔辞を奉呈する。

2．本会の会員の配偶者、父母（同居の義父母を含む）子女が死亡した時は、なるべく代表者がその葬儀に参列し、花環（または生花）および香料を贈り弔意を表す。

3．本会の元会員が死亡した時は、なるべく代表者がその葬儀に参列し、花環（または生花）および香料を贈り弔意を表す。

4．小学校教頭、中・高・特別支援学校長が死亡した時は、なるべく代表者がその葬儀に参列し、花環（または生花）および香料を贈り弔意を表す。

5．第７条１から４の項目においていずれも遺族の意思を尊重し、辞退の場合はこれに従うものとする。

第８条　（祝賀会・記念式）

公共団体等が主催する祝賀会・記念式等には、金一封を贈り祝意を表す。

第９条　（例外規程）

本会の代表者が、本規程を適用しがたいと認めた時は、本規程にかかわらず、役員会の協議を経て、慶弔の意思表示をすることができる。

第10条　（附　則）

1．本規程の代表者とは、会長または会長代理者をいう。

2．本規程は、会員の外、川崎市教育委員会・同事務局幹部職員等に準用する。

3．本規程は、平成28年４月１日から、これを適用する。

内　規

（対　象）		（香　料）	（準会員）	花環（生花）	弔　辞
香料等	会員	５０，０００	（１０，０００）	○	弔　辞
	配偶者	１０，０００	（　５，０００）	○	
	実（養）父母	５，０００	（　５，０００）	○	
	同居義父母	５，０００	（　５，０００）	○	
	同居子女	５，０００		○	
	元会員	５，０００		○	
	小学校教頭	１０，０００		○	
	中学校校長	１０，０００		○	
	高校校長	１０，０００		○	
	特別支援学校長	１０，０００		○	
病気見舞		５，０００	（　５，０００）		
婚姻		協議			
祝賀会等		５，０００			

付　記　○（　）内の金額は、第10条２項に該当する場合に適用する。
○災害見舞、せん別については、その都度企画会議において協議決定する。

川崎市小学校教育研究会

川崎市小学校教育研究会役員並びに組織分担表

川崎市立小学校教育研究会　役員・顧問

会長	堀江広志	浅田小学校
副会長	猊倉正樹	東生田小学校
副会長	長嶺祐介	百合丘小学校
書記	西田裕子	三田小学校
書記	栃木達也	東菅小学校
書記	渡部陽子	南加瀬小学校
会計	袴田深雪	栗木台小学校
会計	藤原由布子	犬蔵小学校
会計	芦刈竜哉	金程小学校
会計監査	朝比奈浩	片平小学校
会計監査	小川幸	夢見ヶ崎小学校
顧問	勝俣久美子	下平間小学校
顧問	吾妻典子	有馬小学校
顧問	小林勝弘	西菅小学校
特別顧問	藤中大洋	菅生小学校
特別顧問	滝澤純子	大戸小学校
特別顧問	松澤ゆかり	久本小学校
特別顧問	後藤美智子	川中島小学校
担当（川崎市教育委員会事務局）	國廣隆之	学校教育部 区・教育担当課長
担当（川崎市総合教育センター）	鵜木朋和	カリキュラムセンター室長

川崎市立小学校教育研究会　組織

研究会名（◎会長）	川崎区	幸区	中原区
国語教育	関口　真弓	◎小川　幸	吉村あかね
社会科教育	楠田　典子	◎滝口　太志	伊藤　和江
算数教育	佐藤　茂樹	安藤　勉　石塚　全	小林　達也
理科教育	上野　和美		◎井上　清一　山田　朗生 近藤由紀子
生活科・総合的な学習の時間教育	川村　雅昭	小碇　早苗	◎梶　康子　滝澤　純子 五十嵐礼子
音楽教育	五十嵐　聡		
図画工作科	西村　和恵		◎緑川　葉子
家庭科教育			
体育	山川　佳美　仙田　清孝 今野　忠	渡部　陽子　滝澤慎一郎 中野　正明	
道徳教育	◎紙屋智子		辰口　直美
特別活動			横山　里恵
学級経営	◎結城　俊一	勝俣久美子	陸田由喜子　二川　義明 小久保裕之　安斎　陽子
特別支援教育	北　良介	本田　明子　筒井　愛子	◎松原　晴美
外国語・国際教育	◎坂東　修		
情報教育	堀江　広志　山口　嘉徳 治田　直美	柴田　薫　宝谷　拓之 田中　康子	清水　弘彦
児童文化	◎若狭　美加		
養護		後藤美智子	◎菊地美和子
学校栄養	◎今野　忠		
学校事務			

令和７（2025）年度神奈川県小学校教育研究会　川崎市役員名簿

役　　職	氏　　名	所　属　校	所属電話	職
副　会　長	西　田　裕　子	三　田　小　学　校	900-1986	書　記
中央大会運営委員長	猊　倉　正　樹	東生田小学校	911-4925	副会長
中央大会書記	長　嶺　祐　介	百合丘小学校	966-3550	副会長
中央大会会計	袴　田　深　雪	栗木台小学校	987-4633	会　計
役　　員				
役　　職	氏　　名	所　属　校	所属電話	職
理事・地区会長	堀　江　広　志	浅　田　小　学　校	333-5966	会　長
理　　事	西　田　裕　子	三　田　小　学　校	900-1986	書　記
理　　事	猊　倉　正　樹	東生田小学校	911-4925	副会長
理　　事	長　嶺　祐　介	百合丘小学校	966-3550	副会長
理　　事	袴　田　深　雪	栗木台小学校	987-4633	会　計
	研　究　部　長			
県研究部名	氏　　名	所　属　校	所属電話	職
特別活動	齊　野　保　史	久　末　小　学　校	777-6533	部　長
特別支援	北　　良　介	大　師　小　学　校	288-2392	部　長
図　書　館	青　木　あゆ子	稲　田　小　学　校	911-7041	部　長
養　　護	後　藤　美智子	川中島小学校	288-3167	部　長
事　　務	朝比奈　　浩	片　平　小　学　校	987-6367	部　長
栄　　養	今　野　　忠	東門前小学校	299-2065	部　長

高　津　区	宮　前　区	多　摩　区	麻　生　区
小林　智子	五十嵐　忍		井上　恵子
南谷　隆行	中川　正彦	小林　勝弘　今　広道	袴田　深雪
	藤中　大洋　◎神宮　祥恵 山本　直	羽深　東	長嶺　祐介　鈴木みどり
押田　春美　米倉　竜司 大泉　文人	菅原　隆宏　田中　克義		芦刈　竜哉　後藤　智春
	西村勇一郎　小林　美代	宮原千恵子	中西　憲子
◎近清えり子		西田　裕子	
	丸尾　明彦　藤原由布子		
◎中尾由美子	森島　美子		
鶴見　悦子　飯塚　正行	松沢　隆	◎猊倉　正樹　棟居　謙 江良　真一	大曽根　実　福岡　雄二
松澤ゆかり			柴田　雅之
◎齊野　保史			小堤　紀子
平井　育子　栃木　彰子	吾妻　典子	富谷　千春　田中亜希子	末武由布子
高木　栄二　吉野　晶子	伊藤　肇	松浦　徹	
		首藤　弘明	
	秋山　直子	◎栃木　達也　青木あゆ子	樋口　彰　齊野　裕子
			支倉　圭太
		江良　真一	
		江良　真一	◎朝比奈　浩

令和７年度川崎市小学校教育研究会活動方針

予測困難な社会を自立的に生きる子どもたちを育む小学校教育の創造

～学習や生活の出来事に対して「見方・考え方」を働かせて、考えることができる子どもの育成～

現行の学習指導要領には、その着実な実施を通して「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と示されている。

教育課程の編成・実施に当たっては、児童生徒が学校を卒業し社会に出た後も見通した上で、児童生徒や学校、地域の実態に即し、学校教育全体や各教科の指導を通して育成を目指す資質・能力を明確にすることや、各学校の教育目標を設定することが求められている。それらを実現するために必要な各教科等の教育の内容について、教科等横断的な視点をもちつつ、学年相互の関連を図りながら組織する必要がある。さらに、2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことや、「個別最適な学び」と「協働的な学び」それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが必要とされている。

昨年度、新型コロナウイルス感染症が５類になり、従来の教育活動を見直しながら取り組んでいる。今後再びこのような世界的な感染症が流行することも十分に在り得ることも含め、大規模自然災害の発生や「持続可能な開発目標（SDGs）」など、社会を取り巻く環境は予測できないほど急激に変化をしていることを念頭に置かなくてはならない。

このような中、川崎市小学校教育研究会（略称:小教研）は発足以来 71 年間真摯に研究と実践を重ね、川崎の小学校教育の充実・発展を目指してきた。昨年度は、19 研究会、3900 名を超える会員とともに、各研究会から学習指導要領の趣旨を踏まえた授業実践や子どもたちの学習の成果を発信し続けた。採用５年目未満のまだ経験の浅い教員が各学校に多く所属していることから、川崎市小学校教職員の底上げを図るべく、授業力の向上に力点を置き、常任委員授業研究会、地区授業研究会、研修会などを開催した。さらに、各学校の授業研究会に講師として赴き、指導助言に従事した。

また、GIGA 端末を活用したオンラインでの研修・研究活動を実施したり、学習における GIGA 端末の有効な利用法を求め創意工夫しながら実践を重ねたりしてきた。各研究会の研究や実践を進め、その内容を全ての会員と共有していくにあたり、GIGA 端末の効果的な活用は欠かせないものとなっている。小教研大会はその象徴として、教育会館でオンラインによる開催を行った。かわさき GIGA スクール構想に基づく授業改善の推進によって、各教科等の特質に応じた見方、考え方を働かせた授業実践は、各学校の日々の授業を支えるだろう。

本市においては、今年度「第２次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」の第３期実施計画の３年目を迎える。特に基本政策Ⅰ「人間としての在り方生き方の軸をつくる」基本政策Ⅱ「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばす」については、本研究会の活動方針「予測困難な社会を自立的に生きる子どもたちを育む小学校教育の創造」を目指した研究・研修活動により、推進していかなくてはならない。

以上の考えに立ち、令和６年度は、次の研究活動を小教研の重点とする。

１．研究と実践

（１）かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進

①学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究・研修の充実

・育成すべき資質・能力の明確化したうえでの授業実践、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善やカリキュラムマネジメントの推進等

②学習指導要領の趣旨を踏まえた日常の授業に生きる指導と評価の研究・研修の充実

・川崎市学習状況調査の結果の活用推進

③ SDGs や脱炭素社会、Society5.0 時代に向けた持続可能な社会の担い手を育成するための授業実践とその発信

（２）かわさき GIGA スクール構想に基づく授業改善の推進

①かわさき GIGA スクール構想ステップ３を踏まえた一人一台の PC 環境を生かした授業実践とその共有

（３）「川崎市教職員育成指標」に基づいた教職員の育成とそれを支える教職員の研究・研修体制の構築

①初任者をはじめとした各ステージの教職員のニーズに合った研究・研修の工夫

②働き方改革の視点から活動を重点化・スリム化し、参加しやすい研究会活動の実現

２．運営の改善

（１）創意工夫ある小教研活動の企画運営

①授業研究会や研修会の在り方

②研究会相互の情報共有

（２）各学校の柔軟な教育課程編成のための小教研に関連した全市的行事等の整理と連携

①連合行事や各種作品展の在り方についての検討

②研究会主催行事等についての確認

（３）かわさき GIGA スクール構想における教職員の GIGA 端末を活用した各研究会・研修会・企画会議及び運営会議等の運営の工夫

３．関係諸機関との連携の検討と整理から今後の社会を見据えた組織づくり

（１）川崎市教育委員会事務局、川崎市立小学校長会、神奈川県小学校教育研究会等関係諸機関とのよりよい連携・協力のための活動の整理

①川崎市立小学校長会とのさらなる連携と校長会活動起草方針と連動した役割分担

②教育委員会事務局との連携事業の整理と充実

・かわさき教育プランの基本理念及び基本目標を踏まえた児童に身に付けさせたい資質・能力の育成

・働き方改革の視点から連携事業の見直しとスリム化の検討

川崎市小学校教育研究会研修会報告

「かわさき GIGA スクール構想実現に向けて
～管理職が知って得する GIGA 端末活用講座Ⅲ」

1　研修日時・場所

令和７年８月 21 日（木）14 時～ 16 時　　教育会館大会議室（参集）

2　研修講師

川崎市総合教育センター情報・視聴覚センター指導主事　４名

今指導主事　中尾指導主事　榊原指導主事　福山指導主事

3　参加者

市内小学校長　約 80 名

4　研修内容

14 時～　　かわさき GIGA スクール構想～ GSL に伝えている事

14 時 10 分～　市内好事例紹介～リーディング DX 校の取組～

①今年度のリーディング DX 校について

②南河原小

③新小倉小

14 時 50 分～　Google for Education Plus の校務活用操作研修

①校務活用～校長編～

（１）生成 AI について

（２）小教研研修 _ 校務 DX に向けて

② Google サイト操作研修

15 時 50 分～　全体を通して質疑応答・Chat 入力

16 時　　終了

5　研修の成果

・Google サイト作成へのハードル低下「専門的な職員がやるものだと思っていたが、自分でもできると思えた」「仕組み（秘密）がわかって自信がついた」という声が多かった。校長自身が「入口」に立てたことで、今後の職員との協働に意欲を示す意見が多く見られた。

・実技・参集形式の有効性「実際に操作することで理解できた」「わからない時に指導主事にすぐ聞ける安心感があった」など、体験型かつ対面形式であることへの評価が高い。

・管理職としての意識変容「管理職が使ってこそ学校に根付く」「推進校の事例を見て目が覚めた」など、最新の情報に触れることで、DX 推進におけるリーダーシップの重要性を再認識する機会となった。

6　次年度以降に期待されるテーマ

・GIGA 研修の継続（パートⅣ）「来年も継続してほしい」という声が最も多く、シリーズ化が強く望まれている。

・生成 AI の具体的な活用法 最新技術である生成 AI をどのように業務や教育に活かすか、より踏み込んだ内容への関心が高まっている。

川崎市小学校教育研究会会長　　堀江　広志

川崎市立小学校学校経営研究会

学校経営上の諸問題

これからの時代に即した学校経営研究

研修研究会議

本市校長会では、研究主題を「夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営」とし研究に取り組んでいる。社会が激しく変化するこの時代において、子どもたちが「夢や希望」をいだいて成長していくことができるよう、各学校においても、よりよい学校経営について常に考え実践してきている。教職員の人材育成や業務改善、多様化するニーズへの対応など多くの課題に向き合いながら、学校教育目標の具現化、また、子どもたちにこれからの社会を生きていく力を育てていくための教育の具現化を目指して研究活動を行っている。支部研究では支部に共通する課題についての取組を情報交換し、学校経営の責任者としての校長の役割や全職員との連携のあり方について検討を重ねてきた。各支部で課題解決に向けて取り組んできた研究の成果を「これからの時代に即した学校経営研究」としてまとめた。

各支部の取組

【川崎支部】　昨年度から引き続き「充実した学校運営のための体制の構築」に向け研究を進めた。、今年度は学校全体の教員の授業力向上を目指し、校内研究を通した人材育成に取り組んだ。研究主任会の開催など、研究を進める研究主任を支えるための仕組作りにスポットを当て、実践を重ねた。

【幸 支 部】「チーム学校としてのマネジメント強化」を目指し、業務改善と働き方改革を効果的に進めるための手立てについて検証を行った。事務作業の効率化や時程や教育課程の見直しなど具体的な実践をを通し、各校の地域の実態を考慮しながらも教師本来の業務に注力できる仕組作りに取り組んだ。

【中原支部】「チームで行う人材育成」にむけ、心理的安全性をキーワードに研究に取り組んだ。
①話しやすさ②助け合い③挑戦④新奇歓迎の４つの視点で各校が様々な形で人材育成に取り組む中で、職員一人一人の心理的安全性を高める学校運営の重要性がより明らかとなった。。

【高津支部】昨年に引き続き「社会の変化に対応できる学校づくり」に向け、これからの学校経営を支える人材の育成について研究を進めた。課題意識をより共有できるよう、今年度は各校から児童会活動担当者、研修担当者、教務主任と対象を絞って、「キャリアアップ研修」を行った。他校の先生方との交流が、参加者の学びや意欲につながり、学校教育目標と関連付けた教育活動の活性化につながった。

【宮前支部】「誰一人取り残さない学びの保証に向けた環境マネジメント」として３年目の研究となる。今年度は主に別室指導のあり方や不登校未然防止のための組織作りなどについて研究を進めた。各校の現状を共有する中、学校経営における校長のマネジメント力の向上の重要性がより明らかとなった。

【多摩支部】「魅力あるこれからの学校づくり」に向けて、チーム担任性や半期での学級替え、教科担任制・交換授業の推進、時差勤務の活用、多様な働き方を活かす取組など様々な実践を試みた。持続可能な学校運営向けて「夢の実現」という切り口から柔軟で活力ある教育環境について提案されている。

【麻生支部】「第４期教育振興基本計画から考えるこれからの学校作り」に向け、「支部教頭会」「リーダーシップ研修」「支部校長会」の中で、「ウェルビーイング」をいかに学校運営に取り入れていくかという研修の場を設けた。管理職・職員がそれぞれの立場で自校の現状と課題を捉え、共に考え、学校運営を行っていくことの重要性を再確認する場となった。

今後の取組

後どのも取たち組を取り巻く環境は、これからも複雑化・多様化を続けていくと考えられる。そのような中、校長会では、各支部での研究を進め、その内容は多岐にわたっている。どの支部も、今、目の前にいる子どもたちを大切にしたものである。また、そのためにも教職員が安心して働き、子どもと共に成長し続ける環境作りを目指してきた。どれも大変貴重な研究であり、互いの学びを共有する価値は、とても大きいものだと考える。

今後も、未来を生きる子どもたちが「夢や希望」を抱き続けられるよう尽力していきたい。すべての子どもの豊かな未来を願って、学びの場である学校で校長がリーダーシップを発揮し、これからの時代に即した学校経営研究のさらなる充実を図っていきたい。

充実した学校運営のための体制の構築
～校内研究を通した人材育成を考える～

川　崎　支　部

Ⅰ　はじめに

令和７年度は「かわさき教育プラン」第３期実施計画の４年目にあたり、10 年の計画期間の区切りを迎える。基本理念「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」を実現するために川崎市の校長会としても「夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営」という研究主題を掲げ､研究を深めてきた。川崎区はその活動の柱の一つ「充実した学校運営のための体制の構築」をテーマに据えて昨年度若手人材の育成について研究したが、その過程で、若手だけでなく学校全体の教員の授業力向上を目指していくことの大切さを改めて痛感した。中でも各学校で取り組んでいる校内研究を、日々の授業に活かせるものにしていくためにはどうしたらよいのかという共通の課題に着目し、今年度の研究を行っていくことにした。

Ⅱ　研究内容

１．研究の視点

我々校長は、学校運営の基本は日々の授業の充実にあると考えており、そのために校内研究の果たす役割は大きいという認識を持っている。ところが昨今教員の間には、校内研究を費用対効果や時間対効果（いわゆるコスパ・タイパ）が低いものととらえる認識もあり、自分の力を伸ばす機会ととらえて一生懸命取り組もうという意欲が低い現状がある。また、下手をすると、教員の業務改善の為に校内研究は必要ないという意見を公然と述べる教員もいる。

校内研究に対するそのような空気感が少なからずある中、授業研究は一生懸命行うが、そこで学んだことを日々の授業に活かそうとする意欲につながらないことが、私たち校長の共通の課題意識であることが分かってきた。ある特定教科の一つの単元の授業を組み立てて行う力ではなく、どの授業にでも活かせる「汎用性の高い力」を教員につけるにはどうしたらよいのか。校内研究を通してどう教員を育てて い ったらよいのか。このような問題意識を中心に据えて研究していきたいと考えた。

２．研究の実際

（1）研究主任を支えるにはどうしたらよいか

教員の年齢構成が若い川崎区においては、研究主任を担当する教員の経験年数も低いことが多い。ゆえに研究主題の妥当性や研究の進め方に自信が持てないなど、悩みは尽きない。まずはこの研究主任をサポートすることで、研究の質を高めていけるのではないかと考えた。

そこで今年度はまず、研究主任を支えるための仕組み作りから着手していこうと考え、次のような取り組みを行った。

①クラスルームの作成

川崎区内の小学校 20 校の、研究主任（副主任）、校長が参加する情報共有 Classroom を作成した。ここを活用することで、研究主任も校長も区内の校内研究の状況が見渡せる。また、各学校の研究に関する悩みや課題などについても、すぐに情報を共有できる利点がある。研究主任がこの場を活用して、ヘルプを気軽に出すきっかけになることも期待される。さらに各学校で効果的だった取り組みについてすぐに情報をアップしてもらえるので、自校でも取り入れやすい。

②研究主任会の開催

校内で孤独になりがちな研究主任を支えるには、同じ川崎区内の小学校の研究主任同士をつなぐ仕組みを作り、情報や悩みを伝え合う機会を作ることが有効なのではないかと考えた。
１回目・・・学校が近い同志でのグルーピング。物理的に近い距離の学校同士で６つのグループを作り、まずは直接顔を合わせて人間関係を作ることをねらった。近隣の学校がどんな研究をしていて、どんな課題があるかを知る機会ともなった。
２回目・・・教科や内容、テーマなどでグルーピングし、同じ視点で情報共有できるようにした。

No.	各校の研究テーマ	テーマのカテゴリ	学校名
1	「みんなでつなぐあさひこのバトン～次の100周年へ～」など	周年行事	旭町、東大島
2	「伝え合うことを通して、問題解決しようとする子の育成」 「じっくり考えて豊かに伝え合おう」など	表現（伝え合い）	四谷、殿町、東門前、宮前、東小田
3	「すすんでかかわり合い、みんなで高め合う」子どもの育成 「学びあいを通して、主体的に学ぶ子を目指して」など「思いや考えを自分の言葉で豊かに表現できる子」 「言葉のよさを感じながら、思いをもって学ぶ子」	学びあい&深まり	向、大師、浅田、京町、新町、川中島
4	「思いや考えを自分の言葉で豊かに表現できる子」	言葉	さくら、小田
5	「既習を生かして学習に取り組もうとする子の育成」など	算数	田島、渡田
6	「一人ひとりを知的探求者へ～対話を対話で終わらせない授業づくりを目指して～」など	教科枠なし	川崎、大島、藤崎

なお３回目以降は、２回目を行った後の各校の研究の進み具合や研究主任のニーズに応じて、開催するかどうかまたはどんなグループ分けで行うかを決めることにした。またどの回も、主任会を行 った後は必ず各学校で校長とフィードバックを行うようにした。

（２）講師の先生からの学び

校長として教員の成長をどのように後押しできるのかについて考える際に、私たち自身も様々な視点や具体例をインプットすることが必要であると考えた。そこで、校内での研究を外部に発信する役割を持っている横浜国立大学付属横浜小学校で研究をリードしてこられた経験をお持ちの前校長 小松典子先生を講師にお招きして、校内研究を充実させる手立てについて学んだ。いくつかの重要だと感じたポイントを挙げておく。

①教師の成長とは

教師の学びの姿＝子どもの学びの相似形

つまり教師の学びも・・・「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指すことが大事。

そのためには⇒　・適切な目標設定・管理職等との積極的な会話

・質の高い学習コンテンツ・学びの成果の可視化 が必要。

②日々の授業力向上につながる協働的な校内研究構築の為に

「実践すること」ではなく、「実践してみてどうだったか」を顕在化すること＝意識の見える化を図る取り組みが大切。

〇実践例の紹介

・研究授業を行う前に教師のペアを作っておき、そのペアで授業の事前・事後に話し合いを行う。話し合いの視点も、その授業についてと、日々の自分の実践につながる手立てについての２本立てで行う。

・研究授業の後の協議の持ち方⇒ 学年で→全体で→講師の指導講評→再度学年で の順で。

など、各学校での具体的な先行事例のご紹介をいただいた。

３．考察

今年度は、研究主任を支える組織づくりについての実践が中心の研究内容となった。校内での組織作りだけでなく、研究主任が他校とつながる仕組みを作ること、そして校長として研究主任に寄り添って支援する機会を作ることに取り組んだ。

研究主任会については、

・他校の実践を知ることが研究主任本人の視野を広めると同時に、自校の研究について伝えることで、改めて研究内容が自分の中で整理されていく実感が持てた。

・ベテランの研究主任が若手の研究主任の悩みを聞いて、自校でもそのようなことがあって、自分が見逃しているだけかもしれないという視点を持つことができた。

・実際は校内研究の話から広がって、若手やベテランといった世代を超えてのつながりに悩んでいる実態を話し合う場ともなり、皆悩んでいる点は共通だとわかって少し安心した。

などの成果が見られた。一方で、何を話したらよいのか戸惑った、主任会の意義があまり感じられないなど、校長側の意図が研究主任たちに届きにくかった実態も浮かび上がってきた。

校長と研究主任との情報共有の会については、

・研究主任会での話し合いの内容の共有が目的であったが、それだけでなく、校長が研究主任の考えていることや研究の進捗状況および課題などを把握することができた。

・校内研究授業での成果を各学級で日常の指導に活かしている様子を校長が見取り、職員に発信するなど、校長側からの働きかけの活性化につながった。

などの成果が見られた。一方で、学校運営における校内研究の位置づけや、教員がどんなスタンスで取り組むものなのかといった根本的な問題について、教職員全体と話し合って確認していないまま進んでいることが問題なのではないかという校長としての気づきもあった。

Ⅲ　おわりに

昨年度の研究を通して浮かんできた「一人一人の教員の授業力向上に結びつく校内研究のあり方」という課題に取り組んできたが、いざ取り組んでみるとなかなか難しい課題であるということが改めて分かった。ただ、働き方改革の波に校内研究そのものがさらわれてしまわないように、教員の「本務」は何かという事も含めて、一人一人の教員が意識を高めていけるようにリーダーシップを発揮していくことは、私たち校長に課せられた大切な役割である。今年度は研究主任を支える仕組みづくりに焦点を当てて研究してきたが、その成果については半年ではまだまだ検証が不十分であると感じた。研究主任からの今年度の取り組みに対する反応の吸い上げと検証、校長によるどんなサポートの仕方が効果的なのか、また各回の研究授業で学んだことを一人一人の教員の授業力向上につなげるための手法としてどんなことが効果的なのか、といった点には、まだまだ研究が及んでいない。今後も引き続きこれらの課題と向き合っていきたい。

チーム学校としてのマネジメント機能強化
～「業務改善」と「働き方改革」を効果的に進めるには～

幸　支　部

Ⅰ　はじめに

2018 年に「働き方改革関連法」が成立して以降、企業等では段階的に施行され、この言葉は社会に定着してきた。ちょうど、教員不足が懸念される時期と重なっていたこともあり、学校現場でも頻繁に使われるようになった。しかし、「先生の勤務時間」は理解されても、「子供のことは、何でも学校に言えばいい」という風潮は、未だに根強く残っている。実際、日本の学校（教師）は、諸外国との比較で、多くの役割を担っていることは、様々な場面で明らかにされている。実際、学習指導にとどまらず、児童の健康管理をはじめ、家庭環境への配慮などをせざるを得ないのが現状である。これらの対応は、「児童の状況を総合的に判断し、指導、対応することができる」というメリットも確かに多いが、これが慢性的な業務負担に繋がっていることは、明らかである。

学校（教師）の役割は、児童に必要な資質・能力をはぐくむことである。教師本来の業務で成果を出すためにも、地域や家庭との役割分担を再考し、「業務改善」を行う必要がある。また、既存の制度に縛られず、改善を効果的に行うためには、並行して「働き方改革」を進めることが必要である。

幸区では、様々な業務改善を行っている学校があるが、それぞれの学校の児童や職員、保護者、地域の方々の人数やニーズがまったく異なるため、同じように進めることは難しい。ただ、具体例を持ち寄って紹介し合い、自校にも適用可能かを検討することで、前進のきっかけにはなるのではないかと考え、研究に取り組んだ。

Ⅱ　研究内容

１．　研究の視点

（１）事務作業面での業務改善の成果、課題

（２）時数や時程の面での業務改善の成果、課題

（３）教育課程全体の見直しと業務改善の成果、課題

２．研究の実際（◯成果 ●課題）

（１）事務作業面での業務改善

①会議や打合せ、退勤時刻等の業務改善の事例

・Google チャット、Google サイトを活用し、参集の会議（拘束時間）を削減した。また、読んで分かるものは口頭連絡をなくした。

・ノー残業デーを設定した。

②成果と課題

◯時間や場所に縛られず、空いている時に都合のいい場所で、連絡や相手の意見を受信したり、自分の考えを発信したりすることができるので、教員個人の時間が増えた。

◯その時間までに切り上げるよう、職員は計画的に仕事に取り組むことができ、帰りやすくなった。

●皆が情報を必ず（できれば即時）確認するという前提でないと成立しない。

●個人的な事情でその日に残って仕事をしたい人がいる可能性もある。

（2）時数や時程の面での業務改善

①時間の確保

・余剰時間を多めにとることをせず、削減することで、会議時間、事務作業時間を確保する。

②成果と課題

○４月は６時間目を設定せず、会議、事務作業等教員の時間を確保した。年度初めで忙しい４月にこれを行うことで、教師にも児童にも余裕ができた。

○職員会議の日には５時間授業で中休みを短縮した結果、児童を追い立てて帰すことなく、余裕をもって会議に臨むことができた。

○午前５時間授業を導入したことで、児童の下校時刻が早くなり、教員の時間が増えた。また、１，２年生は毎日午前授業なので、教員も児童も授業に集中して取り組むことができた。さらに、３年生以上も午後が１時間で終わることで、児童にとっても、心理的な負担軽減になった。

（児童、教員に対して行ったアンケート結果でも、９割以上が午前５時間授業に対して肯定的な回答が得られている。）

●「登校時刻が早くなる」「給食を食べ始める時刻が遅くなる」「中休みが短くなる」などの状況にはなる。＜Ａ小学校の例＞

８:20 登校 中休み（20 分間 ）12:35　５時間目終了、給食配膳開始 14:35　６時間目終了

（3）教育課程全体の見直し

①教科担任制、専科制等

・学年間で交換授業を行った。

・専科制を取り入れた。専科教員が配置されない場合も、CO の後追い 27 時間非常勤を、専科にすることで、可能になった。

○学級担任の拘束時間が減ったことで、児童指導や学級事務等に当てられる時間を確保することができた。

○複数の教員が授業を通して学級全体を見る時間を確保することで、児童指導、児童理解の面では、「チーム学年」「チーム学校」の実現につながった。

●専科教員は全校に配置されるわけではないので、その教科を指導する経験ができないことが、将来的に困る。

●所見等の文章を書く機会が減ってしまう」などの心配をする教員もいる。

②授業、職員室のデジタル化

・ドリルやテストをデジタル化した。

○自動採点なので教師の負担が軽減された。誤答箇所が繰り返し出題されるので、児童にとっては弱点克服になった。

○好きな時に好きなだけ自分のペースで進めることができ、印刷やワークの購入が不要になる。

● GIGA 端末がないと、実現できない。

③ペーパーレス（デジタル）化の推進

・机上や引き出しをスマート化した。

○職員室のフリーアドレス化が可能となる。

●「紙」に執着がある職員もいるため、難しいところがある。

３．考察

学校の規模や状況、保護者、児童の様子が異なっていても、それほど影響なく、多くの学校で導入可能のものもある。事例の、すべては難しくても、一部の導入や、自校に合わせた形にアレンジしての導入など、どれも検討の余地はある。

「これは無理」と決めつけず、メリットが期待できるものなら、「まずやってみよう」が大切である。「デメリットを伴わない改革」は不可能だが、メリットがデメリットを上回るものであれば、十分に改革する価値はある。デメリットにばかり注目せず、リスクを想定しながらも、メリットに注目し、ぶれないように進めていくことが大切である。

例えば、専科制なら、「初任者に専科を付けたら、経験せずに終わってしまう」や、GIGA 端末の導入なら、「書く力がつかなくなってしまう」など、その場面だけを見て判断するのではなく、心配があるなら、「別の場面で担保する方法を考える」といった方向にシフトできるようにしていかないと、改革は進まない。

さらに、「教師は聖職」から、「教師も人間」を堂々と言える場面も増えてきている。「モンスターペアレント」と分かっていても、突きつけることができずにやり過ごしてきたが、「教師もカスタマーハラスメントの被害を訴えてもよい」と、今更ではあるが、周知され始めたことや、その周知により留守番電話の導入等がスムーズに進んだことは、教師が「聖職」から少しずつ解放され、「人間」として尊重され始めたことを示していると言える。

そして、「業務改善」は、全職員が対応しないと「改善」にはならない。「必ず全員が『読む』」「提出物は期限内に」「会議の日は揃う」など、凡事徹底が不可欠である。「忘れました」「ごめんなさい」を出さないための対策が必要となる場合がある。

「働き方改革」を業務に生かすには、「それぞれが自分の時間を管理し、責任を確実に果たすこと」が必須である。全職員がこのメリットを生かそうと、同じ方向を向くことは難しいが、「自分の行動が人の迷惑になる」という意識付けを繰り返すことで、職場の雰囲気を変えることはできると考えられる。

Ⅲ　おわりに

業務改善の一番の目的は、「児童に必要な資質・能力をはぐくむという本来の業務に立ち戻り、子供たちと向き合う時間を確保するため」である。また、教師自身が自分の裁量で業務を行うことができる時間を確保することで、物理的にも精神的にも余裕が生まれる。

10 年ほど前までは、「毎週土日のどちらかは必ず出勤」「毎日、21 時、22 時まで勤務」という教師が多かった。毎月 80 時間超の調査を行うようになった影響もあるが、近年は、教員の時間の意識も変わっているように感じる。働き方改革が浸透し、教師がしっかりと自分の役割や責任を果たしたうえで、自分の時間も大切にすることで、業務効率の向上にもつながる。

しかし、「働き方改革」は、単に「自分だけが楽をすること」ではない。誰かが権利行使をした結果、誰かの業務負担が増えるのでは、真の働き方改革とは言えない。これを利用することで、「教員自身もより良い自分を表現することができ、その結果、チームへの貢献度が高まる。」そんな制度であることを、チーム全体が理解して動くことできた時、本当の改革になるのではないかと考える。

チームで行う人材育成
～心理的安全性を高める学校運営～

中　原　支　部

Ⅰ　はじめに

教員の人材育成は、子どもたちの未来を担うために欠かせない、非常に重要な課題である。その必要性は、教職員の大量退職に伴う新規採用者数の増加、教員の仕事が大変であるという世の中の評判からくる教員採用試験受験者数の減少等の現状を踏まえて質の高い教育を実践していく上で、ますます高まっている。かわさき教育プラン基本政策Ⅴにも、教員の在職年数については１０年以下の教員が半数を占めており育成の必要があり、絶えず変化する社会と学校に求められる役割を的確に捉え、教職員の資質・能力の向上が図られるよう学校組織マネジメントを行うことが必要であることがうたわれている。教員の人材育成には、若手教員の育成負担の増大や中堅層の育成者への転換の難しさなど、課題が山積しており、それらを解決していくことが求められている。

Ⅱ　研究内容

１．研究の視点

教職員の人材育成は、「指導・指示」という内容を含み込む。人権尊重意識が大切とされている今日の人材育成においては、昔時折見られた強い指導や一方的な指導にならないようにしていく必要がある。その際「心理的安全性」を意識していくことが大切であると考える。「心理的安全性」については諸説あるが、「心理的安全性とは、組織のなかで自分の考えや気持ちを、誰に対しても安心して発言できる状態を表す度合いのことである。」（※１）という石井遼介の定義に依拠してこの言葉を使うものとする。また、石井はチームの心理的安全性を測定する研究から「日本の組織では、①話しやすさ、②助け合い、③挑戦、④新奇歓迎の４つの因子があるとき、心理的安全性が感じられる」1としている。本研究では心理的安全性を具体化する拠り所としてこの４つの因子に着目して実践を進めるものとする。

2. 研究の実際

（1）アンケートによる現状の分析

中原区内全19小学校長に、現状の学校での課題と追究していきたいことについてのアンケートを取った。そこには多様な課題が挙げられたが、その中で多かったのが人材育成の必要性である。若手教員の育成が急務であるという声と共に、中堅も育てなければならない、また、育てる側の総括教諭層が手薄であるという声もきかれ、人材の層が薄い現状が浮かび上がってきた。また、近年人権尊重意識の向上が言われている世相を反映して、それぞれの良さ、課題をざっくばらんに言い合い伝え合える雰囲気の必要性、教職員の心身の安全を守る環境の整備の必要性、ウェルビーイングの向上を意識していく必要性など、教職員の心身の安全・安心を育てていくことが大切であることが浮かび上がってきた。そこで本研究では、学校がチームとして人材育成をしていく必要があること、そのことにより心理的安全性の高い学校運営をめざしていくことが大切であると考えた。

※１　石井遼介著『心理的安全性のつくりかた～「心理的柔軟性」が困難を乗り越えるチームに変える～』日本能率協会マネジメントセンター、2020年、p49より引用

（2）中原支部の取組

中原支部19校の取組みを全て記述しそれを集め、石井の４つの因子のどれを重視したものかという

観点で分類整理した。その結果は下の通りである。

①「話しやすさ」: 心理的安全性を確保する取組（５校）

②「助け合い」: 授業を見合うことによる育成・コミュニケーションの可視化（4 校）

③「挑戦」: 教育委員会業務改善プロジェクトと共に（５校）

④「新奇歓迎」: 塾型研修の実施（５校）

（3）学校ごとの実践

①「話しやすさ」: 心理的安全性を確保する取組（職員のウェルビーイングを目指して）

【A 校・B 校の実践】まず職員全体で「心理的安全性」についての理解を深めた。「心理的安全性とは何か？」「心理的安全性が保たれている職員集団が、学級・学年・学校運営に取り組むために必要なこと」を、校長講話を通して共通理解を図った。夏休み期間を活用して、職員一人一人と校長が 1 on 1 で話す機会を設定した。校長室を開放していつでも誰でも語り合える場とした。

②「助け合い」: 授業を見合うことによる育成・コミュニケーションの可視化

【C 校 の実践】時間を特別に設定するのではなく、いつでもお互いに授業を見合える仕組み作りを心掛けた。また、校長が校内巡視で授業を観る際に「先生の〇〇という言葉かけで A さんが笑顔になっていましたね」等、教員が何気なくやっていることでもきちんと価値づけをし、それを中心に週案コメントに記述するようにしてきた。

【D 校の実践】GIGA 端末に「D 小職員室」という Google チャット･スペースを担当者が立ち上げ、職員同士が適切にコミュニケーションをとり、都度相談し、早急に問題解決を図るようにした。

③「挑戦」: 教育委員会業務改善プロジェクトと共に

【E 校 ･F 校の実践】外部コンサルタントと教育委員会事務局との伴走支援による業務改善等支援実践校として、全教職員で対話対面による業務改善プロジェクトを進め、子どもにとって最適の環境を創造していった。職員全員が「子どものためになる業務改善をし続ける組織」の一員であることを忘れずに、様々な視点からの提案・話し合いを意欲的に繰り返し、具体的な改善に結び付けていった。また、「児童主体への学びへの転換」を目指し、単元全体の学びをデザインする「学びの手引き作り」の研修を受け、時間削減だけでなく、教育の質を高める取組も積極的に取り入れていった。

④「新奇歓迎」: 塾型研修の実施

自主研修、少人数による研修、教員同士が互いに講師と受講生となっての研修等が人材育成に効果を上げている。この中で何校かが「〇〇塾」と名付けていた。必須のものより主体的、意欲的に参加できるという意味合いでこれらの実践を「塾型研修」と定義した。

【G 校の実践】「G 塾（G は学校名）」と銘打っての「ミニお楽しみ研修」を継続している。内容は様々で、各教員が伝えたいこと・得意なこと・全員で学びたいこと・レクレーション等々を持ち寄って研修を行っている。決して、堅苦しいものではなく、自由に意見や思いの言える場になっている。全員参加を強制してもいない。時間のある人が、興味のあるものに参加している。できる限り管理職も参加して、教員の声を聞くようにしている。今後も、負担にならないように続けていきたいと考えている。

【H 校の実践】「この春、先生も進化する！アップデート研修」を行った。日頃時間がなくてなかなか相談できないこと、アイデアがほしいけど後回しにしてしまったことなどをテーマとして明日から生かせそうなアイデアをもらう場とした。職員同士の良好な関係を築くための対話の場とした。事前に抱えている悩みを出し、テーマ別の小グループを作った。注意事項として、1 人 7 分間議題について全力で話し合う、話し過ぎない・聞きすぎない、失敗・間違い OK、言いたくないことは

言わなくてOK、あたたかい空気の中での研修となるような聞き方・話し方、時間になったら次の人へなどのことを共通理解した。

３．考察

まず、心理的安全性を高める学校運営とは、ということについて中原支部校長会議で語り合えたことが校長自身の心理的安全を高めることにつながった。その空気感を学校に持ち帰り職員に関わることで職員にも心理的安全な空気が少しずつ伝播していったように思える。4つの着目点について振り返ると

・職員全員が「話しやすさ」を意識することで、会議の際、提案者が相手に理解してもらおうと工夫して提案するようになり、相手に共感してもらいやすくなった。学年や分掌担当同士、年間反省を待たずに「子どもや教職員のためになることはやってみよう」と主体的なミニ会議や作業計画を進めている様子が見られるようになり、「教職員同士で認め合う風土の醸成」につながった。

・「助け合い」に必要な共通の情報が可視化されることで、早急に支援や協力が必要な職員がいることに気づき、職員同士で助け合える環境を構築することができた。また、授業をお互いに見合う中でお互い知恵を与えあったり課題を話し合ったりして日頃の実践を題材にしての助け合いをすることができた。また、校長からの週案コメントの小さな記述の積み上げにより、職員の笑顔が時々みられ、教員の心理的安全性と自己肯定感の向上に繋がった。

・「挑戦」する姿勢を大切にし、対話対面による業務改善プロジェクトを進め、外部コンサルタントと共に共通の視点で話し合えたことで学校を改善することと改善に関わる人材を育成する成果につながった。

・「新奇歓迎」では、お互いに塾型研修で講師をしあったりすることで若手が育つことは勿論だが、経験者にもよい刺激になった。

などの成果が見られた。また、これらを実践していく中で、雰囲気が柔らかくなるように、相手の話を否定しない・遮らない雰囲気づくりを職員全員で意識することや、会議等での発言の機会を平等に与えること、気付きをシェアし認め合うこと、自分事として参画し合う意識を育てること等が大切であることが再確認できた。そして、なによりも各自の実践を忌憚なく共有できたことが中原支部としての共同的意識に繋がり意義があることと考える。 課題としては、まだ実践の成功例が少ないことが挙げられる。また、これらの実践をできる人とできない人がいることも現状である。これらの成功例を共有して学校間で共有し、よりよい実践をお互いに考え、アップデートしていく事に価値がある。また各学校での心理的安全性を高める人材育成の実践を学校運営協議会やPTAに発信することで、理解・協力を仰ぎ、この風潮を地域にも広めていくことが大切である。また、これらの実践を行うには時間的・心理的余裕が必要なため、全体の業務改善を一層進めてそれを生み出していくことが必要である。

Ⅲ　おわりに

教員の人材育成への課題が山積している現状を検討･整理する中で､心理的安全性を確保する取組（職員のウェルビーイングを目指して）の重要性が明らかとなった。そのことを重視しながら、日頃の授業の見合いや塾型研修を入れていくことが効果的である。また、現在進められている教育委員会の業務改善プロジェクトと人材育成の内容が交差していくので今後とも情報収集・共有をしていきたい。教職員一人一人が今後とも健やかで幸せであることを願って本稿の結びとする。

社会の変化に対応できる学校づくり
～これからの学校経営を支える人材の育成を通してⅡ～

高　津　支　部

Ⅰ　はじめに

私たち高津支部校長会では、校長の経営方針を理解し運営を支えている人材に着目し、その育成のあり方について令和６年度から研究を継続している。近年、学校を取り巻く様々な問題が要因となり、教員のなり手不足、受験者数の減少、若手教員の増加に伴う産休・育休取得者の代替教員の未充足等、教員不足が深刻化している。そのため、各学校ではミドルリーダーと言われる中堅教員の果たすべき役割や負担が大きくなっていると考えられる。また、将来の予測が困難であるとともに教育課題が多様化する昨今においては、今までの経験や持っている知識だけでは対応できないことが多くなった。それゆえ、教職員が主体性を発揮し協働的に物事を解決していけるような資質・能力を育成していくことは喫緊の課題となっている。

こういった状況を乗り切るため､令和６年度から各校のミドルリーダーを集め､｢キャリアアップ研修｣として実施してきた。

Ⅱ　研究内容

１．研究の視点

昨年度、２回の研修を実施した。総括教諭に限らない「ミドルリーダー」をどのように育てていくかの第一歩として、実際に人を動かした研修を実施した。対象は、各校長が推薦した人を集め研修の場をもつこととした。「これからの学校経営を支えるミドルリーダー研修」と題し、各校から２名程度の総括教諭及び、これから総括教諭となり得る校内のリーダーとなる人、学校全体を俯瞰的に見ることができる人、今後学校経営の主軸となって欲しい人等を校長推薦で集めた。

＜具体的なねらい＞

①近隣校のミドルリーダーと交流をもち、他校の方法を知ることや、それぞれの悩み等を共有して、自校の教育活動に活かすこと。

②各校のミドルリーダーとの連絡体制をつくり、継続的に相談・情報交換ができる体制をつくること。

このような研究を行うことで、様々な教育活動が「学校教育目標」と関連づいていることを理解し、更に目標に向かって一緒に進もうとしてくれる教職員の育成をめざすことをねらって、研究をスタートした。

２．研究の実際

（１）令和６年度の研究

（１）令和６年度の研究

①第１回キャリアアップ研修 令和６年５月 31 日（金）

課　題：架空の学校目標「心豊かに たくましく生きる子の育成」の実現に向けて、どんな「仕組み」をつくっていくか。「２・６・２の法則」をふまえ、何とかしたい８割の人々を意識して

②第２回キャリアアップ研修 令和６年８月 28 日（水）

課　題：「日本初・日本社会に根差したウェルビーイングの向上」次年度の学校運営に向けて、何を改善修正したらよいだろう。あなたはどう動きだしますか？

令和６年度の研究から、「キャリアアップ研修会」に参加した先生方は、それぞれの学校で活動や分

掌の中心になって提案している立場にあり、経験やアイデアは豊富に持っているが、自分から発信することが多く、その考えを受け止めて共感してくれる人材が自校には存在しない場面が多く、今回のような研修で出会った各校の同じような立場の先生方とのつながりを大事にしたいという声が多く聞かれた。

そこで、令和７年度は、更に一歩進めて「人と人がつながること」を目的として「研修の焦点化」を図るため、各校の同じ立場の教職員が集まり研修を行うこととした。

（２）令和７年度の研究

①第３回キャリアアップ研修 令和７年６月５日（木）会場：高津小学校特別活動室

対象者　研究主任・研究推進に携わる者

内　容　「校内研究を通して、学校教育目標を実現するためには・・・？」

②第４回キャリアアップ研修 令和７年７月 10 日（木）会場：高津小学校特別活動室

対象者　児童会活動担当者

内　容　「児童の自主的活動を通して、学校教育目標を実現するためには・・・？」

第３回 第４回の研修会から、今後どんなことができると思うか・・・

・校内研究全体会で何をやっているか、協議会をどう進めているかなどの情報共有
・他校の研究授業、協議会に参加してみたいと思いました。
・例えば、各校の実践を語り合う、研究の構想図などを共有する、など他校の取り組みを知る機会を作る。
・どのような規模の学校にどのような委員会があるのか、検証してみると面白いのではないか。
・他区の先生方の取り組みも知りたいと思った。また、土地柄、地域柄の取り組みなども知りたいです。
・Meet で会議ができたら、他区の先生方とも交流ができるかもしれないです。
・子どもたちが明日も行きたいと思えるよう、学校全体を巻き込んだ活動を子どもたちから

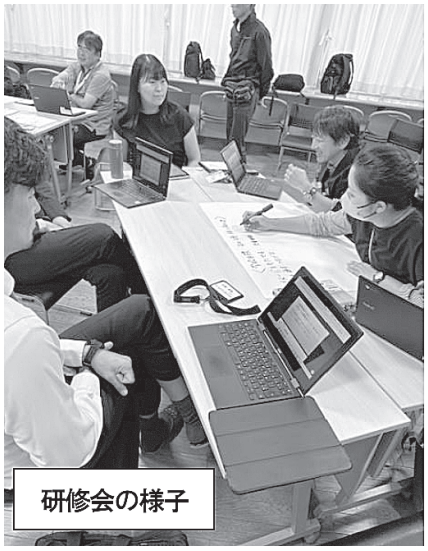
③第５回キャリアアップ研修 令和７年 10 月 16 日（木）会場：高津小学校特別活動室

対象者　教務主任・研修担当者

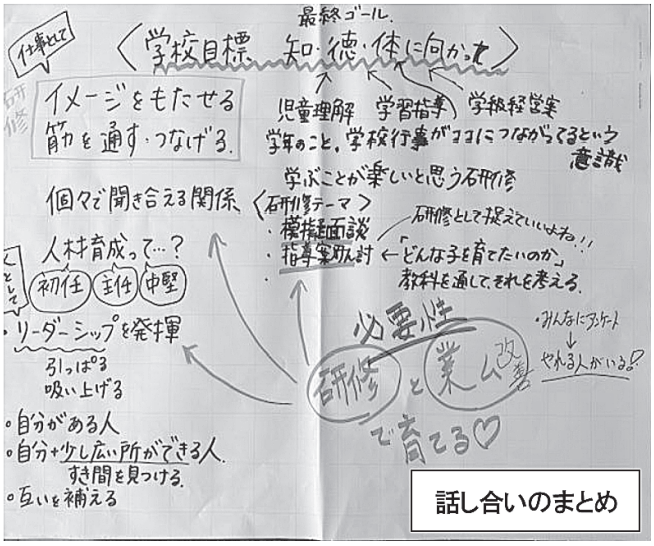
内　容　「人材育成のために、どのような研修を行っていますか・・・？」

第５回③の校内研修についての話し合いで、出てきたキーワード

・「OJM（オンザジョブミーティング）」「余白を生み出す」「すきまをみつけて すきまをうめる」「やってみるといいよ やっていいんだ」「世間の見方と教師の見方」「イメージをもたせる」「筋を通す」「つなげる」
・それぞれの学校で実践している方法・内容が勉強になり楽しかったという感想や、研修は「大変」ではなく「楽しい」ものとして行うべきという意見が出されました。



研修会の様子



話し合いのまとめ

これからの学校経営を支えるミドルリーダー研修（校内研究）
梶ケ谷小学校　峰　大基

【研修から学んだこと】

・学校教育目標と研究主題とのリンク
⇒学校教育目標の実現に向けて必要な資質・能力と主題とのリンクを明確にすることで、何のために　研究をすすめているのかといった軸がぶれないよ　うにする。
・学校全体での学び合う雰囲気づくり
⇒教師自身も学ぶ姿勢を大切にする。研究協議では、実際の子どもの姿を共有することで手立ての　効果や学びを共通理解できるようにしていく。
・方向性の共有化「みんなで意識していく」
⇒一人ひとりの熱量が違う、方向性をそろえて取り　組んでいくことの難しさなど、それぞれの学校の　での悩みを共有することができた。具体的な他校　での実践を知ることができた。

【研修を受けて実践していること】

・「やさしい話し方・あたたかな聴き方」
⇒4月より各学年の実態に応じて「話す・聴く」こと　の目標を設定し、取り組んできた。この研修を受けて　さらなる意識化を図るために、研究部会を中心として　ふりかえりを行った。今後は、そのふりかえりをもと　に、手立てなどを考え直していきたい。
・学びにつながる校内研究の在り方
⇒研修の中で、指導案検討の方法、協議会の持ち方など様々な方法を知ることができた。まずは、協議会の中　でGIGA端末を用いることで、それぞれの考えを視覚的　に共有できるようにした。共有したこともとに協議　会を行うことで、より活発な協議となった。少しずつ　研修の中で学んだことをもとに、本校の実態に合わせ　てよりよい研究の進め方について模索していきたい。

～研修に参加された先生方のアンケートから～
・校内研究を同じように進めている方たちにお話を聞けて、同じような悩みやジレンマを感じているなと思いました。普段、校内研究のことを話せる方が限られていたので、とても新鮮で刺激をいただけました。
・勤務校だと自分の思いを共有できる立場の教員が限られているので、同じような思いを共有でき、刺激ももらえたことが良かった。

３．考察

令和６年・令和７年度と「キャリアアップ研修」を開催してきて感じたことは、同じような課題意識をもった者同士の交流は自己啓発にとても有効だということ。自校では、通常発信する側の立場であり、中々声や思いが伝わらないジレンマを抱えている先生方にとって、それぞれの学校で同じ立場の先生方に共感してもらえたり、より良いアイデアや気付きをもらえたりすること、更には「これで良いのだろうか？」といつも自分に問いかけながら進めている気持ちを、分かり合える同士がいるということが勇気とエネルギーになることが確かめられた。

また、「学校教育目標」と関連付けながら、様々な立場の教職員を集めて研修を行ったことで「学校教育目標」は各校でそれぞれに違った言葉を使って表現しているが、「思い」「願い」「目的」などは共通する部分があることが分かってきた。

Ⅲ　おわりに

「学校教育目標」と関連付けながら、様々な立場の教職員を集めて研修を行うことができるのは、校長会しかできないことである。区という近い範囲で同じ立場の教員同士が悩みや課題を共有することは「支部校長会」ならではである。支部校長会が主催する研修の良さは、参加者の顔や声を近くで感じられること。参加者の悩みを自校の悩みとして受け止めやすいこと。そして、同じ区内の校長と顔見知りになる機会をもてることは参加者にとても有益だと考える。

校長として私たちがするべきことは、今回の研修に参加した教職員が自校に戻った時に、「目標に向かって一緒に進もうとしてくれる教職員」となってくれるように寄り添い向き合っていかなければならない。具体的には、教職員が学校教育目標と関連付けた教育活動をより活性化させたい、みんなにもっと積極的に参加してほしいと願う時に、応援し、教頭や教務主任と共に後押ししていく体制をつくっていく必要がある。

学校経営における校長のマネジメント
～誰一人取り残されない学びの保障に向けた環境マネジメント③～

宮　前　支　部

Ⅰ　はじめに

支部では、研究テーマ「学校経営における校長のマネジメント」について継続的に取り組んでいる。学校経営における校長のマネジメント能力の向上は、喫緊かつ必須の研究課題である。令和５年度からは「誰一人取り残されない学びの保障に向けた環境マネジメント」というサブテーマのもと、研究を進めてきた。昨年度は、不登校児童生徒の保護者への支援、早期発見・早期支援のための福祉局と教育委員会との連携強化に焦点を当てた取り組みを行った。

さらに、令和６年３月に本市から「不登校対策の充実に向けた指針」が示されたことを受け、校長としてのマネジメント機能を生かし、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた具体的な実践と、その過程で明らかになった課題や展望を共有し、今後も継続して研究を深めていくこととした。

Ⅱ　研究内容

１．研究の視点

昨年度の研究を通して、福祉局や教育委員会との連携、不登校児童の保護者への支援に関する講演実施後、近隣校との情報共有・課題協議を行う中で「顔の見える関係づくり」の重要性を再認識した。さらに、今年度は、以下の２つの視点から研究を進めていきたい。

（１）不登校児童が「学びたい」と思ったときに学べる環境整備の各校の取り組み状況の共有と課題
（２）不登校未然防止と組織マネジメントの各校の取り組み内容の情報共有と課題

２．研究の実際

（１）不登校児童が「学びたい」と思ったときに学べる環境の整備

①「川崎市と鎌倉市の不登校児童生徒対策について」の支部研修会を実施した。環境の整備が重要であることを共有した。

（ア）講演内容　別室登校の環境づくりの工夫・学びの多様化学校の展望

川崎市
・ゆうゆうみゆきを含めたゆうゆうの改変
・GIGA 端末「すらら」アプリの活用について

鎌倉市
・小学校校内の別室指導　市販の家具Ｉ社でソファなどを入れ教室とは違う雰囲気づくりを実施
　※別室指導員の配置は、市費で会計年度職員を３年計画で全校配置
・不登校の探究活動ウルトラプログラムは小４～中３対象　外部委託事業として実施
・学びの多様化学校　Ｒ７年４月に「鎌倉市立由比ヶ浜中学校」（分校）の開校について
・「学校が子どもに合わせる」特別な教育課程　各学年　生徒 10 名に教職員３名配置
・決まり事は、子どもたちと話し合いつくりあげる学校　例えば掃除も、気になった３年生が始める等、自分たちがつくりあげる学びの場
・地域のサポーターと行う探究学習等をウルトラプログラムのつながりを生かして実施

（イ）研修の感想
・気持ちが揺れ動く段階から GIGA 端末の学習支援を導入することの有効性を実感した。
・２市の実践から、これまでの取組の方向性が妥当であると確認できた。
・高学年児童でも通いやすいゆうゆう制度の充実に期待が持てる。

両市の取組を聞き、別室指導の工夫や学びの多様化の施策を学んだ。鎌倉市では会計年度職員の市費配置により全校で別室指導の体制を整備したり、「学びの多様化学校」（中学校分校）が新設され、「学

校が子どもに合わせる」教育課程編成が実践されていることがわかった。

②支部アンケートや各校の取組の情報共有

（ア）支部研究アンケートの内容

・不登校児童が学びたい思ったときに学べる環境の整備
　別室指導室の取組の紹介
　　ア、別室指導について

・不登校の未然防止と組織マネジメントについて
　多様な子どもに対する各校の取組
　ア、宿題について（平日、週末、夏休み等）　イ、校内研究について　ウ、校内研修について

・業務改善の取組の情報共有
　ア、交換授業、教科担任制について　イ、外部コンサルタントによる取組の紹介について
　ウ、日課表の改変のその後の取組について　エ、DX 化について　オ、業務の見直しについて

（イ）アンケートのまとめ

【別室の役割】不登校の未然防止

・「別室なら登校できる」児童の学びの場　心の充電ができる居場所　集団が苦手　担任との関係が難しい児童の学習や活動の場　最善の教育環境を考える選択肢の一つ　教室へのつなぎ

【運営体制】

・支援教育コーディネーターが中心、会計年度職員や級外職員の活用で人員確保
・専科担任の裏の学級担任も関わる体制を工夫し、安心できる関係性づくり

○Ａ校　子どもに合わせた学校の体制の工夫事例

　Ａ校では、環境が変わることに適応できない高学年の男子児童が、不登校傾向だった。学力点でも支援級が適していたが、環境の変化を恐れ、転籍がなかなか決断できなかった。そこで、支援級児童増加に伴い、別室を支援級に変えて、別室指導の先生を非常勤から臨任の先生に切り替え、支援級担任になってもらうことにした。それにより、児童は全く環境を変えずに支援級に入ることができ、毎日登校することができるようになった。

【別室指導の仕方・工夫】

・別室指導と居場所を同じ部屋で運営
・朝のダンス・ジョギングで体を動かす活動を取り入れる
・放課後・給食・一部教科など本人が来られるタイミングで利用
・教室がつらいとき、担任や支援教育コーディネーターと相談して利用

○Ｂ校　15 年以上の別室指導の実績の事例

　Ｂ校では、別室指導が不登校児童の居場所としても機能しており、卒業生の中高での学生生活の様子や就職等の近況が伝えられ、設置することの効果が表れている。

○Ｃ校　今年度「校内ゆうゆう」のような別室「ホットルーム」を立ち上げた事例

《環境づくり》

　空き教室１～２部屋の活用　右の写真のように安心できる居場所としての環境づくりを工夫した。テーブル･ベンチ（あるものを活用）マット･テントの設置（購入）将棋､ST のできるゲーム、SDG ｓぬいぐるみやおもちゃ、KAPLA（木製の 1000 ピースの板)、パンチング恐竜、ボールダーツ等の準備

《ホットルームでの過ごし方》

・登校したら、その日の予定を自分で決める。支援教育コーディネーターや会計年度職員が相談にのる。例、工作等の時間、テントでの一人時間、クールダウンの時間、遊びの時間、図書室利用の時間、教室での学習の時間、GIGA 端末で「すらら」の学習の時間、オンライン授業の時間等

〈成果と課題〉

・夏休み明け、欠席が続いている児童に「ホットルーム」を紹介し、登校できるようになった児

童５名、教室から出てしまう児童１名に変化が見られ、登校できるようになっている。
・別室指導での学ぶ姿が他の不登校傾向児への学習刺激になる（学ぶ姿を見る）効果がある。
・給食は教室で食べるように担任とクラスの児童と協力している。
・級外や学年の担任との関わりで安心感が生まれ、登校ハードルが下がる効果がある。学校内の心の落ち着ける居場所となり家庭での引きこもりを未然に防いでいることで、保護者も喜んでいる。
△別室でも母子分離ができないケースや多動・暴力的な行動が衝動的に出ている児童のケース等は、対応が難しい。他機関との連携が必要
△人員不足で別室対応教員の確保が難しい。人員の配置が必要
△区内でも学校に空き教室がない場合は、環境づくりが物理的に難しい。

（２）不登校の未然防止と組織マネジメント

①多様な子どもに対する各校の取組

（ア）宿題のあり方検討

家庭学習を基本に毎日取り組むことで学習習慣が定着し、短時間のプリントや音読で基礎基本を強化している。しかし、担任・学年による宿題の有無や内容の差、夏休み課題の廃止や家庭負担などにばらつきがあり、改善が必要である。GIGA 端末を活用した調べ学習で学びの幅を広げる取組もあるが、学年間の活用差が課題となっている。

（イ）校内研究

国語と生活・総合的な学習に取り組んでいる学校が多い
・国語では、講師の継続的な関わりで、あたたかい聞き方・話し方を協働研究し、児童が自ら考え伝え合う姿が見られ、クラスの雰囲気もよくなっているという。
・生活・総合的な学習では、複数教科を横断した学びや対話の研究が、人間関係づくりや学校の風土形成に貢献している。一方、教師間の実践差や学びの他教科への活用不足などが課題である。

② 業務改善の取組の情報共有

（ア）交換授業・専科指導

低学年は図工・音楽の交換授業、中学年は図工・書写、高学年は社会・理科、算数・国語の交換授業も実施。また、専科教員による指導を活用することで担任の負担軽減につながっている。高学年だけでなく全学年に交換授業が推進され、授業改善や学習意欲向上に寄与している。

課題として、モジュールの時間の取り方によっては、交換授業や専科指導が実施しにくい場合がある。

３．考察

「誰一人取り残さない学びの保障」は理念にとどまらず、各校が具体的な仕組みとして運用していることが確認できた。「学校が子どもに合わせる」柔軟な教育環境を整えることが、児童の安心・意欲につながっている。別室指導は、不登校対策において有効な支援手段であり、人的配置や時間確保が体制づくりの鍵となる。

また、外部コンサルタントの伴走支援を活用した業務改善、GIGA 端末を活かした DX 化、午前５時間授業による勤務改善など、校長のマネジメントによる働き方改革について、今後も、支部内で情報共有を継続し、各校の創意的実践を蓄積していくことが重要である。令和８年度も引き続き、業務改善と不登校未然防止の両面から研究を進めていく。

Ⅲ　おわりに

今後も、実践と振り返りを重ねながら、組織としての対応力の向上を図っていくようにする。

本市教育委員会による「多様な学びの場の構想」や、県内の鎌倉市教育委員会の先進事例から多くの示唆を得たことから、校長としてこれらを参考に、自校の環境整備に生かしていきたい。引き続き、支部研究を通して、校長としてのマネジメント力の向上をめざし、誰一人取り残さない学校づくりを推進していきたい。

魅力あるこれからの学校づくり
～持続可能な学校運営に向けての考察～

多　摩　支　部

Ⅰ　はじめに

「夢のある学校とはどのような学校なのか」という言葉から、昨年度より新たな研究をスタートした。現在の教員不足､欠員による業務の負担などの厳しい労働環境が続き､働き方も多様化している中で「こんな学校であれば楽しく働くことができる」「夢のような学校」など、現実的には難しいと思われることも否定せずに考えを出し合った。その中で誰もが安心して笑顔で過ごすことができる学校であることが、夢の学校に近づくことではないか、多様な子どもたち一人一人が大切にされ、教職員が安心して働くことができる学校にするためには、どのような学校運営を進めていけばよいかを話し合い、魅力ある学校に近づくためにできることを検討した上で、実践を進めてきた。教職員の生産的で精神的なゆとりある状態を保つための余白時間づくり、児童の多様性を考慮した学校運営や支援の充実をめざし、今年度は各学校において、学校運営の改善、業務の効率化につながる取組や児童支援、保護者対応の充実などを実践し、今できることを少しずつ進めて行くことで、夢のある学校に一歩一歩近づいていくことができると考えている。

Ⅱ　研究の内容

１．研究の視点

（１）弾力的で持続可能な学年体制づくり（チーム担任制）
（２）半期で学級替え
（３）教科担任制・交換授業の推進
（４）時差勤務の活用
（５）多様な働き方を生かす取り組み（部分休業、育児短時間、非常勤講師の配置）

２．研究の実際

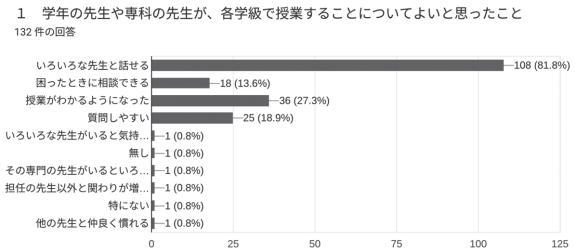
（１）弾力的で持続可能な学年体制づくり（チーム担任制）

学校運営の軸となる学級担任。各担任が担当する学級には責任をもち、教科指導、評価、児童指導など、常に様々な業務に追われて業務過多になり、時間と心に余裕がない状態が続いてしまう。若手教員が増えていることもあり、学級がうまくいかないケースや保護者対応に苦慮するケースも増えてきている。そこで学年を一つのチームとして運営していくチーム担任制を高学年で試行導入した。

児童にとってのチーム担任制の良さを３つにまとめると、１つ目は多様な大人との関わりによる児童の成長が挙げられる。担任以外の複数の先生と関わる機会が増えるため、子どもたちは自分に合った相談相手を見つけやすくなる。また、様々な先生の指導や価値観に触れることで、自身の世界を広げ、将来のロールモデルを見つけるきっかけにもなり得る。次に専門性を生かした質の高い学習機会の提供である。複数の教員がそれぞれの得意分野を生かして授業を行うことで、子どもたちは様々な視点から学びを深めることができる。一人の担任だけでは提供できない多様な学びの機会が得られることは、子どもたちの成長にとって大きなプラスとなる。３つ目は中学校へのスムーズな移行である。中学校では教科担任制が一般的であるため、小学校のうちから複数の先生と関わる経験をすることで、中学校生活への不安を軽減する効果が期待できる。様々な先生からサポートを受けられる環境に慣れることは、小学校から中学校へのギャップを埋める助けとなる。

学年の体制としては、各学年の児童を学年全体で指導していくイメージで、学級数３に対して３名の教員と６年に外国語専科、５年に教科担任体育教員を配置し各学年４名でのチーム編成とした。前期は朝の会や帰りの会、給食、清掃指導は担任が行っていたが、後期からはローテーションで行っている。専科の教科と交換授業を含めて配置について考え、一人当たりの持ちコマ数、担当教科数の削減を実行した。専科教科も含めて20時間程度となる。４月からスタートして４か月後に児童、保護者、教職員にアンケートを実施した。

アンケート結果を見ると、児童、保護者ともに90ポイント以上がチーム担任制について肯定的な意見となっている。児童の意見では、「いろいろな先生と関われるし　先生の得意・不得意があるかもしれないから凄くいいと思う」「それぞれの授業を違う先生と共に受けることで、とても楽しいし新鮮な感じがする。」などがある。保護者からは、「学年の先生、専科の先生、全員を子供が信頼しているので、多くの先生と関わりながら学ぶことができることをありがたく思います」「担任以外にも、複数の先生の視点から子どもを見ていただくことで、多方面からのサポートが期待できる」「先生が固定だと、相談しにくいこともあるから」など肯定的な意見が多い一方で否定的な意見もある。教員からは、概ね肯定的な結果となった。担当時間の調整や休暇を取得した際の各教科の時間数調整には課題がある。今後は、チーム担任制を継続しつつ、アンケートの結果から改善点を見出し、さらに魅力ある学校に近づけていきたい。



（２）半期で学級替え

学級運営の困難さや教員の離職・病休が増加する現状に対応するため、「半期学級替え」を提案した。これはクラス担任の任期を半年間とし、後期に学級編制を新たに行うことで、教員・児童・保護者間の相性問題を解消し、心機一転できる持続可能な学年体制の構築を目指している。具体的には、担任と相性の悪い児童や保護者を離したり、いじめなどによる児童の登校困難を改善したりする効果が期待される。一方で、担任間の密なコミュニケーションや学習進度の調整、時間割や学級編制替えの事務負担増加が課題となる。また、大規模校では、年度の途中で学級の再編制がより複雑化し、可能であるのか疑問である。いくつかの不安要素もあるが、一年間同じ学級で運営を行うことの難しさがどこの学校でも見られるようになってきている現状では、非常に効果的な特効薬となりうる方策だと考える。実施までの計画については、前年度10月に校長より提案し、職員会議にて議論。想定されたメリット・デメリットが出されたが、小規模校ということもあり、事務的な負担感がそれほどなく、特段の反対は出なかった。後日、初の取組ということもあり、限られた情報をもとに行う学級編制に難しさを感じる新１年に絞って試行することとした。その後、新入学説明会で、「弾力的な学級編制」に取り組むことを説明し、年度末の学校報告会で新１年生の「弾力的な学級編制」についての予告をした。今年度の１年生は就学時健康診断の様子で、いくつかの課題が見られたため、入学前の学級編制も例年以上に難しかった。実際に前期末に近づくに連れ、学級の落ち着き度に差が見られ始めた。

半期で学級編制を行うことについては、教員から好評である。児童や保護者も特段、不安定になるところは見られない。今後の展望として、１年は「半期学級替え」を継続、他の学年には、「半期学級替え」の可能性があることを保護者に示唆する予定している。

（３）教科担任制・交換授業の推進

教科担任制、交換授業を実施することで担当教科が減り、教材研究をする時間が増加するため、授業の質的向上につながっている。各教科を学年で一人の教員が担当するため評価を統一して行うことができることもメリットとなる。また、専科教員等による学年運営や担任へのサポート、各教科における児童の様子を随時担任と共有することにより、学年での業務軽減や適切な児童支援、児童指導につながっている。

教科担任制担当教員は複数学年を担当しているので、各学年の実態や様子を把握できるため、複数の学年に渡る広い視野での指導ができている。

担任が担当する授業がないときは、少人数指導や別室登校への指導をすることができ、学習指導の充実や児童理解にもつながっている。

出張時や休暇取得時にも有効であり、時間割調整をして学級を開けることなく対応することができている。

（４）時差勤務の活用

今年度より試行し夏季休業期間中は、多くの教職員が取得した。15分単位での取得が可能で個人のライフスタイルや働き方に合わせて、今後も業務改善により取得率も増加すると思われる。そのためには、課業中の時間割や会議時間の取り方などの工夫が必要である。午後の授業時間をできるだけ繰り上げ、打ち合わせや会議などの時間は16時までに設定することで、以後どの日でも時差を利用すること

ができるようにした事例もある。

時差勤務を運用して２年目の学校の取得率を見ると、試行直後は多かったが、２年目になると取得するものが少なくなっている。学年担任は取得するものが少ない一方、担任外は多く取得する傾向があるのが課題である。不公平感が生まれないようにしていきたい。長期休業中の取得は昨年よりも増加している。時差を取得したときに何時間年休をとると何時に退勤できるか提示したことによって理解が深まった。子育て世代にとってはかなり有効な勤務形態である。

（５）多様な働き方を生かす取り組み（部分休業、育児短時間、非常勤講師の配置）

育児部分休業や育児短時間勤務、また非常勤講師の活用など多様な働き方を認めつつ効率的に学校運営を進めていく。配置された場合は、担任としては時間的に難しい場合が多いため、育児部分休業は複数教科の専科を担当し、育児短時間勤務は国際教室、初任研担当、学年付きの専科、非常勤講師は各学年の専科など担任外の専門職として配置していくことで、専門性の向上や業務改善につながる。また、別室登校児童への対応についても非常勤講師の役割は大きい。教室に足が向かない児童にも安心して学べる場所があることが大切だと考える。

３．考察

チーム担任制のスタート時は、教職員に戸惑いもあったが、スタートすると教職員からも高評価が得られた。今後はアンケートを定期的に行い更に改善を重ねていくことになる。学校の体制を変えていくには、事前の準備と計画が必要である。チーム学校としての風通しの良さと協力体制が不可欠である。

半期で学級替えについては、初の試みになるが、実践をして行くことで、学級編制に関しての今後の指針となるであろう。大規模校では編成に多くの時間がかかるため、実現は難しいと考えているが、小規模校では可能であると考えている。

交換授業、教科担任制については、実践した結果は良い評価が多いため、今後増加していくことであろう。交換授業を実施している学校は多いが、教科担任制担当教員が配置されることにより様々な効果を実感している。教員の働き方改革も含めて各学校で取り組むことで、より魅力ある学校に近づいていくことができると考えられる。

時差勤務は今年からスタートした学校が多く、長期休業中に取得している教員は多いが、課業日には格段に低くなる。今後は教科担任制などと組み合わせて課業日にも取得できるように校内での工夫を考えていきたい。

多様な働き方については今後希望する教員が増加してくると思われる。どのような配置にするかは、学校規模、勤務時間により様々なケースが考えられるため、各学校の実践を共有し柔軟に考えて行くことが必要である。別室登校の児童も増加している傾向にあり、担任以外の教員の配置が必要になっている。教員不足は正規教員だけではなく、非正規の教員も足りない状況が続いているため、川崎市全体での人材確保に向けての取り組みが必要である。

Ⅲ　おわりに

夢のような学校運営をイメージしながら、欠員の増加や、働き方の変容など、人的な課題が多くある中、どのようなことが実現できるか考え取り組んできた。現在の状況を受け止め人材をどのように配置し運営していくか実践を通して研究することで、来年度に向けての方向性が見えてきている。

チーム担任制、半期学級替え、教科担任制についてはきめ細かな指導と教員間の協働を促進し、子どもたちに多角的な学びの機会を提供した。安定した学級経営と教員が専門性を発揮しやすい体制は、授業の質の向上に直結する手応えを感じている。時差勤務や多様な働き方については、教職員の心身の負担軽減に寄与するだけでなく、時間に制約のある教員が持てる力を最大限に発揮できる可能性を示した。これは学校運営におけるサステナビリティを高める上で極めて重要だと考えている。

これらの複合的な試行を通して、教員の質的向上、教員の働き方改革にもつながっている。今後はこの成果を「試行」で終わらせることなく次年度以降の学校運営へとつなげ、柔軟で活力ある教育環境の実現に向けて研究を進めていく。

今後も魅力ある学校を目指し、児童が楽しく学び、教職員が安心して働き続けることができる学校運営について考えていきたい。

第４期教育振興基本計画から考えるこれからの学校づくり
～管理職・職員で共に考えるこれからの学校づくり～

麻　生　支　部

Ⅰ　はじめに

麻生区では昨年度「学校運営とウェルビーイング」と題して、第４期教育振興基本計画の二つのコンセプトの一つである「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」についてその理解を深め、共通認識を図ってきた。しかしながら、具体的に学校運営の中でどのように生かしていくのか、どのように進めていくのが課題として残った。

そのため、「ウェルビーイングの向上」の上層である「第４期教育振興計画」の概要を理解し、「持続可能な社会の創り手」「ウェルビーイングの向上」をいかに学校運営に取り入れていくかを考えることにした。

また、昨年度、麻生支部教頭会でも「ウェルビーイング」をテーマにした研究を行っていたのにもかかわらず、意見交換などの交流はほぼなかった。今後の学校教育に向けて校長・教頭の意見交換は必要なことであり、さらに管理職以外の教職員と意見交換が必要であると考え、テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１．研究の視点

「第４期教育振興基本計画」の概要を知り、その理解を深め、今後の学校運営に必要なものは何かを考えるという視点で研究を進めていく。また、校長・教頭・その他の教職員で同じ研修を行い、それぞれの考えを集約する。研究の視点に沿って考察し、今後の学校経営に役立てていきたい。

２．研究の実際

（１）校長・教頭・その他の教職員の研修

①違った立場での研修会

７月末に「支部教頭会研修」９月上旬に各学校の「麻生区リーダーシップ研修」（麻生支部校長会主催のリーダー育成研修）９月「支部校長会」で次項の内容で同じ内容の研修を行った。支部校長会での研修後に教頭会、リーダーシップ研修での研修結果をもとに、立場の違いによりどのような共通点や差異が見られたかについて意見交換を行った。

②研修内容

◯「第４期教育振興基本計画」の概要を知る

（コンセプト）
「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」
「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」

（基本方針）
・グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
・誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
・地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
・教育ＤＸの推進
・計画の実効性確保のための基盤整備・対話

前記の内容について、そのポイントや背景、求められる教育活動について参加者で理解を深めた。

◯グループワーク❶

「第４期教育振興基本計画」の「基本方針」の下位に 16 の「教育政策の目標」があることを説明し、

その目標が「コンセプト」とどのようにつながっているのかを小グループで意見交換をしながら確認を行った。

◯グループワーク❷

自分の立場から、「教育政策の目標」のうち、自分の学校で取り組まなければいけないと考えるものを三つ選び、小グループで意見交換を行った。その後、全体でも共有した。

（2）研修の結果（グループワーク❷の結果）

（自分の学校で取り組まなければいけないと考えるものを三つ選んだ結果）

教育政策の目標	リーダーシップ研	教頭研修	校長研修
1．確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成	５６％	７３％	７８％
2．豊かな心の育成	６０％	７３％	７８％
3．健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成	４％	９％	１４％
4．グローバル社会における人材育成	４％		
5．イノベーションを担う人材育成		９％	７％
6．主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成	４８％	９％	４３％
7．多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂	２４％	５５％	５０％
8．生涯学び、活躍できる環境整備			７％
9．学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上	２８％	２７％	
10. 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進	４％		７％
11. 教育 DX の推進・デジタル人材の育成	２０％		１４％
12. 指導体制・ICT 環境の整備、教育研究基盤の強化	２０％		
13. 経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保	８％		
14. NPO・企業・地域団体等との連携・協働			
15. 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保	２４％		７％
16. 各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ	４％		

①支部教頭研修（16 校中 11 校参加）

話合いから「１、２、７」の項目に重要性があるとした。

②リーダーシップ研修（16 校 25 名参加）

各グループで話し合った結果、「１、２、６」の項目に重要性があるとした。

支部教頭会研修の様子

③支部校長研修（16 校中 14 校参加）

全体で話した結果、「１、２、７」の項目に重要性がある。学校ごとの実態があるので、各学校で校長・教頭・リーダー教員が話し合う場を設けることとした。

また、各学校で話し合った結果を持ち寄り、意見交換を行いながら考察を行っていこうということとなった。

リーダーシップ研修の様子

（3）各学校での取組

①Ａ校

校長が教育政策の目標の「１・２・６」を教頭が「１・２・７」教務主任が「１・２・９」を選ん

だ。選んだ理由についてそれぞれが述べ、共有を図った。その後、「次期かわさき教育プラン」のキープロジェクトから、川崎市の今後目指す教育についても第４期教育振興計画を基に考えを出し合った。また、自校の現状や課題についても意見交換を行った。話合いから、来年度の学校経営方針の中に「７ 多様的な教育ニーズへの対応と社会的包摂」を取り入れて行こうということとなった。そのためには、何をすべきかをこれから考えていくことを共通認識した。

②Ｂ校

教育政策の目標について、三者とも「１」「２」を選び、あと一つが、「６」「11」「12」に分かれた。市教委の働き方改革の研修での資料では授業づくりに時間がかかっている実態が見られる。職員が丁寧に授業準備をしていることもあるが、クラスより学年で教材研究ができると解消していくのではという意見が出された。そのためには、やはり「11」「12」の充実があり、そこから、「６」も進むのではないかと考えた。

③Ｃ校

「１・７」を三者とも選んでおり、学力及び様々な背景がある子どもたちの多様なニーズに応えることを大切にすべきという考えが一致した。後の一つは「２・３・９」と分かれていたが、児童や地域の現状から「２」とまとまった。「１・２・３」は、学校教育で大切にされてきた「知徳体」に通じる普遍的なものだが、「３」をおいても学校の実情として「７」は外せないと考えた。教育振興基本計画に従って、今後は「１・２・７」を基盤の考えとした上で、教師の働き方やＧＩＧＡ端末の活用なども重点としていきたいと話し合った。

３．考察

各研修、各学校での取組の後、支部校長会で今回の研究についての意見交換を行った。その中で16の「教育政策の目標」のうち、「１ 確かな学力の育成」「２ 豊かな心の育成」「３ 豊かな心身の育成」については、どの学校でも学校教育目標に入れ込んでいるような、教育の基礎となっているものであり、どの学校でも取り組んでいるものであると確認した。

また、すべての「教育政策の目標」を等しく重視することは難しいため、自校の特色や課題（学校が抱える強み・弱み、地域性、児童構成等）を踏まえて優先順位を決めつつ、バランスをとっていくことが大切だという意見が出された。

校長「目標の重点化を図り、学校の実態に即したビジョンを描く」、教頭「現場に目標・ビジョンを落とし込み、業務調整や・環境整備を進める」、教員「自分の授業や教育活動に即して無理なく実践できる形にする」というものが一般的な役割であるが、役割を超えた話し合いにより、新しい発想が生み出されたり、多くの共有ができたりすることが確認できた。

教育振興基本計画等、国や川崎市の施策を十分理解した上で自校の現状と課題を捉え、その強みを生かしながら妥当性のある学校運営方針を校長が中心となって全職員が考えていくことが大切であるという結論に至った。

Ⅲ　おわりに

第４期教育振興基本計画は、子どもたち一人一人の力を伸ばし、社会全体で学びを支える大きな方向性を示している。それを実現するためには、管理職による的確な重点化・環境整備と職員一人一人の共通理解と協働が不可欠だと考える。今回の研究では、校長・教頭・教職員が「第４期教育振興基本計画」という同じ認識のもとそれぞれの立場での考えを出し合うことが役割を越えた協働に繋がり、新しい発想をもった学校づくりの柱となってくることが見えてきた。今後も今回の研究の検証を重ね「管理職・職員で共に考えるこれからの学校づくり」について考えていきたい。

また、今回の研究では支部教頭会と研究テーマを同じにしながら、研究方法や検証結果を交換するなどして進めた。今後、リーダーシップ研修に支部校長・支部教頭から参加者を出し、これからの学校づくりについて話合いをする予定である。今回の合同の研究により、各学校で行われる取組もスタートがスムーズに行えるようになるだろうと期待している。

川崎市立小学校
学校経営研究会規程

第１章　総　　則

第１条　本会は川崎市立小学校学校経営研究会と称し、本部を会長在任校におく。

第２条　本会は川崎市立小学校長をもって組織する。

第３条　本会は会員相互が連結提携し、小学校長としての機能の向上につとめ本市小学校の充実発展をはかることを目的とする。

第４条　本会は前条の目的を達成するため次の活動を行う。

１．職能向上に関すること
２．教育条件の整備に関すること
３．連絡情報交換に関すること
４．教育的行事の推進に関すること
５．現職教育活動に関すること
６．渉外活動に関すること
７．その他本会の目的達成に必要な事項

第２章　役員・会計監査・支部長・座長

第５条　本会に下記の役員・会計監査・支部長・座長を置く。

１．会　　長　　１名
２．副　会　長　　３名
３．書　　記　　２名
４．会　　計　　２名
５．会 計 監 査　　３名
６．支部長・座長　　20名
（支部長７名・座長13名）

第６条　会長・副会長・会計監査は総会において選出し、書記・会計・座長は会長の指名、支部長は支部において選出する。

第７条　会長は本会を代表し会務を掌理し、会議を招集する。
副会長は会長を補佐し、会長事故があるときはその代理をする。書記・会計は庶務会計を掌る。会計監査は会計を監査する。支部長・座長は会務を分掌しその執行にあたる。

第８条　会役員の任務は一か年とする。但し再選は妨げない。

第９条　本会は年一回定期総会を開き下記事項を処理する。

１．役員の選出
２．会計会務に関する件
３．その他　重要な事項
但し必要あるときは臨時総会を開くことができる。

第10条　役員会は随時これを開く。

第３章　会　　計

第11条　本会の会費は年間4,000円とする。

第12条　本会の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

附　則

１．この規程は総会において出席会員の過半数の同意をもって改正することができる。
２．この規程は昭和47年４月１日より実施する。

改正　昭和48年４月１日
改正　昭和57年４月１日
改正　平成７年２月14日
改正　平成17年４月１日
改正　平成27年２月26日

編集後記

今冬は、寒気団の影響により冷え込みの厳しい冬となりました。桜の花芽もここ数年のうちでは最も遅い開花となりそうです。令和７年度も残すところあと僅かとなりました。

この小学校長会報も、おかげさまで年を重ね、第61号を発行する運びとなりました。ご多用の中、川崎市教育委員会教育長　落合　隆様より玉稿を賜るとともに、諸先輩方や会員の皆さま方から原稿をお寄せいただきましたことに、深く感謝申しあげます。この会報は、川崎の小学校を牽引されてきた校長先生方の努力と知恵の継承であり、その時々の教育課題に真摯に向き合ってきた貴重な記録でもあります。

さて、社会が急激に変化する中で、学校教育はどのように変化していくのでしょうか。令和７年９月には、文部科学省の検討部会が「次期学習指導要領」に向けた論点整理を出しました。そこには、時代を越えて変わらない本質（不易）を大切にしつつ、新しい変化（流行）を取り入れていこうとする、「不易と流行」の理念があると感じられます。

次期学習指導要領を貫く「３つの方向性」は次のようなものです。

1　質の高い学び（Excellence）
　「主体的・対話的で深い学び」をより進化させ、子供たちが自分なりに答えを導き出すプロセスが重視されます。

2　多様性の包摂（Equity）
　「一人一人に合わせる」ことを当たり前にし、個別最適な学びの環境が整えられます。

3　実現可能性の確保（Feasibility）
　「学校現場で実際に実行できなければ意味がない」という視点で、働き方改革やデジタル化を推進するという考えです。

校長会といたしましても、今まで取り組んできたことの成果を変わらないもの（不易）として大切にするとともに、2030年に実施予定となっている新学習指導要領についてさらに研究を深め、新しい変化（流行）に対応していかなければならないと考えております。

校長会の活動を記録しているこの会報が、新しい時代の教育の指標となるとともに、退会会員の皆さまと現役会員や新会員との架け橋となることを願いながら、今後も一層充実した編集を目指してまいります。

今後とも皆さまのご指導とご協力を賜りますよう、お願い申しあげます。

令和８年３月

情報研究会議

会　報　61号

印　刷　　令和８年３月
発行日　　令和８年３月
発　行　　川崎市立小学校長会

印刷所　　㈲中溝グラフィック
ＴＥＬ　　０４４（３３３）２７８７